



Kofax TotalAgility インストールガイド

バージョン: 8.0.0

日付: 2024-03-13

TUNGSTEN
AUTOMATION
FORMERLY KOFAX

© 2024 Tungsten Automation. All rights reserved.

Tungsten and Tungsten Automation are trademarks of Tungsten Automation Corporation, registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Tungsten Automation.

目次

序文.....	11
TotalAgility ドキュメント.....	11
完全なドキュメント セット.....	11
オフライン ドキュメント.....	15
トレーニング.....	19
Kofax 製品のヘルプの入手.....	19
第 1 章：インストールの計画.....	20
システム要件.....	20
前提条件.....	20
SQL.....	20
Transformation Server.....	21
Transformation Designer.....	21
ドキュメント コンバータ.....	21
レポート.....	21
Micro Focus Content Manager.....	21
Dynamics AX.....	22
Dynamics CRM.....	22
Dynamics 365 CRM.....	22
Kofax Message Connector.....	22
Kofax SignDoc.....	23
Kofax VRS Elite.....	23
KCM プロキシ.....	23
Repository Browser.....	23
Web Capture サービス.....	23
Scan Agent Service.....	24
ライセンス.....	24
同時ユーザー ライセンス.....	24
予約済みライセンス.....	25
TotalAgility でライセンスをアクティブ化する.....	25
自動回復.....	25
Kofax TotalAgility ライセンス サービスの管理者以外のサービス アカウントのセット アップ.....	26

Kofax VRS Elite のライセンス.....	27
ライセンス プロキシ.....	28
ユーティリティ.....	28
インストール タイプ.....	29
データベースのみ.....	29
データベースのアップグレード.....	30
Web サーバー.....	30
アプリケーション サーバー.....	30
Web およびアプリケーション サーバー.....	30
リアル タイム Transformation サービス.....	30
データベースの手動インストール.....	31
データベースを手動でインストールする.....	31
アーティファクトのインポート.....	34
インストール後の構成.....	34
ログオン モード (認証設定).....	35
第 2 章 : TotalAgility のインストール.....	36
TotalAgility のサイレント インストール.....	36
データベースのみのサイレント インストール.....	36
データベースをアップグレードするためのサイレント インストール.....	42
同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール.....	47
異なるサーバーへの Web とアプリケーションのサイレント インストール.....	59
リアル タイム Transformation Server のサイレント インストール.....	62
TotalAgility の標準インストール.....	71
高速インストール.....	72
データベースのみの標準インストール.....	73
データベースをアップグレードするための標準インストール.....	76
異なるサーバーへの Web とアプリケーションの標準インストール.....	77
同じサーバーへの Web およびアプリケーションの標準インストール.....	87
リアル タイム Transformation Server の標準インストール.....	95
非標準ポートへの TotalAgility のインストール.....	97
バインドの編集.....	98
ベース アドレスの更新.....	98
言語パックのインストール.....	99
.NET Framework 言語パックをインストールする.....	99
ウイルス対策スキャンからのフォルダの除外.....	99

EVRSCheck ユーティリティの実行.....	102
第 3 章 : Docker コンテナでの TotalAgility のインストール.....	103
概要.....	103
制限事項.....	103
前提条件.....	104
Windows サーバーへの Docker のインストール.....	104
Docker でのイメージ品質の分析、モバイル ID、およびモバイル カード キャプチャの使用.....	105
TotalAgility Docker コンテナ イメージの作成.....	106
Docker でのサイレント インストール.....	107
デモ.....	107
アプリケーション サーバー (コア サービスと Core Worker).....	109
アプリケーション サーバー (コア サービスのみ).....	110
Web サーバー.....	111
Web サーバーとアプリケーション サーバー (コア サービスと Core Worker).....	111
Web サーバーとアプリケーション サーバー (コア サービスのみ).....	112
レポート サーバー.....	113
ライセンス サーバー.....	114
Transformation Server.....	115
リアル タイム Transformation サービス.....	117
Docker コンテナの実行.....	118
TotalAgility へのアクセス.....	120
Message Connector へのアクセス.....	120
便利な Docker コマンド.....	121
シークレットの使用.....	122
Kubernetes Secrets.....	122
Docker Secrets.....	123
AWS Secrets.....	124
SSL 証明書をコンテナにインポートする.....	129
IIS および SQL Server で Windows 認証の使用.....	130
IIS および SQL Server での Windows 認証の使用.....	130
第 4 章 : Transformation Server バンドルのインストール.....	134
前提条件.....	134
Transformation Server のユーザー アカウント.....	135
Transformation Server のサイレント インストール.....	135
Transformation Server の標準インストール.....	137

構成ファイルの暗号化および復号化.....	140
Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe の使用.....	140
構成ファイルの復号化.....	142
構成ファイルを編集する.....	143
NLP 言語パックを手動でインストールする.....	144
サイレント インストールを使用した Transformation Server のアップグレード.....	145
Transformation Server をアンインストールする.....	145
第 5 章 : Transformation Designer のインストール.....	146
前提条件.....	146
Transformation Designer のサイレント インストール.....	146
Transformation Designer の標準インストール.....	147
Transformation Designer への Oracle ドライバーのインストール.....	147
Transformation Designer のヘルプのアップグレード.....	148
HTTPS 通信用の Transformation Designer の構成.....	148
Transformation Designer をアンインストールする.....	149
サイレント モードを使用する場合.....	149
インストール ウィザードを使用する場合.....	149
第 6 章 : Message Connector のインストール.....	150
前提条件.....	150
システム制限.....	150
Message Connector の複数インスタンスのサイレント インストール.....	151
Message Connectors インスタンスのアップグレード.....	152
第 7 章 : レポート サーバーのインストール.....	153
前提条件.....	153
レポート サーバーのサイレント インストール.....	153
レポート サーバーの標準インストール.....	154
レポート サーバーをアンインストールする.....	155
第 8 章 : KCM プロキシのインストール.....	157
前提条件.....	157
KCM プロキシのサイレント インストール.....	157
KCM プロキシの標準インストール.....	157
KCM プロキシの Docker インストール.....	158
TotalAgility Web.config に含まれる KCM サーバー URL の更新.....	158
手動での KCM サーバー URL の更新.....	158
構成ユーティリティを使用する.....	159

KCM プロキシを手動でインストールする.....	159
第 9 章 : TotalAgility ライセンス プロキシのインストール.....	160
前提条件.....	160
ライセンス プロキシのサイレント インストール.....	160
ライセンス プロキシの標準インストール.....	161
TotalAgility ライセンス プロキシ情報を変更する.....	162
第 10 章 : Kofax Web Capture Service のインストール.....	164
デフォルトの場所への Web Capture サービスのインストール.....	164
カスタムの場所への Web Capture サービスのインストール.....	164
Web Capture サービスを Windows サービスとしてインストールする.....	164
マルチユーザー環境での Web Capture サービスの使用.....	165
MS ターミナル サーバーでの Web Capture サービスの使用.....	165
Citrix で Web Capture サービスを使用する.....	165
Web Capture サービスをアップグレードする.....	165
第 11 章 : Kofax Scan Agent Service のインストール.....	167
前提条件.....	167
Scan Agent Service に使用するサービス アカウント.....	167
Scan Agent Service の標準インストール.....	168
Scan Agent Service を使用したスキャン.....	168
第 12 章 : Kofax VRS Elite のインストール.....	170
VRS Elite のインストール.....	170
Kofax VRS Elite を TotalAgility Scan Client と共に使用する.....	171
第 13 章 : TotalAgility 構成.....	172
HTTPS 通信用の TotalAgility の構成.....	172
IIS の TotalAgility アプリケーションに対する SSL の有効化.....	172
TotalAgility 構成ファイルの更新.....	173
高可用性のための TotalAgility の構成.....	177
iPad または iPhone を経由した TotalAgility へのアクセス.....	177
フェデレーション セキュリティを使用する場合の共通のマシン キーの生成.....	178
TotalAgility 構成ファイルの暗号化および復号化.....	178
構成ファイルのリスト.....	179
Web.config の暗号化と復号化.....	180
実行可能ファイルの構成ファイルの暗号化および復号化.....	181
Docker コンテナ内の構成ファイルの暗号化.....	184
TotalAgility 構成設定の編集.....	184

パラメータ値の更新.....	185
ライセンス サーバーの設定の更新.....	185
エクスポート垂直スケーリングのサポート.....	186
クロス サイト リクエスト フォージェリ (CSRF) 対策.....	187
格納型クロスサイト スクリプティングの脆弱性を防ぐために設定を更新する.....	188
エクスポート アクティビティの待機時間の更新.....	191
手動認証の設定の更新.....	191
混合認証の設定の更新.....	193
TotalAgility リンク済みサーバーの設定の更新.....	194
統合ログを有効にするために設定を更新する.....	195
カスタム ジョブ スレッド プールを追加する.....	198
手動で行う.....	198
構成ユーティリティを使用する.....	199
スレッド プールの監視間隔を追加する.....	199
手動で行う.....	199
構成ユーティリティを使用する.....	200
パフォーマンス監視カウンタを追加する.....	200
第 14 章 : TotalAgility と Microsoft Dynamics CRM の統合.....	202
前提条件.....	202
Dynamics CRM のインストール.....	202
Dynamics CRM の Web.config を更新する.....	203
CRM 仮想ディレクトリの Web.config を更新する.....	204
第 15 章 : TotalAgility と Microsoft Dynamics AX の統合.....	206
前提条件.....	206
標準インストール.....	206
TotalAgility Web サービスへの Dynamics AX サービス参照を作成する.....	207
TotalAgility Web サービスへの Dynamics AX 09 サービス参照を作成する.....	207
TotalAgility Web サービスへの Dynamics AX 12 サービス参照を作成する.....	208
Dynamics AX で参照を追加する.....	208
Dynamics AX 09 の場合.....	208
Dynamics AX 12 の場合.....	208
TotalAgility に Dynamics AX 2012 R2 サイトを追加する.....	209
TotalAgility コネクタ クラスを Dynamics AX にインポートする.....	209
データベース X++ イベント メソッドの編集.....	210
データベース ログ イベントを登録する.....	210

アプリケーション プール アカウントの確認.....	211
第 16 章 : TotalAgility と Micro Focus Content Manager の統合.....	212
前提条件.....	212
ソフトウェアをインストールする.....	212
Content Manager SDK のバージョンを特定する.....	212
Micro Focus Content Manager サーバーのセットアップ.....	213
TotalAgilityTrimCommunicatorService をインストールして構成する.....	213
Content Manager バージョンでのイベント ハンドラの構成.....	215
第 17 章 : TotalAgility と Kofax SignDoc の統合.....	218
Kofax SignDoc サーバーをセットアップする.....	218
第 18 章 : TotalAgility の起動.....	219
TotalAgility Workspace の起動.....	219
TotalAgility Apps の起動.....	219
第 19 章 : TotalAgility インストールの修復.....	220
第 20 章 : TotalAgility をアンインストールする.....	221
サイレント モードを使用する場合.....	221
インストール ウィザードを使用する場合.....	221
第 21 章 : TotalAgility のアップグレード.....	223
サイレント アップグレード プロセス.....	223
インタラクティブなアップグレード プロセス.....	225
キャプチャ バイナリ データ ストレージの変更.....	226
データベース スクリプトを使用した TotalAgility データベースの手動アップグレード.....	227
第 22 章 : トラブルシューティング.....	229
TotalAgility AppPool が存在する.....	229
ソフトウェア更新プログラムのダウンロード.....	229
IPv4 および IPv6 環境でのインストールの失敗.....	229
スキャン後に Workspace にイメージが表示されない.....	230
Transformation Designer プロジェクトのインポート時の例外.....	231
(405) 許可されていないメソッド エラー.....	232
MIME のタイプ エラー.....	232
付録 A : 一般的な用語.....	233
コア サービス.....	233
レポート サービス.....	233
ライセンス サービス.....	233
エクスポート サービス.....	233

Transformation サービス.....	233
インポート サービス.....	234
ストリーミング サービス.....	234
キャプチャ バイナリ データ ストレージ.....	234
FILESTREAM.....	234
KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.log.....	235
ETL.....	235
L2S.....	235
ステージング データベース.....	235
wsa_messages テーブル.....	235
wsa_message.....	236
Kofax.CEBPM.Reporting.AzureETL.exe.....	236
ETL 反復.....	236
ウェアハウス データベース.....	236
完了したバッチ セッション.....	236
Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe.....	236

序文


このガイドには、次のような Kofax TotalAgility 8.0.0 のインストール手順が含まれています。


- Kofax TotalAgility のインストールに役立つ準備、決定、注意事項、設定、およびヒント。
- サイレント モードで、またはクライアント/サーバー構成やスタンドアロン構成でウィザードを使用して Kofax TotalAgility をインストールする手順。
- Kofax TotalAgility を使用した、その他の Kofax 製品のインストールに関する情報。
- インストール後のさまざまな TotalAgility 構成ファイルの更新に関する情報。

このガイドには、以前のバージョンから Kofax TotalAgility 8.0.0 にアップグレードする手順も記載されています。Kofax TotalAgility 8.0.0 をインストールする前に、このガイドをしっかりと読んでください。

TotalAgility ドキュメント

オンラインで完全なドキュメント セットにアクセスするには、Kofax TotalAgility 8.0.0 [製品ドキュメント ページ](#)を参照してください。

製品のインストール済みバージョンのオンライン ヘルプを起動するには、アプリケーションの [ヘルプ] アイコン  をクリックします。

 TotalAgility 8.0.0 を以前のバージョンからアップグレードするときに、Workspace ヘルプをオンラインで表示するには、[システム Workspace パッケージのインポート] チェック ボックスが選択されていることを確認してください。選択されていない場合は、TotalAgility Workspace パッケージから WorkspaceHeader フォームをインポートする必要があります。

Kofax TotalAgility ドキュメントには、オンラインおよび[オフライン モード](#)でアクセスできます。

完全なドキュメント セット

TotalAgility ドキュメントの完全なセットには、次の項目が含まれています。

ガイド/ヘルプ	説明
管理者ガイド	TotalAgility インストールの構成と保守を担当する管理者向けの情報を提供します。

ガイド/ヘルプ	説明
API Documentation (API ドキュメント)	非推奨のメソッドを除く対応 API の詳細、各サービスの対応メソッド、必須フィールド、フィールド タイプ、列挙型を含むすべての入出力、それぞれのメソッドに関する特別な情報、コーディング例、関連する詳細が含まれています。
アーキテクチャ ガイド	オンプレミス、オンプレミス マルチテナンシー、および Azure 環境へのさまざまな展開を含む、TotalAgility アーキテクチャの概要について説明します。
ベスト プラクティス ガイド	TotalAgility を使用する場合に、パフォーマンス、コスト、メンテナンス、可用性、およびセキュリティを改善するためベスト プラクティスについて説明します。
構成ユーティリティ ガイド	構成ユーティリティを使用して、さまざまなインストールおよび展開の種類さまざまな構成ファイルの設定を更新する手順について説明します。
Designer ヘルプ	TotalAgility Designer を使用した、ビジネス ジョブとケースの設計、リソースの割り当て、フォームの作成、外部アプリケーションとの結合などに関する詳細を提供します。
機能ガイド	TotalAgility の機能の概要を示します。
インストール ガイド	TotalAgility をインストールし、他の製品と統合する方法について説明します。
統合サーバー インストール ガイド	TotalAgility 統合サーバーをインストールし、他の製品と統合する方法について説明します。
オンプレミス マルチテナント インストール ガイド	TotalAgility オンプレミス マルチテナント システムのインストールと構成について説明します。
前提条件ガイド	TotalAgility をインストールするためのシステム要件、前提条件ユーティリティの実行手順、さまざまなインストール タイプに応じたソフトウェア チェックリストが含まれています。
レポート テーブル	TotalAgility のキャプチャ クライアント アクティビティに関連する情報を格納するレポート データ ウェアハウスのディメンション テーブルとファクト テーブルについて説明します。
レポート ビュー	レポートに用意されているサンプル ビューについて説明します。
Analytics の一覧表	Analytics for TotalAgility で使用されている TotalAgility のテーブルおよびフィールドについて説明します。
テナント管理システム ヘルプ	TotalAgility オンプレミス マルチテナント システムを使用してテナントを作成および管理する方法について説明します。
テナント管理システム インストール ガイド	TotalAgility テナント管理システムのインストール手順を提供します。

ガイド/ヘルプ	説明
TotalAgility Apps のヘルプ	<p>トレーニングをほとんど受けていない、またはまったく受けていないシチズン デベロッパーがワークフローを構成し、項目をキャプチャできるようにするための TotalAgility Apps アプリケーションの使用方法に関する詳細を提供します。『TotalAgility Apps のヘルプ』には、次のアプリケーションのヘルプがカプセル化されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビジネス データ • インポート • Kofax Copilot • Quick Capture • Quick Classification • Quick RPA • Quick Rules • Quick Skins • Quick Workflow
Web Capture コントロール ヘルプ	<p>Web Capture コントロールを使用した、複数ページのドキュメントの作成、新しいフォルダでの新しいドキュメントの作成、誤ってスキャンされたページの削除などに関する詳細を提供します。また、Web Capture コントロール ツールバーで使用可能なボタンについても説明します。</p>
Workspace ヘルプ	<p>TotalAgility を使用した、ビジネス ジョブとケースの設計、リソースの割り当て、フォームの作成、外部アプリケーションとの結合などに関する詳細を提供します。</p>
その他のドキュメント	
キャプチャ アクティビティに関するキャプチャクライアントのヘルプ	<p>TotalAgility でキャプチャ アクティビティを使用するためのヘルプを提供します。次のヘルプシステムが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ドキュメント レビュー アクティビティのヘルプ • スキャン アクティビティのヘルプ • スキャン新規ジョブ作成フォームのヘルプ • 検証アクティビティのヘルプ • 確認アクティビティのヘルプ
デバイス ヘルプ	<p>TotalAgility に接続されたデバイスを管理するための詳細を提供します。</p>
ドキュメント コンバータのヘルプ	<p>ドキュメント変換、XFA フォームを PDF 形式に変換するために使用される Adobe Experience Manager 出力サーバーへの接続、ログ ファイルとトレースに使用するツールを決定するパラメータを構成する方法について説明します。</p>
エクスポート コネクタのヘルプ	<p>エクスポート コネクタを管理し、ドキュメント タイプのエクスポート コネクタを設定する手順について説明します。</p>

ガイド/ヘルプ	説明
KC/KTM Converter Help (KC/KTM コンバータのヘルプ)	TotalAgility で使用できるように、Kofax Capture および Kofax Transformation Modules プロジェクトを正しい形式に変換する方法について説明します。
Kofax Front Office Server .NET Restful Web Service API (Kofax Front Office Server .NET Restful Web サービス API)	Kofax Front Office Server .NET Restful Web Service API のドキュメントを提供します。
Kofax Front Office Server .NET Legacy API (Kofax Front Office Server .NET レガシー API)	Kofax Front Office Server .NET Legacy API のドキュメントを提供します。
Message Connector のヘルプ	Kofax Message Connector を構成して使用する方法について説明します。
MFP スタート パック スタート ガイド	TotalAgility を使用して MFP スタート パックをインポートして処理する方法について説明します。
デバイス用の MFP 管理者ガイド	TotalAgility で動作するように MFP デバイスを準備する方法を説明します。次のデバイスの管理者ガイドを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Canon MEAP • Canon ScanFront • Emulator • Fujitsu • HP • Konica Minolta • Kyocera • Lexmark • Ricoh • Xerox
MFP Web Services Connector SDK Developer's Guide (MFP Web サービス コネクタ SDK 開発者ガイド)	MFP Web Services Connector Software Developer Kit (SDK) を使用して入力を開発するための概要と手順を提供します。このガイドとともに、SDK は Web サービスのドキュメントを提供します。
Repository Browser のヘルプ	Repository Browser を使用して、一連のフォルダとドキュメントの抽出結果を表示する方法について説明します。
Search and Matching Server ドキュメント	リモート サイトにある大量のデータに対するさまざまな Kofax アプリケーションからの検索要求を処理する Kofax Search and Matching Server のドキュメントを提供します。
Transformation Designer のヘルプ	Transformation Designer を使用して、ドキュメントの処理に必要なすべての情報を含むプロジェクトを設定、保存、およびテストする方法について説明します。
Transformation Designer Scripting Help (Transformation Designer スクリプトのヘルプ)	WinWrap Basic Editor の概要と、利用可能なスクリプト イベントの概要を提供します。

ガイド/ヘルプ	説明
XDoc Browser のヘルプ	XDoc Browser (TotalAgility で使用されるドキュメント表現への直接アクセスを提供するプログラム) の使用に関するヘルプを提供します。XDoc Browser を使用すると、XDoc を開いて参照イメージとともに表示し、テスト、デモンストレーション、およびデバッグの目的で使用できます。
	ドキュメントは製品ドキュメント ページでのみ使用可能です (オフライン ドキュメント パッケージでは使用できません)。
TotalAgility のフェデレーションセキュリティ	TotalAgility でのクレームベースの ID に関する情報を提供します。
リリース ノート	TotalAgility 8.0.0 の新機能と拡張機能、および動作の変更に 関する重要な詳細が含まれています。また、このバージョンの TotalAgility の既知の問題と解決済みの問題も示します。
技術仕様	TotalAgility の技術仕様を提供します。
キャプチャ スタート パックのチュートリアル	最小限の設定ですぐに TotalAgility ジョブを作成および処理できる、 定義済みの TotalAgility ソリューションのテストを行うことができます。
データ オブジェクトのチュートリアル	データ オブジェクトを使用したソリューションの作成と、データ オブジェクトと RESTful サービスを使用したデータの作成と更新 を行う方法に関する情報を提供します。
オンライン ラーニングのチュートリアル	ドキュメントの分類と抽出にオンライン ラーニングを使用するマ シン ラーニング プロジェクトを作成する方法について説明しま す。
Quick Workflow のチュートリアル	ワークフローをすばやく作成し、完全に機能する TotalAgility ソ リューションを使用開始できるようにする方法に関する情報を提 供します。

オフライン ドキュメント

オフラインのドキュメントが必要な場合は、[Kofax Fulfillment Site](#) (Kofax フルフィルメント サイト) からドキュメントをダウンロードできます。言語ごとに、個別のドキュメント パッケージを圧縮ファイルとしてダウンロードできます (英語は TotalAgilityDocumentation_8.0.0_EN.zip、フランス語は TotalAgilityDocumentation_8.0.0_FR.zip など)。

英語と日本語の .zip ファイルには、help と print の両方のフォルダが含まれています。print フォルダには、インストール ガイドや管理者ガイドなどの PDF ガイドが含まれています。他の言語の .zip ファイルには、限定されたローカライズされたファイルのセットが含まれています。

次の手順は、英語の TotalAgility ドキュメントにオフラインでアクセスする方法を示しています。

1. Kofax フルフィルメント サイトから、英語などの該当する言語の documentation.zip ファイルをダウンロードします。
2. 圧縮されたドキュメント ファイルの内容をローカル マシンに抽出します。

3. TotalAgility 製品インストール ファイルの Agility.Server.Web\Help フォルダ内に、目的の言語のフォルダを作成します。たとえば、英語版の TotalAgility ドキュメントにオフラインでアクセスするには、次のように EN フォルダを作成します。

i 分散環境では、Web サーバーでファイルをコピーし、アプリケーションサーバーおよび Web サーバーで Web.config の変更を適用します。


フォルダの内容をコピーします	内容をフォルダに貼り付けます
Designer	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help \TotalAgility_designer\EN <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i TotalAgility インストーラによって、Help フォルダ内に TotalAgility_designer フォルダと API フォルダが作成されません。Workspace や TotalAgilityApps など、その他のフォルダを手動で作成してから、それぞれのフォルダに内容をコピーする必要があります。</p> </div>
デバイス	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\bin \Administrative\Help\Devices\EN
DocumentConverter	\\Kofax\Document Converter\web\en\WebHelp
ExportConnector	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help \ExportConnector_help\EN
KCKTM_Converter	<%ProgramData%>\Kofax\Transformation\en_US\help \KCKTM_Converter
MessageConnector	\\Kofax\KIC-ED\MC\web\en\WebHelp
RepositoryBrowser	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help \RepositoryBrowser\EN
SDK_Documentation	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help\API \EN
TenantManagementSystem	\\TotalAgilityInstall \Agility.Server.Web.TenantManagement \TenantManagement\Help\TenantManagementSystem\EN
TotalAgilityApps	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help \TotalAgilityApps\EN
TransformationDesigner	<%ProgramData%>\Kofax\Transformation\en_US\help \TransformationDesigner
WebCaptureControl	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help \WebCaptureControl\EN
Workspace	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help \Workspace\EN
XDocBrowser	<%ProgramData%>\Kofax\Transformation\en_US\help \XDocBrowser

フォルダの内容をコピーします	内容をフォルダに貼り付けます
CaptureClient 内のアクティビティ フォルダ 例: DocumentReviewActivity	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Forms \Controls\Capture\Help\DocumentReviewActivity\EN

4. インストール フォルダに移動します。

このヘルプを使用するには、	次の手順を実行します。
<ul style="list-style-type: none"> • TotalAgility Designer • デバイス • Transformation Designer • XDoc Browser • KC_KTM Converter 	<p>a. テキスト エディタで、次の場所にある TotalAgility Web.config を開きます。</p> <pre>\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web</pre> <p>b. <appSettings> セクションを見つけ、キー値から <code>http://docshield.kofax.com/KTA</code> を削除します。<add key="OnlineHelpURL" value="http://docshield.kofax.com/KTA"/>。</p>
TotalAgility エクスポート コネクタ	<p>a. テキスト エディタで、次の場所にある Agility.Server.ExportConnector.exe.config を開きます。</p> <pre>\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\bin</pre> <p>b. <appSettings> セクションを見つけ、キー値から <code>http://docshield.kofax.com/KTA</code> を削除します。<add key="OnlineHelpURL" value="http://docshield.kofax.com/KTA"/>。</p> <p>または、構成ユーティリティ (TotalAgility 製品インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall\Utilities \ConfigurationUtility から入手可能) を実行し、OnlinehelpURL 設定からオンライン ヘルプの URL を削除します。</p> <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i Transformation Designer、XDoc Browser、KC_KTM コンバータのヘルプの場合は、TotalAgility が Transformation Designer にアクティブに接続されていることを確認します。TotalAgility を Transformation Designer に接続するには、Transformation Designer にログインして、[ファイル]> [接続] をクリックして接続パスを指定します。</p> </div>
TotalAgility Message Connector	<p>a. テキスト エディタで、次の場所にある configuration.xml を開きます。</p> <pre>\\Kofax\KIC-ED\MC\web</pre> <p>b. <OnlineHelp>1</OnlineHelp> セクションを見つけ、1 を 0 に置き換えます。</p>
TotalAgility ドキュメント コンバータ	<p>a. テキスト エディタで、次の場所にある configuration.xml を開きます。</p> <pre>\\Kofax\Document Converter\web</pre> <p>b. <OnlineHelp>1</OnlineHelp> セクションを見つけ、1 を 0 に置き換えます。</p>

5. 構成ファイルを保存して閉じます。

[ヘルプ] アイコン  をクリックすると、インストールされている製品のヘルプが起動されます。

トレーニング

Kofax は、製品を最大限に活用するために役立つクラスルーム トレーニングおよびオンライン トレーニングを提供しています。トレーニング コースとスケジュールの詳細については、Kofax の Web サイトにある [Kofax Education Portal](#) (Kofax エデュケーション ポータル) にアクセスしてください。

Kofax 製品のヘルプの入手

[\[Kofax Knowledge Portal \(Kofax ナレッジ ポータル\)\]](#) リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Portal で情報を検索することをお勧めします。

[Kofax Knowledge Portal] にアクセスするには、<https://knowledge.kofax.com> にアクセスしてください。

i [Kofax Knowledge Portal] は Google Chrome、Mozilla Firefox、または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

[Kofax Knowledge Portal] は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。
[Search (検索)] ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。
- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。
記事を見つけるには、Knowledge Portal のホームページにアクセスし、製品に該当するソリューション ファミリーを選択するか、[View All Products (すべての製品を表示)] ボタンをクリックします。

Knowledge Portal のホームページからは、次の操作を実行できます。

- Kofax Community (Kofax コミュニティ) へのアクセス (全カスタマー)。
[Resources (リソース)] メニューで、**[Community (コミュニティ)]** リンクをクリックします。
- Kofax Customer Portal (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (一部のカスタマーのみ)。
[\[Support Portal Information \(サポート ポータルの情報\)\]](#) ページに移動し、**[Log in to the Customer Portal (カスタマー ポータルにログイン)]** をクリックします。
- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (一部のパートナーのみ)。
[\[Support Portal Information\]](#) ページに移動し、**[Log in to the Partner Portal (パートナー ポータルにログイン)]** をクリックします。
- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフ サービス ツールへのアクセス。
[\[Support Details \(サポートの詳細\)\]](#) ページに移動し、適切な記事を選択します。

第1章

インストールの計画

この章では、システム要件、前提条件、ライセンスの詳細、および TotalAgility で使用するために統合できるさまざまなサードパーティ製品と Kofax 製品について説明します。

システム要件

製品ドキュメント ページ サイトの Kofax TotalAgility [技術仕様](#)ドキュメントを参照してください。

- サポートされているオペレーティング システムおよびその他のシステム要件について。
- ソリューションに複数の Kofax 製品が含まれている場合。

このドキュメントは定期的に更新されます。TotalAgility 製品を適切に使用するためには、このドキュメントを注意深くお読みください。

前提条件

- TotalAgility インストール ZIP ファイルを抽出する前に、ファイル プロパティ ウィンドウでファイルのブロックを解除します。
- TotalAgility をインストールする前に、前提条件ユーティリティを実行して、必要なすべてのソフトウェアはコンピュータにインストールされていることを確認してください。前提条件とさまざまなインストール タイプのソフトウェア チェックリストの詳細については、『Kofax TotalAgility 前提条件ガイド』を参照してください。
- TotalAgility をインストールするには管理者アカウントが必要です。
- TotalAgility を実行するユーザーには、「サービスとしてログオンする」権限が割り当てられている必要があります。
- IIS サービス アカウントで TotalAgility を実行するユーザーには、「バッチ ジョブとしてログオンする」権限が割り当てられている必要があります。

SQL

SQL サーバーと TotalAgility サーバーは、同じタイムゾーンで実行する必要があります。そうしないと、アクティビティが正しくリセットされないなどの予期しない問題が発生する可能性があります。

Transformation Server

Transformation Server は、TotalAgility をインストールするときにインストールできます。また、Transformation Server を別途インストールすることもできます。

Transformation Designer

Transformation Designer は通常、Kofax TotalAgility の完全インストールの一環としてインストールされます。Transformation Designer は、TotalAgility ビルド フォルダ内で TransformationDesignerInstaller.exe が使用可能な場合にのみインストールされます。

TotalAgility Designer のインストール時に Transformation Designer をインストールしなかった場合、または Transformation Designer を個別にインストールする場合は、Kofax TotalAgility インストール ファイルから入手可能なスタンドアロンの Transformation Designer インストーラを使用できます。インストールする前に、サポートされているバージョンの .NET Framework がそのマシンにインストールされていることを確認してください。

ドキュメント コンバータ

ドキュメント コンバータは、Transformation Server のインストール時に自動的にインストールされません。

レポート

Kofax Reporting は、運用メトリックと監査データの履歴を一元的に保管します。Kofax Reporting には、レポート サービスやデータベースなどのコンポーネントが含まれます。

i Transformation Server はプロセス利用率が高い (99%) ため、レポート サーバーを Transformation Server と同じマシンにインストールすると SQL タイムアウト エラーが発生します。そのため、レポート サーバーは Transformation Server とは分けてインストールする必要があります。

同じサーバー上に 2 つのレポート サービスを配置することはできません。ただし、レポート サービスを 2 つのサーバーにインストールして、同時に実行することはできます。

Micro Focus Content Manager

Micro Focus Content Manager と TotalAgility を統合できます。

Dynamics AX

Microsoft Dynamics AX と TotalAgility を統合できます。

Dynamics CRM

Microsoft Dynamics CRM と TotalAgility を統合できます。

Dynamics 365 CRM

Microsoft Dynamics 365 CRM と TotalAgility を統合できます。

Kofax Message Connector

Kofax Message Connector は、多くの電子形式のメッセージとファイルをインポートする Windows サービスです。次のいずれかの接続モードを使用して、ドキュメントを取得できます。

- **ストレージ モード:** 各種のソースからドキュメントを取得し、内部ストレージに保存して、Web サービス インターフェイスを使用して取得できるようにします。TotalAgility は、Message Connector Web サービス インターフェイスに接続し、インポートするドキュメントを取得します。
- **ダイレクト モード:** 各種のソースからドキュメントを取得し、TotalAgility に直接インポートします。

Kofax Message Connector では、次のような多くのソースからメッセージとファイルをインポートできます。

- さまざまな電子メール プロトコル (SMTP、POP3、IMAP、EWS) を使用した添付ファイルを含む電子メール メッセージ。
- FAX メッセージ (IP サーバー経由の内部 FAX、または Kofax Communication Server、RightFax、および Biscom などの外部 FAX サーバー経由の FAX)。
- ローカルまたはネットワーク フォルダのファイル。

ネットワーク共有から Kofax TotalAgility をインストールする場合は、ユーザーにネットワーク共有への書き込み権限が割り当てられていることを確認してください。この権限がない場合、Message Connector は正常にインストールされません。

Message Connector をインストールする場合は、TotalAgility をインストールする前に、インストール ファイルの次の場所にある SilentInstallConfig.xml で ImportService パラメータの値を true に設定する必要があります。

```
\\Program Files (x86)\Kofax\KIC-ED\MC
```

Message Connector の複数のインスタンスをインストールできます。 [「Message Connector の複数インスタンスのサイレント インストール」](#) を参照してください。

Kofax SignDoc

Kofax SignDoc と TotalAgility を統合して、署名の完了時にコールバックを発生させることができます。「SignDoc と TotalAgility の統合」を参照してください。

Kofax VRS Elite

VRS 認定スキャナとともに使用することでスキャンの生産性とドキュメント キャプチャの効率を大幅に高める、特許取得済みのイメージ再現ソフトウェア Kofax VRS Elite の使用を強くお勧めします。スキャナが VRS 認定されていない場合は、TotalAgility に含まれる Kofax イメージ処理技術を使用できます。ライセンス オプションの詳細については、「[Kofax VRS Elite のライセンス](#)」を参照してください。

KCM プロキシ

KCM プロキシは、Communications Manager でのインタラクティブな要求のために TotalAgility フォームで Kofax Communications Manager (KCM) コントロールを使用する場合に必要です。プロキシにより、TotalAgility Web サーバーと Kofax Communications Manager 間のセキュアなクロスドメイン通信が可能になります。

i KCM 機能を使用するには、使用中のすべての Web サーバーで KCM プロキシ インストーラを実行する必要があります。

Repository Browser

Kofax TotalAgility Repository Browser は、TotalAgility プロジェクトの開発とテストを支援することを目的としたユーティリティであり、データベースへの直接 SQL アクセスを使用します。そのため、本番環境や、大規模なデータセットに、このユーティリティを使用しないでください。

Web Capture サービス

Web スキャンを有効にするには、Kofax Web Capture Service をインストールします。Kofax Web Capture Service は、デフォルトの場所またはカスタムの場所にインストールできます。

Web Capture サービスは一度だけインストールする必要があり、サポートされているすべてのブラウザで Web スキャンが有効になります。ブラウザ経由でインストールする場合、インストールを完了するには管理者権限が必要です。

Web Capture サービスをインストールすると、「Interprocess」フォルダの下に一時ファイルが作成されます。ユーザーには、このフォルダへの読み取り/書き込みアクセス権が必要です。

Web Capture サービスはマルチユーザー環境で使用できます。

Scan Agent Service

Scan Agent Service は、スキャン オペレータが前のスキャン ジョブによるアップロードの完了を待たずに次のバッチに進むことができるようにする非同期アップロード機能です。

このサービスは、スキャン ステーションからメイン TotalAgility サイトへのネットワーク帯域幅に制限があるリモート スキャン シナリオで役立ちます。これにより、バックグラウンドでイメージのアップロードが実行されている間に物理的なスキャンを通常の方法で続行することができるため、スキャン オペレータの作業効率が向上します。

この機能は、スキャン新規ジョブ作成フォームでのみ使用できます。

スキャン新規ジョブ作成フォームでスキャン ステーションに Scan Agent Service がインストールされていることが検出された場合、自動的に非同期イメージ アップロード モードが使用されます。それ以外の場合、すなわち Scan Agent Service が検出されないときは、同期イメージ アップロード モードが使用されます。

デバイス新規ジョブ作成フォームの場合は、すべてのイメージがアップロードされるまでプロセスが待機してから最初のアクティビティに進むことを許可するように、プロセスの最初のアクティビティに [スキャン済み] > 0 という前提条件を追加する必要があります。

ライセンス

TotalAgility のライセンス キーは、アカウント マネージャーまたは Kofax サポートから入手します。

同時ユーザー ライセンス

同時ユーザー モデルでは、多くのユーザーが同時にシステムにログインできます。各ユーザー セッションは 1 つのライセンスを消費します。たとえば、1 人のユーザーが TotalAgility Designer と TotalAgility Workspace に同時にログインした場合、またはユーザーが Firefox と Chrome などの 2 つのブラウザで Designer にログインした場合、ユーザーは 2 つの同時ライセンスを消費します。ユーザーがセッションからログオフすると、該当するライセンスがライセンス サーバーによって自動的に解放されます。

予約済みライセンス

同時ユーザーの数が最大数に達すると、システムは使用可能な予約済みライセンスを自動的に確認します。予約済みライセンスが利用可能な場合は、新しいユーザーがログオンでき、利用可能な予約済みライセンスの数が1つ減ります。予約済みライセンスを管理する際は、次のポリシーに留意してください。

- 予約済みライセンスは、ライセンスの使用を開始してから7日後に有効期限が切れます。
- 各予約済みライセンスは、12か月の間に2回のみ使用できます。


同時ログイン数が上限に達し、予約済みライセンスがない状態でユーザーがログオンしようとする、システムではエラーメッセージが表示され、それ以上のユーザーはログオンできなくなります。

予約済みライセンスの有効期限が切れると、TotalAgility Designer と TotalAgility Workspace にエラーメッセージが表示されます。

TotalAgility でライセンスをアクティブ化する

ライセンスがアクティブ化されると、ライセンス期間が開始されます。そのため、インストール時はライセンスをアクティブ化せずに、TotalAgility を使用する準備が整ってからライセンスをアクティブ化することもできます。TotalAgility に初めてログオンした際にライセンスがアクティブ化されていない場合は、[ライセンス アクティベーション] ウィンドウが開きます。

1. [ライセンス アクティベーション] ウィンドウで [次へ] をクリックして、[ライセンス サーバー] と [ポート番号] のデフォルト値を受け入れるか、新しい値を入力します。
2. [ライセンス サーバーの設定] をクリックして、情報を保存します。
3. 詳細な手順については、「[同じサーバーへの Web およびアプリケーションの標準インストール](#)」の「ライセンス サーバーをアクティブ化する」の手順を参照してください。

 ライセンスの有効化で問題が生じた場合は、<http://www.Kofax.com/support/tools/> の Kofax サポートにお問い合わせください。

自動回復

TotalAgility のインストール時、サービス エラーが発生した場合に自動的に再起動するように Kofax ライセンス サーバー サービスを手動で構成できます。

1. **Service Control Manager** に移動します。
2. Kofax ライセンス サーバー サービスのプロパティを編集します。
3. **回復** タブに移動します。
4. 1 回目、2 回目、およびそれ以降の失敗後にサービスがどのように応答するかを指定するオプションを構成します。

変更を有効にするためにサービスを再起動する必要はありません。

i コマンド ラインでライセンスを構成することもできます。例: `sc.exe failure KSALicenseService actions= restart/660000/ restart/660000/"/660000 reset=86400`

Kofax TotalAgility ライセンス サービスの管理者以外のサービス アカウントのセットアップ

次のいずれかの方法を使用して、Kofax TotalAgility ライセンス サービスの管理者以外のサービス アカウントをセットアップできます。

- [手動で行う](#)
- [SAL をアンインストールしてから再インストールする](#)

手動で行う

管理者以外のユーザー アカウントを手動でセットアップするには、次の手順を実行します。

1. 管理者以外のユーザー アカウントを作成します。
2. サービスとしてログオンできるように、ユーザーをマシンのローカル ポリシーに追加します。
3. `netsh http` プロンプトで、`delete urlacl=<URL>` コマンドを実行して、登録されている URL を削除します。
既存の URL 予約が削除されます。
4. `netsh http` プロンプトで、`Add urlacl=<URL>` コマンドを実行して、登録されている URL を追加します。
5. URL ごとに `Add` コマンドを実行します。
6. Kofax ライセンス サービスを停止します。
7. 管理者以外のユーザーを SQL ログインに追加します。
8. 管理者以外のユーザーに次のアクセス許可を割り当てます: `datareader`、`datawriter`、およびメインの Kofax TotalAgility データベースに対する実行権限。
9. Kofax ライセンス サービス (Windows サービス) を実行しているアカウントを、管理者以外のユーザー アカウントに変更します。
これにより、新しいユーザーを使用するように SAL が再構成されます。
10. Kofax ライセンス サービスを開始します。
11. TotalAgility Designer または TotalAgility Workspace を起動してログオンします。
ログインが失敗すると、イベント ログにエラーが記録されます。ライセンス関連のエラーは、たとえば次のような理由で発生する可能性があります。
 - 管理者以外のユーザーに `datawriter` 権限がない場合。
 - HTTP による URL の登録ができなかった場合。

- 管理者以外のユーザーに対して URL が登録されていないため、プロセスにはネームスペースへのアクセス権限がない場合。

エラーを解決し、ライセンス サービスを再起動します。

SAL をアンインストールしてから再インストールする

次の手順に従って、SAL をアンインストールしてから再インストールし、管理者以外のユーザー アカウントをセットアップします。

1. 管理者以外のユーザー アカウントを作成します。
2. サービスとしてログオンできるように、ユーザーをマシンのローカル ポリシーに追加します。
3. service.exe 構成ファイルをバックアップします。
これにより、サービスで使用される Kofax TotalAgility データベース構成がバックアップされます。
4. SAL をアンインストールします。
既存の URL 予約が削除されます。
5. 管理者以外のユーザーを SQL ログインに追加します。
6. 管理者以外のユーザーに次のアクセス許可を割り当てます: datareader、datawriter、およびメインの Kofax TotalAgility データベースに対する実行権限。
7. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次のコマンドを実行して SAL を再インストールします。

```
Msiexec /i "SAL MSI へのパス" SALSVCUSER="<非管理者ユーザー名>" SALSVCPWD="<非管理者パスワード>" /qn
```
8. SAL サービスを停止します。
9. 手順 3 の exe 構成バックアップを復元します。
Kofax TotalAgility へのデータベース構成が復元されます。
10. SAL サービスを開始します。
11. TotalAgility Designer または TotalAgility Workspace を起動してログオンします。
ログインが失敗すると、イベント ログにエラーが記録されます。ライセンス関連のエラーは、たとえば次のような理由で発生する可能性があります。
 - 管理者以外のユーザーに datawriter 権限がない場合。
 - HTTP による URL の登録ができなかった場合。
 - 管理者以外のユーザーに対して URL が登録されていないため、プロセスにはネームスペースへのアクセス権限がない場合。

エラーを解決し、ライセンス サービスを再起動します。

Kofax VRS Elite のライセンス

VRS 認定スキャナと共に使用することでスキャンの生産性とドキュメント キャプチャの効率を劇的に高める、特許取得済みのイメージ再現ソフトウェア Kofax VRS Elite を強くお勧めします。お使いのスキャナが VRS 対応製品でない場合は、TotalAgility に含まれている Kofax イメージ処理技術を使用できます。

TotalAgility に含まれる Kofax VRS Elite ライセンスの数は限定されています。VRS で使用する予定のスキヤナの数によっては、追加のライセンスを購入する必要があります。スキヤナの VRS 認定およびライセンス要件を確認するには、[Kofax Scanner Configurator](#) を参照してください。

次のようないくつかの Kofax VRS ライセンス オプションを使用できます。

- **Kofax VRS Basic または Professional OEM:** 多くの業界標準スキヤナに含まれている Kofax VRS Basic または Professional OEM ライセンスが自動的にアクティブ化されます。これらのスキヤナに対するライセンスのアクティブ化は、Kofax VRS Elite にアップグレードする場合にのみ必要です。
- **スタンドアロン ワークステーション:** スタンドアロン ライセンスを手動でアクティブ化します。このライセンスは、非アクティブ化されるまでワークステーションに残ります。スタンドアロン ライセンスは、一度に 1 つのスキヤンステーションでのみアクティブ化できます。
- **TotalAgility ライセンス サーバー:** TotalAgility ライセンス サーバーから同時 VRS Elite ライセンスを一元管理します。TotalAgility ライセンス サーバーを通じて VRS ライセンスを一元管理するには、各 VRS ステーションがライセンス サーバーと直接通信するか、ライセンス プロキシを介して通信する必要がある場合があります。この構成は、スキヤナの数が多い場合に便利です。この構成では、VRS Elite 5.1.2 以降がインストールされていることを確認してください。

ライセンス プロキシ

TotalAgility ライセンス プロキシを使用すると、接続されていないスキヤンワークステーションやその他の TotalAgility コンポーネントが TotalAgility ライセンス サーバーからライセンスを取得できるようになります。

VRS ステーションまたはリンクされた TotalAgility サーバーからライセンス サーバーに直接アクセスできない場合は、TotalAgility ライセンス プロキシを使用します。たとえば、Azure を使用している場合やセキュリティ上の制限により、サーバーに直接アクセスできないことがあります。ライセンス プロキシを使用すると、ライセンス サーバーに直接アドレス指定する代わりに、TotalAgility Web サービスを介して TotalAgility ライセンス構成を使用できます。

ライセンス プロキシは、Microsoft Azure クラウドなど、複数のネットワークが論理的に分割されているネットワーク トポロジにも役立ちます。ライセンス プロキシを使用すると、ネットワーク A のコンピュータはネットワーク B の TotalAgility ライセンス サーバーを使用できるようになります。ライセンス プロキシは、TotalAgility Web サービス (HTTP/HTTPS 経由) を使用してライセンス サーバーと通信を行います。ライセンス サーバーとの間で HTTP/HTTPS トラフィックを送受信するには、ライセンス プロキシ コンピュータのインターネット接続が機能している必要があります。

「[TotalAgility ライセンス プロキシのインストール](#)」を参照してください。

ユーティリティ

次のユーティリティは、TotalAgility 製品のインストール ファイルから入手できます。

- **前提条件ユーティリティ:** TotalAgility をインストールする前にこのユーティリティを実行して、必要なすべてのソフトウェアがコンピュータにインストールされていることを確認します。詳細については、『Kofax TotalAgility 前提条件ガイド』を参照してください。

- **構成ユーティリティ:** TotalAgility をインストールした後にこのユーティリティを実行して、各ファイルを個別に編集するのではなく、複数の構成ファイルの設定を一度に変更または更新します。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。
- **Docker:** Docker は、アプリケーションを開発、配布、および実行するためのオープン プラットフォームです。Docker を使用すると、アプリケーションをインフラストラクチャから分割できます。Docker を使用することで、アプリケーションの管理と同じ方法でインフラストラクチャを管理できます。「Docker のインストール」を参照してください。
- **EvrCheck ユーティリティ:** このユーティリティを実行して、eVRS 設定が適用された後のイメージの外観をテストします。詳細については、「[EVRCheck ユーティリティの実行](#)」を参照してください。
- **Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe:** このユーティリティを使用して、実行可能ファイルの構成ファイルを暗号化および復号化します。「[TotalAgility 構成ファイルの暗号化および復号化](#)」を参照してください。

インストール タイプ

TotalAgility の標準インストールまたはサイレント インストールを実行できます。TotalAgility をインストールする場合は、標準インストールまたはサイレント インストールのタイプとして次のいずれかを指定します。

データベースのみ

Kofax TotalAgility のデータベース コンポーネントのみをインストールします。他のコンポーネントはインストールされません。

TotalAgility には次のデータベースが含まれています。

データベース	デフォルトのデータベース名	用途
メイン	TotalAgility	TotalAgility の主要部分 (ジョブ、アクティビティ、ライセンス、およびリソース) に必要なワークフロー データを保存します。
監査	TotalAgility	監査ログ データを保存します。
終了済みジョブ	TotalAgility	アーカイブされたジョブ ワークフロー データを保存します。
データ レイヤー	TotalAgility_Documents	キャプチャ フォルダとドキュメント データを保存します。
レポート	TotalAgility_Reporting	セッション、ドキュメント、イベント、フィールドに対して集計されたキャプチャ データの統計を保存します。データをロードするために ETL アルゴリズムと Kofax Analytics for TotalAgility で使用されるいくつかのユーティリティ テーブルも含まれます。

データベース	デフォルトのデータベース名	用途
ステージング	TotalAgility_Reporting_Staging	TotalAgility で記録された生の未処理のキャプチャレポートデータを保存します。処理が終了すると、このデータはレポート データベースに移動されます。

データベースのアップグレード

TotalAgility がローカルにインストールされていない場合は、すべてのデータベースを最新バージョンの TotalAgility にアップグレードします。

Web サーバー

任意のアプリケーション サーバーを指定するサーバーをインストールします。デフォルトのポート以外のコンピュータに TotalAgility をインストールする場合は、アプリケーション サーバーのマシン名とポート番号を入力する必要があります。たとえば、<appserver_name:82> のように入力します。Web サーバーの場合は、TotalAgility Designer と TotalAgility Workspace の SDK サービスおよびユーザー インターフェイスがインストールされます。

i TotalAgility は、Web/アプリ一体型サーバーを指す Web サーバーをサポートしていません。Web サーバーは、アプリ専用のサーバーを指している必要があります。Web/アプリ一体型サーバーを指す Web サーバーは引き続き動作する可能性があります、動作しない部分があります。たとえば、Web 層の Streaming Service は、Web/アプリ一体型サーバーの Streaming Service を指している場合には機能しません。

アプリケーション サーバー

リモート クライアントが接続するサーバーをインストールし、Web サーバーをセットアップします。アプリケーション サーバーの場合は、コア サービスのみがインストールされ、TotalAgility Designer と TotalAgility Workspace のユーザー インターフェイスおよびショートカットはインストールされません。

Web およびアプリケーション サーバー

1 つのコンピュータに Web サーバーとアプリケーション サーバーをインストールします。

リアル タイム Transformation サービス

リアル タイム Transformation サービスをインストールします。

データベースの手動インストール

データベースは、インストール時に自動的に作成することも、インストール前に手動で作成することもできます。メイン、監査、終了済みのデータベース用に単一のデータベースを作成するか、メイン、監査、終了済みのデータベースを個別に作成することができます。

デフォルトでは、ドキュメント リポジトリは独自のデータベースにインストールされます。ただし、スクリプトを実行して、メインの TotalAgility データベース内にドキュメント リポジトリのテーブルを作成することもできます。「[データベースの手動インストール](#)」を参照してください。

データベースを手動でインストールする

データベースを手動でインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のデータベースを確実に作成してください。
 - TotalAgility
 - 終了済みジョブ
 - 監査
 - TotalAgility_Reporting
 - TotalAgility_Reporting_Staging
 - TotalAgility_Documents
2. スクリプトのコメントを使用して、Initialise_Main.sql スクリプトを編集します。たとえば、次の項目を編集して、TotalAgility に最初にログオンするユーザーの詳細を更新します。
 - a. @NTNAME = 'INSTALL_NTUSERID'。INSTALL_NTUSERID をユーザー ドメインとユーザー ID で置き換えます。「DomainName \ USERA」のようになります。
 - b. @FULLNAME = 'INSTALL_FULLNAME'。INSTALL_FULLNAME をユーザー名で置き換えます。「USER A」のようになります。
3. データベース間で次の順序でスクリプトを実行し、各スクリプト内の指示に従います。
 - a. Main(Create, Initialise)
メイン データベースで次のスクリプトを実行します。
 - Create_Main.sql
 - Initialise_Main.sql
 - Create_Forms.sql
 - Initialise_Forms.sql
 - Create_KFS.sql
 - Initialise_KFS.sql
 - LicenseScripts\Create_KLS_OnPremise.sql
 - b. Finished Jobs(Create)

終了済みジョブ データベースで次のスクリプトを実行します (メイン データベースに含まれる場合がある)。

- Create_Archive.sql

c. Audit(Create, Initialise)

監査データベースで次のスクリプトを実行します (メイン データベースに含まれる場合がある)。

- Create_Audit.sql
- Initialise_Audit.sql

4. レポート データベースを手動でインストールするには、以下のスクリプトを使用します。

- ステージング データベースを作成するためのスクリプト。
 - Kofax.Reporting.Analytics.Staging.SQL_TablesCreate.sql
 - Kofax.Reporting.Analytics.Staging.SQL_Initialize.sql
- レポート データベースを作成するためのスクリプト。
 - Kofax.Reporting.Analytics.SQL_TablesCreate.sql
 - Kofax.Reporting.Analytics.SQL_Initialize.sql

i これらのスクリプトを実行する前に、互換性のあるデータベースサーバーが既にインストールされていることを確認してください。レポート テーブルはデフォルト スキーマに配置する必要があります。

5. ドキュメント データベースを手動でインストールするには、以下のスクリプトを使用します。

- ドキュメント データベースを作成するためのスクリプト。
 - Repository2012_TablesCreate.sql (リポジトリ 2012 タブレット作成.sql)


i Server_Data テーブルの CEBPM_Settings 列で、RepositoryConnectionSring 設定を TotalAgility ドキュメント データベース接続文字列で更新します。
TotalAgility をインストールすると、構成ユーティリティで接続文字列を更新できます。

6. インストール ウィザードの [データベース] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a. [データベースのインストール] および [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオフにします。
- b. [データベース名] で、データベースを手動で作成するときに指定した名前と一致するようにデータベース名を変更します。
データ レイヤー データベースの名前を Repository2012 またはデータベースの作成中に指定した名前に変更します。
- c. [次へ] をクリックします。構成ファイルを更新する前に、インストールが完了していることを確認してください。

7. Web.config でデータベース接続の値を手動で編集するか、TotalAgility インストール ファイルにある構成ユーティリティを実行することができます。


- `\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web` にある **Web.config** を開きます。**appSettings** セクションで、次のデータベース接続の値を更新します。
 - MainDBConnectionString
 - ArchiveDBConnectionString
 - AuditDBConnectionString
 - ReportingMainDBConnectionString
 - ReportingStagingDBConnectionString

 データベースは、Kofax TotalAgility がインストールされているマシンを指すようにする必要があります。

- 構成ユーティリティを実行し、[共通設定] タブで使用可能な上記データベース接続の値を変更します。

8. Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config のデータベース接続の値を変更するには、次のいずれかを実行します。


- `\\TotalAgilityInstall\CoreWorkerService` にある **Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config** を開いて、次の接続文字列の値を変更します。
 - MainDBConnectionString
 - ArchiveDBConnectionString
 - AuditDBConnectionString
 - ReportingMainDBConnectionString
 - ReportingStagingDBConnectionString

 データベースは、Kofax TotalAgility がインストールされているマシンを指すようにする必要があります。

- 構成ユーティリティを実行し、[共通設定] タブで使用可能な上記接続文字列の値を変更します。

9. Agility.Server.StreamingService.exe.config でデータベース接続の値を変更するには、次のいずれかを実行します。

- `\\TotalAgilityInstall\CoreWorkerService` にある **Agility.Server.StreamingService.exe.config** を開いて、次の接続文字列を更新します。
 - MainDBConnectionString
 - ArchiveDBConnectionString
 - AuditDBConnectionString
 - ReportingMainDBConnectionString
 - ReportingStagingDBConnectionString

 データベースは、Kofax TotalAgility がインストールされているマシンを指すようにする必要があります。

- 構成ユーティリティを実行し、[共通設定] タブで使用可能な上記接続文字列の値を変更します。

10. Kofax TotalAgility を目的のドキュメント データベースに接続するには:

- TotalAgility メイン データベース > SERVER_DATA テーブル > CEBPM_SETTINGS 列に移動します。
- CEBPM_SETTINGS XML ファイルを開きます。
- <Common Settings> セクションで、[データ ソース] の値をコンピュータ名に、[統合セキュリティ] を True に、[初期カタログ] の値をデータ レイヤー データベース名に更新します。

```
<Common_Settings>
<ReportingSettings />
<DataLayerConfiguration RepositoryDBConnectionString=";Data
Source={DATA_LAYER_DATASOURCE};Initial Catalog=TotalAgility_Documents;User
ID={DATA_LAYER_USERID};Password={DATA_LAYER_PASSWORD};Integrated
Security={DATA_LAYER_WINDOWS_AUTH};Connect
Timeout=30;Encrypt=False;TrustServerCertificate=False"/>
</Common_Settings>
```

Windows 認証を使用するには、接続文字列を次のように設定します。

```
<Common_Settings>
<ReportingSettings />
<DataLayerConfiguration RepositoryDBConnectionString=";Data
Source=localhost;Initial Catalog=TotalAgility_Documents;User
ID=;Password=;Integrated Security=True;Connect
Timeout=30;Encrypt=False;TrustServerCertificate=False" />
</Common_Settings>
```

- 変更を有効にするには、TotalAgility CoreWorker サービスを再起動します。
- セキュリティ キーを生成します。キーを生成するには、TotalAgility Designer で [システム] > [設定] > [システム] > [全般] に移動します。

アーティファクトのインポート

TotalAgility データベースのインストール後に、標準フォーム、スタイル シート、カスタム アセットをインポートする必要があります。

i TotalAgility をアップグレードするときに、システム マップと標準フォームを手動でインポートする必要があります。

次の場所にある WorkspacePackage.zip からすべてのアーティファクトをインポートできます。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Packages
```

インストール後の構成

インストール後、各構成ファイルを個別に編集するか、構成ユーティリティを実行することにより、構成設定を変更できます。構成ユーティリティは、TotalAgility インストール ファイルから入手できます。構成設定を変更する各サーバーに、ユーティリティを手動でコピーする必要があります。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

ログオン モード (認証設定)

次のログオン モードのいずれかを使用するように Kofax TotalAgility Web インストールまたは Web/アプリケーション一体型インストールを構成できます。

- **Windows 認証:** ログイン ユーザーの認証に Windows 認証情報が必要な場合は、Windows 認証を使用します。
- **手動:** ユーザーがログインするたびにユーザー名とパスワードを入力する必要がある場合は、手動認証を使用します。
- **混合認証 (Windows 認証 + 手動):** たとえば、組織が外部ユーザーに対して「手動ログオン」、内部ユーザーに対して「Windows 認証」を必要としている場合は、混合認証を使用します。
- **フェデレーション セキュリティ:** 信頼できるサードパーティの ID プロバイダによる認証を実行する必要がある場合は、フェデレーション セキュリティを使用します。TotalAgility で必要な作業は、認証済みのユーザーに対して返されたクレームを処理することのみです。

TotalAgility をインストールするときに、ログオン モードとして手動または Windows 認証を選択できます。ただし、インストール後に構成ユーティリティを使用して、手動ログオンと Windows 認証をまとめて選択することもできます。何らかの理由で Windows 認証が失敗した場合は、手動ログイン ページにリダイレクトされます。詳細については、『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

Windows 認証モードの場合は、フェデレーション セキュリティを選択できません。TotalAgility のフェデレーション セキュリティの詳細については、『Kofax TotalAgility Designer のヘルプ』を参照してください。

第 2 章

TotalAgility のインストール

この章では、TotalAgility の 2 つのインストール方法について説明します。

- コマンド ラインまたはバッチ ファイルを使用した[サイレント インストール](#)。
- インストール ウィザードを使用した[標準インストール](#)。

TotalAgility のサイレント インストール

コマンド ラインまたはバッチ ファイルから同じ構成を使用する複数のサーバーに TotalAgility を自動的にインストールするには、TotalAgility のサイレント インストールを使用します。サイレント インストール ファイルを編集すると、ユーザーの操作なしでインストールが実行されます。

このセクションでは、次のインストール タイプのサイレント インストールについて説明します。

- [データベースのみのサイレント インストール](#)
- [データベースをアップグレードするためのサイレント インストール](#)
- [同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール](#)
- [異なるサーバーへの Web またはアプリケーションのサイレント インストール](#)
- [リアルタイム Transformation Server のサイレント インストール](#)



- TransformationService パラメータが true に設定されていて、Transformation Server に WindowsServiceAccount および WindowsServicePassword パラメータが設定されている場合は、Transformation Server がインストールされます。「[Transformation Server のサイレント インストール](#)」を参照してください。
- TotalAgility サーバーのインストール中に、レポート クライアントが Transformation Server に自動的にインストールされます。

データベースのみのサイレント インストール



1. TotalAgility インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

パラメータ	デフォルト値	説明
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	true	データベースをインストールします。 データベースのインストールをバイパスするには、false に設定します。
OverwriteIfExisting	false	true に設定すると、既存のデータベースが上書きされます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i 既存データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合は、エラーが発生し、インストールが失敗します。</p> </div>
Main Database		
DatabaseName	TotalAgility	メイン データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i リモート データベースと一緒に TotalAgility をインストールする場合は、データベースが存在するマシンのサーバー名 (<Server>servername</Server>) を使用して SilentInstallConfig.xml を更新します。 インストール中にデータベースとの接続に使用されるアカウントには、DB_CREATOR 権限が必要です。</p> </div>
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	

パラメータ	デフォルト値	説明
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
AzureActiveDirectoryAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
Audit Database		
DatabaseName	TotalAgility	監査データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
AzureActiveDirectoryAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
Finished Jobs Database		
DatabaseName	TotalAgility	終了済みジョブ データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
セキュリティ		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。

パラメータ	デフォルト値	説明
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
AzureActiveDirectoryAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
DataLayer - TotalAgility_Documents Database		
DatabaseName	TotalAgility_Documents	TotalAgility_Documents データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
セキュリティ		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
AzureActiveDirectoryAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
Reporting_Analytics Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting	TotalAgility_Reporting データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
セキュリティ		

パラメータ	デフォルト値	説明
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
AzureActiveDirectoryAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
Reporting_Staging Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting_Staging	TotalAgility_Reporting_Staging データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
AzureActiveDirectoryAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
Install Info		

パラメータ	デフォルト値	説明
InstallType	Both	値を DatabaseOnly に変更します。  データベースのみをインストールする場合、サービスは無視され、CoreworkerService、ImportService、ExportService などのサービスはインストールされません。
KTAResourceName	空	インストール時に作成される TotalAgility ユーザーのユーザー名を指定します。
KTAResourcePassword	空	インストール時に作成される TotalAgility ユーザーのパスワード (6 文字以上の英数字) を指定します。
RunAsSystemAccount	false	true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは LocalSystem アカウントとして実行されます。  このパラメータを True に設定した場合でも、ユーザーは TotalAgility のインストール時に [TotalAgility リソース認証情報] ウィンドウで指定した認証情報を使用してログオンできます。

3. ファイルを保存して閉じます。
4. コマンド プロンプトで、現在のディレクトリを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
5. Setup.exe /Silent を実行します。
 - データベースは自動的にインストールされます。
 - ログの概要 KofaxTotalAgilitySilentInstallLog.txt がデスクトップ上に生成されます。
 - エラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップにログ ファイル KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt が作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
 - インストールの成功または失敗は、イベント ログに記録されます。
 - インストールを自動化するときに、コマンド ラインから、またはサイレント インストールとして setup.exe を実行すると、次の情報を示すコードが 1 つ返されます。
 - 0 = 成功
 - 1 = 警告付きで成功
 - 2 = 失敗

データベースをアップグレードするためのサイレント インストール

1. TotalAgility インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

パラメータ	デフォルト値	説明
<ServicesInstallOptions>		
	すべてのサービスに対して true	すべてのサービスに対して false に設定します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i TotalAgility データベースをアップグレードする場合、Core Worker サービス、レポート サービス、ライセンス サービス、Transformation Server などのサービスは無視されて、インストールされません。</p> </div>
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	true	データベースのインストールを無視するには、false に設定します。true に設定すると、データベースがインストールされます。
OverwriteIfExisting	true	true に設定すると、既存のデータベースが上書きされます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i 既存データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合は、エラーが発生し、インストールが失敗します。</p> </div>
Main Database		
DatabaseName	TotalAgility	メイン データベースの名前を指定します。

パラメータ	デフォルト値	説明
Server	サーバー名	<p>サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。</p> <p>i リモート データベースと一緒に TotalAgility をインストールする場合は、データベースが存在するマシンのサーバー名 (<Server>servername</Server>) を使用して SilentInstallConfig.xml を更新します。 インストール中にデータベースとの接続に使用されるアカウントには、DB_CREATOR 権限が必要です。</p>
Security		
WindowsAuthentication	true	<p>ログインに Windows 認証情報を使用します。</p> <p>false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。</p>
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	<p>デフォルトを受け入れます。</p> <p>true に設定すると、新しいデータベースが作成されます。</p>
Audit Database		
DatabaseName	TotalAgility	<p>監査データベースの名前を指定します。</p>
Server	サーバー名	<p>サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。</p>
セキュリティ		
WindowsAuthentication	true	<p>ログインに Windows 認証情報を使用します。</p> <p>false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。</p>

パラメータ	デフォルト値	説明
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
終了済みジョブ データベース		
DatabaseName	TotalAgility	終了済みジョブ データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
セキュリティ		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
DataLayer - TotalAgility_Documents Database		
DatabaseName	TotalAgility_Documents	TotalAgility_Documents データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
セキュリティ		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。

パラメータ	デフォルト値	説明
Reporting_Analytics Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting	TotalAgility_Reporting データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
セキュリティ		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
Reporting_Staging Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting_Staging	TotalAgility_Reporting_Staging データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
Install Info		

パラメータ	デフォルト値	説明
InstallType	Both	値を UpgradeDatabasesOnly に変更します。 すべてのデータベースが TotalAgility の最新バージョンにアップグレードされます。
KTAResourceName	空	インストール時に作成される TotalAgility ユーザーのユーザー名を指定します。
KTAResourcePassword	空	インストール時に作成される TotalAgility ユーザーのパスワード (6 文字以上の英数字) を指定します。
RunAsSystemAccount	false	true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは LocalSystem アカウントとして実行されます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i このパラメータを True に設定した場合でも、ユーザーは Kofax TotalAgility のインストール時に [TotalAgility リソース認証情報] ウィンドウで指定した認証情報を使用してログオンできます。</p> </div>

3. ファイルを保存して閉じます。
4. コマンド プロンプトで、現在のディレクトリを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
5. Setup.exe /Silent を実行します。
 - データベースは自動的にインストールされます。
 - ログの概要 KofaxTotalAgilitySilentInstallLog.txt がデスクトップ上に生成されます。
 - エラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップにログ ファイル KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt が作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
 - インストールの成功または失敗は、イベント ログに記録されます。
 - インストールを自動化するときに、コマンド ラインから、またはサイレント インストールとして setup.exe を実行すると、次の情報を示すコードが 1 つ返されます。
 - 0 = 成功
 - 1 = 警告付きで成功
 - 2 = 失敗

同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール

次のパラメータを Web/アプリケーション サーバー インストール用に更新します。

1. TotalAgility インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

i このガイドのコードをコピーして貼り付ける場合、改行を修正してください。

パラメータ	デフォルト値	説明
ServicesInstallOptions		
CoreWorkerService	true	Core Worker サービスをインストールします。必要に応じて false に設定できます。
ImportService	true	インポート サービスをインストールします。必要に応じて false に設定できます。
ExportService	true	エクスポート サービスをインストールします。必要に応じて false に設定できます。
ReportingService	true	レポート サービスをインストールします。必要に応じて false に設定できます。 i レポート クライアントは、TotalAgility サーバーのインストール中に Transformation Server に自動的にインストールされます。
LicenseService	true	ライセンス サービスをインストールします。必要に応じて false に設定できます。
TransformationService	true	Transformation サービスをインストールします。必要に応じて false に設定できます。

パラメータ	デフォルト値	説明
CoreServices	true	コア サービスをインストールします。必要に応じて false に設定できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i false に設定すると、アプリケーション サーバーに Transformation Server のみがインストールされるため、IIS の前提条件は不要です。Transformation Server のスタンドアロンインストールには、IIS は必要ありません。</p> </div>
LicenseServer		
LicenseServerName	localhost	ライセンス サーバーの名前を入力します。
PortNumber	3581	この値は変更しないでください。
SerialNumber	空	TotalAgility のシリアル番号を入力します。
ProductCode	空	TotalAgility の製品コードを入力します。
SkipLicense	true	ライセンスのアクティベーションをスキップします。 ライセンスをアクティブ化するには false に設定します。TotalAgility をインストールするには、シリアル番号と製品コードを入力する必要があります。
EnableSSL	false	true に設定すると、https を有効にできます。
Certificate	空	SSL が有効な場合は、TotalAgility をインストールするコンピュータで正しく構成された証明書の拇印を提供する必要があります。SSL を有効にして証明書の拇印を提供すると、ライセンスのポート番号は自動的に 3582 に設定されます。
InstallDirectory	C:\Program Files\ Kofax\TotalAgility	TotalAgility のインストール先ディレクトリを指定します。
DatabaseInformation		
InstallDatabases	true	データベースをインストールします。データベースのインストールを無視するには、false に設定します。



パラメータ	デフォルト値	説明
OverwriteIfExisting	true	<p>true に設定すると、既存のデータベースが上書きされます。</p> <p>i 既存データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合は、エラーが発生し、インストールが失敗します。</p>
ScriptsLocation	C:\Program Files \Kofax\TotalAgility \ DatabaseScripts\SQL Server\	スクリプトをインストールするディレクトリを指定します。
Main Database		
DatabaseName	TotalAgility	メイン データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	<p>サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。</p> <p>i リモート データベースと一緒に TotalAgility をインストールする場合は、データベースが存在するマシンのサーバー名 (<Server>servername</Server>) を使用して SilentInstallConfig.xml を更新します。 インストール中にデータベースとの接続に使用されるアカウントには、DB_CREATOR 権限が必要です。</p>
Security		
WindowsAuthentication	true	<p>ログインに Windows 認証情報を使用します。</p> <p>false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。</p>
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。


パラメータ	デフォルト値	説明
MicrosoftEntraIDAuthenticat ion	オフ	Microsoft Entra ID 認証 を有効にするには、値を 「AzureActiveDirectoryPassword」に設 定し、ユーザー名とパスワードを指定し ます。
Audit Database		
DatabaseName	TotalAgility	監査データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用し ます。 false に設定されている場合は、ユー ザー名とパスワードを指定します。それ 以外の場合は、ユーザー名とパスワード を空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベ ースが作成されます。
MicrosoftEntraIDAuthenticat ion	オフ	Microsoft Entra ID 認証 を有効にするには、値を 「AzureActiveDirectoryPassword」に設 定し、ユーザー名とパスワードを指定し ます。
終了済みジョブ データベース		
DatabaseName	TotalAgility	終了済みジョブ データベースの名前を指 定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用し ます。 false に設定されている場合は、ユー ザー名とパスワードを指定します。それ 以外の場合は、ユーザー名とパスワード を空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	

パラメータ	デフォルト値	説明
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
MicrosoftEntraIDAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
Forms	空	
DataLayer - TotalAgility_Documents Database		
DatabaseName	TotalAgility_Documents	TotalAgility_Documents データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
MicrosoftEntraIDAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
Reporting_Analytics Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting	
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。

パラメータ	デフォルト値	説明
UserName	空	
Password	空	
MicrosoftEntraIDAuthenticat ion	オフ	Microsoft Entra ID 認証 を有効にするには、値を 「AzureActiveDirectoryPassword」に設 定し、ユーザー名とパスワードを指定し ます。
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベ ースが作成されます。
Reporting_Staging Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting_ ステー징	TotalAgility_Reporting_Staging データ ベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用し ます。 false に設定されている場合は、ユー ザー名とパスワードを指定します。それ 以外の場合は、ユーザー名とパスワード を空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベ ースが作成されます。
MicrosoftEntraIDAuthenticat ion	オフ	Microsoft Entra ID 認証 を有効にするには、値を 「AzureActiveDirectoryPassword」に設 定し、ユーザー名とパスワードを指定し ます。
Identity Information		
UserName	ユーザー名	TotalAgility サービスの Windows サービ ス アカウントのユーザー名を入力しま す。

パラメータ	デフォルト値	説明
Password	パスワード	TotalAgility サービスの Windows サービス アカウントのパスワードを入力します。 i サービス アカウント名の末尾が \$(ドル) である場合は、パスワードを指定しないでください。
RunAsSystemAccount	false	このパラメータを true に設定した場合: <ul style="list-style-type: none"> アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは LocalSystem アカウントを使用して作成されます。 ユーザーは TotalAgility のインストール時に [Kofax TotalAgility リソース認証情報] ウィンドウで指定した認証情報を使用してログインできます。 データベースは、SQL 認証を使用して作成する必要があります。
RunAsNetworkServiceAccount	false	true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは NT Authority\Network Service ユーザー名として実行されます。 i Managed Service Account (gMSA) を利用する Docker インストールの場合のみ、RunAsNetworkServiceAccount を True に設定します。
Prerequisite Info		
ValidOS	true	オペレーティング システムが有効かどうかを確認します。
SQLServerInstalled	true	SQL Server がインストールされているかどうかを確認するには、true に設定します。
SQLClientInstalled	false	SQL クライアントがインストールされているかどうかを確認するには、true に設定します。
IISInstalled	true	IIS がインストールされているかどうかを確認します。
SslEnabled	false	https を有効にするには、true に設定します。「 HTTPS 通信用の構成 」を参照してください。
Install Info		

パラメータ	デフォルト値	説明
InstallAction	Install	デフォルトを受け入れます。
InstallMode	Silent	デフォルトを受け入れます。
InstallType	Both	デフォルトを受け入れます。
AuthenticationMode	Windows	認証モードを Windows に設定します。
Transformation Server の情報		
<p> TransformationService が true の場合は、これらの設定を構成します。</p>		
TSConfigFile	空	<p>構成する Transformation Server の名前と共に .ini ファイルのパスを指定します。</p> <p> .ini ファイルを指定すると、TransformationServerInfo の設定は .ini ファイルから取得されず、SilentInstallConfig で指定されたパラメータは無視されます。パラメータについては、.INI ファイルの例を参照してください。</p>
LogFile	C:\Program Files \Kofax\TotalAgility \Transformation Server \Tslog.txt	<p>Transformation Server ログファイルが作成される場所を設定します。ファイルパスには必ずファイル名 (TSLog.txt など) を含めてください。たとえば、C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\TransformationServer\TSLog.txt のように指定します。</p> <p>ログ ファイルのパスが有効でない場合、Transformation Server のインストールは失敗します。</p>
InstallLocation	C:\Program Files \Kofax\TotalAgility \TransformationServer	別の場所にインストールするには、Transformation Server のインストール先ディレクトリを指定します。

パラメータ	デフォルト値	説明
WindowsServiceAccount	ユーザー名	<p>Transformation Server を実行するユーザーの名前を入力します。</p> <p>ドメイン ユーザーを指定するには、<ドメイン>\<ユーザー> の形式でユーザー名を入力します。</p> <p>Transformation Server は Windows 認証が使用されるすべての場所でこのアカウントを使用して認証するため、アカウントの詳細が正しいことを確認してください。たとえば、TotalAgility データベースなどです。</p> <p>すべての通信とリソース アクセスは、このアカウントで実行されます。したがって、Transformation Server が実行されているアカウントを、ダミー アカウントにすることはできません。</p>
WindowsServicePassword	パスワード	ユーザーのパスワードを入力します。
UseSpecificPool	false	<p>この Transformation Server をプールに追加するには、このパラメータを設定します。</p> <p>値なしを含む他の任意の値は false として扱われ、Transformation Server はプールに関係なくすべてのアクティビティを処理します。</p>
PoolName	空	<p>UseSpecificPool=true を設定した場合は、Transformation Server のプール名を入力します。</p> <div data-bbox="1036 1289 1451 1415" style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"><p> プール名を空のままにすると、プールに関係なく、すべてのアクティビティが処理されます。</p></div>

パラメータ	デフォルト値	説明
OLEnabled	true	<p>この Transformation Server インスタンスでオンライン ラーニング タスクを有効にします。</p> <p>オンライン ラーニング タスクを無効にするには、false または他の任意の値に設定します。</p> <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i キャプチャ アクティビティのスループットを改善するために Transformation Server の複数のインスタンスがインストールされている場合、オンライン ラーニングはクラスタ内の単一の Transformation Server インスタンスでのみ有効にする必要があります。</p> </div>
WcfPort	9001	同期呼び出し (ファジー検索やプッシュされたアクティビティなど) の実行中に Transformation Server と通信するために TotalAgility で使用されるポートを入力します。
ReservedSlots	0	プッシュされたアクティビティおよび優先度の高いアクティビティ用に予約されている、この Transformation Server のスロット数を入力します。
OverrideDefSlots	空	<p>デフォルトでは、Transformation Server は同時に機能している Transformation Server 制御プロセスのうち実際に処理を行っているものの数を、マシンの CPU コア数に基づいて判別します。</p> <p>自分で値を指定するには、ここに値を入力します。</p>
MaxSlots	0	CPUSERVER_OVERRIDE_DEF_SLOTS を true に設定した場合は、この Transformation Server の処理スロットの数を入力します。
InstallOCRAddons	1	追加の A2iA 認識エンジンをインストールします [サポートされていません]。
EnableSyncCalls	true	<p>同期呼び出しを有効にします。</p> <p>同期呼び出しを無効にするには、false に設定します。</p>

パラメータ	デフォルト値	説明
TS_INSTALL_NLP_WESTERN	false	true に設定されている場合は、英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、およびドイツ語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES1	false	true に設定されている場合は、イタリア語、ルーマニア語、およびオランダ語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES2	false	true に設定されている場合は、日本語、中国語、および韓国語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES3	false	true に設定すると、スウェーデン語、フィンランド語、デンマーク語、ノルウェー語、アラビア語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
IsIntegration Server	false	TotalAgility 統合サーバーをインストールするには、true に設定します。
InstallLicenseProxy	false	ライセンス プロキシをインストールするには、true に設定します。 true に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
KTAResourceName	空	インストール時に作成される TotalAgility ユーザーのユーザー名を指定します。
KTAResourcePassword	空	インストール時に作成される TotalAgility ユーザーのパスワード (6 文字以上の英数字) を指定します。
StartServices	true	サービスを開始します。
ImportWorkspacePackage	false	Workspace パッケージをインポートするには、true に設定します。
<SiteRoot>	デフォルトの Web サイト	標準ポート (80 および 443) 以外の非標準ポートを使用するカスタム サイトの下に TotalAgility をインストールします。 たとえば、IIS の下にポート番号 85 を使用する「testsite」というカスタム サイトを作成します。
CaptureConfiguration		

パラメータ	デフォルト値	説明
CloudStorageType	SQLServer	デフォルトでは、キャプチャデータは SQL Server に保存されません。クラウドストレージタイプを、Windows Azure Blob ストレージでは「Azure」に、Amazon S3 ストレージでは「AWS」に、SQL Server とファイルシステムでは「SqlFileStream」に変更します。
AzureBlobStorageConnectionString	空	Blob ストレージ サービスに接続するためのアカウント接続文字列。
AzureBlobStorageContainerName	空	ストレージ サービスのコンテナ名。
AmazonS3AccessKey	空	Amazon S3 ストレージ サービスに接続するためのアクセス キー。
AmazonS3SecretKey	空	Amazon S3 ストレージ サービスのシークレット キー。
AmazonS3BucketName	空	ストレージ サービスのバケット名。 バケットとは、データストレージ用の Amazon S3 の基本的なコンテナのことです。
AmazonS3RegionName	空	S3 リージョン名。
FileStreamFileGroup	空	FILESTREAM ファイル グループ名。

3. ファイルを保存して閉じます。
4. コマンド プロンプトで、コマンド ラインを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
5. Setup.exe /Silent を実行します。
 - サイレント構成ファイルで **True** に設定されたパラメータに基づいて、次の項目がインストールされます。
 - Kofax TotalAgility
 - Kofax Import Connector (KIC) (ネットワーク共有から Kofax TotalAgility をインストールする場合は、ユーザーにネットワーク共有への書き込み権限があることを確認してください。この権限がない場合は、Import Connector が正常にインストールされません。)
 - Kofax Export Connector のユーティリティ
 - ライセンス サービス
 - Transformation Server (**TransformationService** パラメータが true に設定されていて、Transformation Server に WindowsServiceAccount および WindowsServicePassword パラメータが設定されている場合)。
 - ログの概要 KofaxTotalAgilitySilentInstallLog.txt がデスクトップ上に生成されます。

- エラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップにログ ファイル KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt が作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
- インストールの成功または失敗は、イベント ログに記録されます。
- インストールを自動化するときに、コマンド ラインから、またはサイレント インストールとして setup.exe を実行すると、次の情報を示すコードが 1 つ返されます。
 - 0 = 成功
 - 1 = 警告付きで成功
 - 2 = 失敗

.INI ファイルの例

```
TS_INSTALLLOCATION="E:\Kofax\TotalAgility\TransformationServer"  
TS_SERVICE_ACCOUNT=username  
TS_SERVICE_PASSWORD=password  
TS_USE_SPECIFIC_POOL=FALSE  
TS_POOL_NAME=  
TS_OL_ENABLED=TRUE  
TS_WCF_PORT=9001  
TS_RESERVED_SLOTS=0  
TS_OVERRIDE_DEF_SLOTS=  
TS_MAX_SLOTS=0  
TS_ENABLE_SYNC_CALLS=TRUE  
TS_MAIN_DB_CONNECTION_STRING=Server=servername;Trusted_Connection=Yes;Database=  
TotalAgility;  
TS_SYNCHRONOUS_ONLY=false
```

異なるサーバーへの Web とアプリケーションのサイレント インストール

別の Web サーバーまたはアプリケーション サーバーに TotalAgility をインストールします。

アプリケーション サーバーへのサイレント インストール

次のパラメータをアプリケーション サーバー用に更新します。

1. TotalAgility インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。
 - InstallType = ApplicationServer。
 - 他のパラメータについては、「[同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール](#)」を参照してください。

i サイレント構成ファイルの **ServicesInstallOptions** セクションの値を True/False に設定して、特定のコンポーネントをインストールするかどうかを選択できます。

3. ファイルを保存して閉じます。

4. コマンド プロンプトで、コマンド ラインを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
5. Setup.exe /Silent を実行します。
 - サイレント構成ファイルで **True** に設定されたパラメータに基づいて、次の項目がインストールされます。
 - Kofax TotalAgility
 - Kofax Import Connector (KIC) (ネットワーク共有から Kofax TotalAgility をインストールする場合は、ユーザーにネットワーク共有への書き込み権限があることを確認してください。この権限がない場合は、Import Connector が正常にインストールされません。)
 - Kofax Export Connector 用ユーティリティ
 - ライセンス サービス
 - Transformation Server (**TransformationService** パラメータが true に設定されていて、Transformation Server に WindowsServiceAccount および WindowsServicePassword パラメータが設定されている場合)。

i アプリケーション サーバーに Transformation サービスのみをインストールする場合は、Transformation サービスを True に設定し、Core Worker サービスを False に設定します。コア サービスを除外しない場合、TotalAgility では IIS を要件とするメッセージが表示されますが、アプリケーション サーバーに Transformation サービスをインストールするために IIS は必要ありません。

- ログの概要 KofaxTotalAgilitySilentInstallLog.txt がデスクトップ上に生成されます。
- エラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップにログ ファイル KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt が作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
- インストールの成功または失敗がイベント ログに記録されます。
- インストールを自動化するときに、コマンド ラインから、またはサイレント インストールとして setup.exe を実行すると、次の情報を示すコードが 1 つ返されます。
 - 0 = 成功
 - 1 = 警告付きで成功
 - 2 = 失敗

Web サーバーへのサイレント インストール

1. TotalAgility インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

パラメータ	デフォルト	説明
InstallDirectory	C:\Program Files \TotalAgility \ TotalAgility	TotalAgility のインストール先ディレクトリを指定します。

パラメータ	デフォルト	説明
ApplicationServerName	デフォルトなし	<p>アプリケーション サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。</p> <p>i アプリケーション サーバーが標準以外のポートにインストールされている場合は、Web サーバー上にある SilentInstallConfig.xml の <ApplicationServerName> パラメータを次のように変更する必要があります。</p> <pre><ApplicationServerName>FQDN:portnumber <ApplicationServerName>"</pre>
Identity Information		
UserName	ユーザー名	RunAsSystemAccount が false の場合は、TotalAgility を実行するユーザーの名前を入力します。
Password	パスワード	<p>RunAsSystemAccount が false の場合は、TotalAgility を実行するユーザーのパスワードを入力します。</p> <p>i サービス アカウント名の末尾が \$ (ドル記号) である場合は、パスワードを指定しないでください。</p>
RunAsSystemAccount	false	<p>true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは LocalSystem アカウントとして実行されます。</p> <p>i このパラメータを true に設定した場合、データベースは SQL 認証を使用して作成する必要があります。</p>
RunAsNetworkServiceAccount	false	<p>true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは NT Authority\Network Service ユーザー名として実行されます。</p> <p>i</p> <ul style="list-style-type: none"> Managed Service Account (gMSA) を利用する必要がある Docker インストールの場合のみ、RunAsNetworkServiceAccount を True に設定します。 このパラメータを true に設定した場合、データベースは SQL 認証を使用して作成する必要があります。
Prerequisite Info		
ValidOS	true	オペレーティング システムが有効かどうかを確認するには、true に設定します。

パラメータ	デフォルト	説明
SQLServerInstalled	true	SQL Server がインストールされているかどうかを確認するには、true に設定します。
SQLClientInstalled	false	SQL クライアントがインストールされているかどうかを確認するには、true に設定します。
IISInstalled	true	IIS がインストールされているかどうかを確認するには、true に設定します。
SslEnabled	false	https を有効にするには、true に設定します。「 HTTPS 通信用の構成 」を参照してください。
Install Info		
InstallAction	Install	デフォルトを受け入れます。
InstallMode	Silent	デフォルトを受け入れます。
InstallType	Both	WebServer を入力します。
<SiteRoot>	デフォルトの Web サイト	標準ポート (80 および 443) 以外の非標準ポートを使用するカスタム サイトの下に TotalAgility をインストールします。 たとえば、IIS の下にポート番号 85 を使用する「testsite」というカスタム サイトを作成します。

3. ファイルを保存して閉じます。
4. コマンド プロンプトで、現在のディレクトリを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
5. Setup.exe /Silent を実行します。
 - Kofax TotalAgility が自動的にインストールされます。
 - ログの概要 KofaxTotalAgilitySilentInstallLog.txt がデスクトップ上に生成されます。
 - エラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップにログ ファイル KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt が作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
 - インストールの成功または失敗がイベント ログに記録されます。
 - インストールを自動化するときに、コマンド ラインから、またはサイレント インストールとして setup.exe を実行すると、次の情報を示すコードが 1 つ返されます。
 - 0 = 成功
 - 1 = 警告付きで成功
 - 2 = 失敗

リアルタイム Transformation Server のサイレント インストール

1. TotalAgility インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

パラメータ	デフォルト値	説明
InstallDirectory	C:\Program Files\ Kofax\ TotalAgility	TotalAgility のインストール先ディレクトリを指定します。
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	false	データベースのインストールを無視するには、false に設定します。
OverwriteIfExisting	false	true に設定すると、既存のデータベースが上書きされます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i 既存データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合は、エラーが発生し、インストールが失敗します。</p> </div>
Main Database		
DatabaseName	TotalAgility	メイン データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i リモート データベースと一緒に TotalAgility をインストールする場合は、データベースが存在するマシンのサーバー名 (<Server>servername</Server>) を使用して SilentInstallConfig.xml を更新します。 インストール中にデータベースとの接続に使用されるアカウントには、DB_CREATOR 権限が必要です。</p> </div>
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。

パラメータ	デフォルト値	説明
MicrosoftEntraIDAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
Audit Database		
DatabaseName	TotalAgility	監査データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
セキュリティ		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
MicrosoftEntraIDAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
終了済みジョブ データベース		
DatabaseName	TotalAgility	終了済みジョブ データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
セキュリティ		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	

パラメータ	デフォルト値	説明
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
MicrosoftEntraIDAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
DataLayer - TotalAgility_Documents Database		
DatabaseName	TotalAgility_Documents	TotalAgility_Documents データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
セキュリティ		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
MicrosoftEntraIDAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
Reporting_Analytics Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting	TotalAgility_Reporting データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
セキュリティ		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。

パラメータ	デフォルト値	説明
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
MicrosoftEntraIDAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
Reporting_Staging Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting_Staging	TotalAgility_Reporting_Staging データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
セキュリティ		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
MicrosoftEntraIDAuthentication	オフ	Microsoft Entra ID 認証を有効にするには、値を「AzureActiveDirectoryPassword」に設定し、ユーザー名とパスワードを指定します。
Identity Information		
UserName	ユーザー名	TotalAgility サービスの Windows サービス アカウントのユーザー名を入力します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i サービス アカウント名の末尾が \$ (ドル記号) である場合は、パスワードを指定しないでください。</p> </div>

パラメータ	デフォルト値	説明
Password	パスワード	<p>TotalAgility サービスの Windows サービス アカウントのパスワードを入力します。</p> <p>i サービス アカウント名の末尾が \$ (ドル記号) である場合は、パスワードを指定しないでください。</p>
RunAsSystemAccount	false	<p>true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは LocalSystem アカウントとして実行されます。</p> <p>i このパラメータを true に設定した場合、データベースは SQL 認証を使用して作成する必要があります。</p>
RunAsNetworkServiceAccount	false	<p>true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは NT Authority\Network Service ユーザー名を使用して作成されます。</p> <p>i</p> <ul style="list-style-type: none"> Managed Service Account (gMSA) を利用する必要がある Docker インストールの場合のみ、RunAsNetworkServiceAccount を True に設定します。 このパラメータを true に設定した場合、データベースは SQL 認証を使用して作成する必要があります。
Install Info		
InstallType	RTTS	<p>デフォルトを受け入れます。</p> <p>i RTTS をインストールする場合、サービスは無視されます。CoreworkerService、ImportService、ExportService などのサービスはインストールされません。</p>

パラメータ	デフォルト値	説明
SslEnabled	false	true に設定すると、https を有効にできます。「 HTTPS 通信用の構成 」を参照してください。
Transformation Server の情報		
TransformationService	true	デフォルトを受け入れます。
TSConfigFile	デフォルトなし	構成する Transformation Server の名前と共に .ini ファイルのパスを指定します。 i .ini ファイルを指定すると、TransformationServerInfo の設定は .ini ファイルから取得されます。SilentInstallConfig で指定されたパラメータは無視されます。パラメータについては、 .INI ファイル の例を参照してください。
LogFile	C:\Program Files \Kofax\TotalAgility \Transformation Server \Tslog.txt	Transformation Server ログファイルが作成される場所を設定します。ファイルパスには必ずファイル名 (TSLog.txt など) を含めてください。たとえば、C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\TransformationServer\Tslog.txt のように指定します。 ログ ファイルのパスが有効でない場合、Transformation Server のインストールは失敗します。
InstallLocation	例: C:\Program Files (x86)\Kofax\TotalAgility\TransformationServer	Transformation Server のインストール先ディレクトリを指定します。
WindowsServiceAccount	ユーザー名	Transformation Server を実行するユーザーの名前を入力します。
WindowsServicePassword	パスワード	ユーザーのパスワードを入力します。
UseSpecificPool	false	この Transformation Server をプールに追加するには、true に設定します。プールに関係なく、Transformation Server がすべてのアクティビティを処理するように設定するには、false に設定します (または空白のままにするか、他の任意の値を割り当てます)。

パラメータ	デフォルト値	説明
PoolName	空	<p>UseSpecificPool=true を設定した場合は、Transformation Server のプール名を入力します。</p> <p>i プール名を空のままにすると、プールに関係なく、すべてのアクティビティが処理されます。</p>
OLEnabled	true	<p>この Transformation Server インスタンスでオンライン ラーニング タスクを有効にするには、true に設定します。オンライン ラーニング タスクを無効にするには、false または他の任意の値に設定します。</p> <p>i キャプチャ アクティビティのスループットを改善するために Transformation Server の複数のインスタンスがインストールされている場合、オンライン ラーニングはクラスタ内の単一の Transformation Server インスタンスでのみ有効にする必要があります。</p>
WcfPort	9001	同期呼び出し (ファジー検索やプッシュされたアクティビティなど) の実行中に Transformation Server と通信するために TotalAgility で使用されるポートを入力します。
ReservedSlots	0	プッシュされたアクティビティおよび優先度の高いアクティビティ用に予約されている、この Transformation Server のスロット数を入力します。
OverrideDefSlots	空 (false)	この Transformation Server のデフォルトの処理スロット数の上書きには、このパラメータを true に設定します。他の任意の値 (空を含む) は false として扱われ、システム構成に基づいて処理スロットのデフォルト数が自動的に設定されます。
MaxSlots	0	CPUSERVER_OVERRIDE_DEF_SLOTS を true に設定した場合は、この Transformation Server の処理スロット数を入力します。

パラメータ	デフォルト値	説明
EnableSyncCalls	true	同期呼び出しを有効にするには true に設定し、これらの呼び出しを無効にするには false に設定します。
TS_INSTALL_NLP_WESTERN	false	true に設定されている場合は、英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、およびドイツ語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES1	false	true に設定されている場合は、イタリア語、ルーマニア語、およびオランダ語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES2	false	true に設定されている場合は、日本語、中国語、および韓国語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES3	false	true に設定すると、スウェーデン語、フィンランド語、デンマーク語、ノルウェー語、アラビア語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
<InstallSynchronous>	false	<p>Transformation Server を同期モードでインストールするには、true に設定します。</p> <p>ポート番号を Transformation Server サービスに対して指定します (デフォルト: 9001)。ポート番号はアプリケーションの設定として TotalAgility Web.config ファイルに保存されます。</p> <pre><add key="TSEExternalServicePortForSyncProcessing" value="9001" /></pre> <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i デフォルトのポート番号を変更する場合は、Web.config ファイルを更新してから、Kofax TotalAgility IIS アプリケーションプールを再起動する必要があります。</p> </div>
StartServices	true	

パラメータ	デフォルト値	説明
<SiteRoot>	デフォルトの Web サイト	標準ポート (80 および 443) 以外の非標準ポートを使用するカスタム サイトの下に TotalAgility をインストールします。 たとえば、IIS の下にポート番号 85 を使用する「testsite」というカスタム サイトを作成します。

3. ファイルを保存して閉じます。
4. コマンド プロンプトで、現在のディレクトリを Setup.exe のルート ディレクトリに変更します。
5. Setup.exe /Silent を実行します。
 - リアルタイム Transformation Server がインストールされます。リアル タイム Transformation サービスは、Transformation Server を同期モードでセット アップし、クライアントが呼び出すことができる TotalAgility のコア API および SDK API を構成します。
 - ログの概要 KofaxTotalAgilitySilentInstallLog.txt がデスクトップ上に生成されます。
 - エラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップにログ ファイル KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt が作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
 - インストールの成功または失敗は、イベント ログに記録されます。
 - インストールを自動化するときに、コマンド ラインから、またはサイレント インストールとして setup.exe を実行すると、次の情報を示すコードが 1 つ返されます。
 - 0 = 成功
 - 1 = 警告付きで成功
 - 2 = 失敗
6. インストールが予測どおりに機能することを確実にするには、次の手順を実行します。
 - a. [プログラム ファイル]/Kofax/ TotalAgility/Agility.Server.Web に移動して、テキスト エディタで Web.config を開きます。
 - b. TransformationServerExternalService_Binding バインディング パラメータを見つけ、<transport ClientCredentialType> 値が Windows に設定されていることを確認します。
 - c. Web 構成ファイルを保存して、閉じます。

TotalAgility の標準インストール

標準インストーラ ウィザードを使用して TotalAgility をインストールできます。

選択したインストール タイプに基づいて、アプリケーション サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーのインストール ウィザードを実行すると、次の項目がインストールされます。

- TotalAgility
- Kofax インポート コネクタ

- Transformation Designer
- Kofax Export Connector のユーティリティ
- ライセンス サービス
- レポート サービス

i レポート クライアントは、TotalAgility サーバーのインストール中に Transformation Server に自動的にインストールされます。

標準インストーラ ウィザードを使用して TotalAgility をインストールする場合、インストール オプションタイプとして [高速] または [標準] を選択できます。

- **高速インストール:** TotalAgility は、すべてのデフォルト設定を使用してインストールされるため、ユーザー操作が最小限に抑えられます。高速モードでは、Web/アプリ一体型サーバー、SQL Express、および Transformation Designer がインストールされます。TotalAgility のインストール中またはインストール後にライセンス サーバーを構成できます。
- **標準インストール:** TotalAgility は、インストールの種類 (データベースのみ、Web サーバー、アプリケーション サーバーなど) と指定した設定に応じてインストールされます。

i インストール ウィザードの使用中は、ホットキーを使用して次の画面に移動できます。

このセクションでは、次のインストール タイプについて説明します。

- [高速インストール](#)
- [データベースのみの標準インストール](#)
- [データベースをアップグレードするための標準インストール](#)
- [異なるサーバーへの Web またはアプリケーションの標準インストール](#)
- [同じサーバーへの Web およびアプリケーションの標準インストール](#)
- [リアルタイム Transformation Server の標準インストール](#)

高速インストール

高速インストールを使用して、最小限のユーザー操作で TotalAgility をインストールします。

1. インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして **管理者として実行** を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。

インストールが開始します。

2. [Kofax TotalAgility インストール プログラム] ウィンドウで **[次へ]** をクリックするか、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

i セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。
[インストール オプション タイプ] ウィンドウが開きます。
4. **[高速]** を選択します。
5. TotalAgility のインストール中にライセンスの詳細を指定するには、**[ライセンスをスキップ]** チェック ボックスをオフのままにします。
このオプションを選択して、ライセンスの詳細表示をスキップすることを確認した場合、**[ライセンス]** ウィンドウは表示されません。インストール後にライセンス サーバーを構成する必要があります。
6. **[次へ]** をクリックします。
[ライセンスをスキップ] チェック ボックスをオンにしなかった場合は、**[ライセンス]** ウィンドウが開きます。
7. ライセンス サーバーの詳細を入力して、**[次へ]** をクリックします。
[認証情報] ウィンドウが開きます。
8. Kofax TotalAgility を実行するには、Windows アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
[インストールの進行状況] ウィンドウにインストールの進行状況が表示されます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。
アップグレード中にエラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップに KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt というログ ファイルが作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
9. **[終了]** をクリックします。
これでインストールは完了です。インストール レポートの概要パネルを確認します。

データベースのみの標準インストール

1. インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall に移動し、次のコマンドのいずれかを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして **管理者として実行** を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。インストールが開始します。
2. **[Kofax TotalAgility インストール プログラム]** ウィンドウで **[次へ]** をクリックし、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

i セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。
3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。
[インストール オプション タイプ] ウィンドウが開きます。
4. インストール オプションとして **[標準]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

5. **[インストール タイプ]** ウィンドウで、**[データベースのみ]** (デフォルト: Web/アプリケーション サーバー) を選択して、**[次へ]** をクリックします。

[データベース] ウィンドウが開きます。

6. 次のいずれかを行います。

- デフォルトでは、**[データベースのインストール]** がオンになっています。**[次へ]** をクリックして、データベースをインストールします。
- 同じデータベースがデータベース サーバーにすでに含まれている場合、既存のデータベースを上書きするには、**[存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?]** のチェック ボックスをオンにします。**[接続のテスト]** オプションが使用可能になります。**[接続のテスト]** をクリックして、データベース接続をテストします。データベースが正常に接続されたら、**[OK]** をクリックします。

i データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合、データベースへの接続は失敗します。

- 各データベースにデータベース サーバーを指定する場合は、次の手順を実行します。データベース名を入力します。**[サーバー]** の省略記号をクリックし、データベース サーバーのモードとして [SQL Server (SSL 不使用)] または [SQL Azure] を選択します。使用可能なサーバーのリストから、インストールする SQL サーバーのデータベース サーバーを選択します。**[セキュリティ]** グループの **[認証]** リストで、データベースのサーバー モードが [SQL Server (SSL 不使用)] の場合は **[Windows 認証]** または **[SQL Server 認証]** を使用し、データベースのサーバー モードが [SQL Azure] の場合は **[SQL Server 認証]/[Azure Active Directory - パスワード]** を使用します。[SQL Server 認証] と [Azure Active Directory - パスワード] オプションのユーザー名とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。

すべてのデータベースが同じサーバー上にある場合は、**[これらの設定を他のすべてのデータベースに適用する]** チェック ボックスをオンにします。

7. **[次へ]** をクリックします。

[データベース接続結果] ウィンドウが開き、データベースへの接続の結果が表示されます。データベースへの接続に失敗した場合は、インストールを続行できません。**[戻る]** をクリックし、必要に応じて変更します。

i **[データベース接続結果]** ウィンドウが開くのは、前の手順で「データベースのインストール」または「存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?」のチェック ボックスがオンになっている場合のみです。

8. データベースが正常に接続されたら、**[次へ]** をクリックします。

[キャプチャ バイナリ データ ストレージ] ウィンドウが開きます。

9. デフォルトでは、ドキュメントのキャプチャ、.NET Store DLL、CCM Pack などのバイナリ データは TotalAgility データベースに保存されます。Amazon S3 や Windows Azure Blob ストレージなどの事前構成済みの外部クラウド データ ストレージ サービスを使用して、バイナリ データを保存および処理できます。クラウド サービスは、SQL Server のメンテナンス コストを削減し、メンテナンスを外部サービスに委任し、暗号化するのに役立ちます。

i ストレージ タイプを Azure/Amazon BLOB ストレージまたは [SQL Server とファイル システム] に変更すると、バイナリ データは選択したストレージ タイプで保存されます。ストレージ タイプを変更すると、後でオフにすることはできません。

次のいずれかのキャプチャ データ ストレージ タイプを選択します。

ストレージタイプ	説明
[SQL Server] (デフォルト)	SQL Server のキャプチャ データを格納します。
[SQL Server とファイル システム]	<p>FILESTREAM ファイル グループを保存します。</p> <p>キャプチャ ドキュメントはファイル システムに保存されます。データベースには、"FILESTREAM" と呼ばれる特定のファイル グループがあります。SQL Server データベースを使用して、ドキュメントに対してアクションを実行できます。管理者はこれらのファイル グループを作成します。これらのファイル グループが [ファイル ストレージ設定] の下に表示されるようにするには、[スタート] > [プログラム] > [SQL Server Configuration Manager] > [SQL Server のプロパティ] > [FILESTREAM] から、SQL Server Configuration Manager で FILESTREAM 機能を有効にする必要があります。</p> <p>[ファイル ストレージ設定] の下に、SQL Server Configuration Manager で構成されたファイル グループがリストされます。キャプチャ バイナリを保存するファイル グループを選択します。</p> <p>i FILESTREAM は SQL Server 認証ではサポートされていません。また、データベースが存在しない場合はサポートされません。</p>
[Windows Azure Blob ストレージ]	<p>キャプチャ データを、Azure Blob ストレージ サービスに格納します。次のクラウド アカウント設定を構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> Blob ストレージ サービスに接続するための [アカウント接続文字列] を入力します。 ストレージ サービスの [コンテナ名] を入力します。
[Amazon S3]	<p>次のクラウド アカウント設定を構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [アクセス キー] を入力して、Amazon S3 ストレージ サービスに接続します。 [秘密キー] を入力します。 [領域] リストで、アジア太平洋(シドニー)などの定義済みの S3 地域を選択します。(デフォルト: 米国東部(オハイオ)) [バケット名] を入力します。 <p>バケットとは、データ ストレージ用の Amazon S3 の基本的なコンテナのことです。</p>

10. [次へ] をクリックします。

[Kofax TotalAgility リソース 認証情報] ウィンドウが開きます。

11. インストール時に作成されるユーザーの認証情報 (**[ユーザー名]**、**[パスワード]**) (6 文字以上の英数字)、および**[確認]**用パスワード) を入力します。
デフォルトでは、ユーザー名フィールドにはログオンしているユーザーの名前が表示されます。必要に応じて、別のユーザー名を指定できます。
12. **[次へ]** をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開き、設定が表示されます。
13. 設定を確認し、**[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。
[インストールの進行状況] ウィンドウにインストールの進行状況が表示されます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。
[ライセンス] ウィンドウが開きます。
14. ライセンス サーバーに接続するには、次の手順を実行します。
 - a. **[ライセンス サーバー]** フィールドに、ライセンス サーバーの場所を入力します。

i 共有ライセンス サーバーに接続するには、共有ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを入力します。
 - b. **[ポート番号]** フィールドに、ライセンス サーバーがリスンするポート番号を入力します。
今はライセンス サーバーとの接続をスキップして、TotalAgility の起動時に接続する場合は、**[スキップ]** をクリックします。
15. **[次へ]** をクリックします。
Kofax TotalAgility の **[インストール完了]** ウィンドウにインストールのサマリーが表示されます。
アップグレード中にエラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップに KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt というログ ファイルが作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
16. **[終了]** をクリックします。
これでインストールは完了です。

データベースをアップグレードするための標準インストール

TotalAgility がローカルにインストールされていない場合は、すべてのデータベースを最新バージョンの TotalAgility にアップグレードできます。

1. TotalAgility インストール ファイルから \\TotalAgilityInstall に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして **管理者として実行** を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。インストールが開始します。
2. **[Kofax TotalAgility インストール プログラム]** ウィンドウで **[次へ]** をクリックし、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

i セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。
4. インストール オプションとして **[標準]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. **[インストール タイプ]** ウィンドウで、**[データベースのアップグレード]** (デフォルト: Web/アプリケーション サーバー)。
Workspace パッケージをインポートするには、**[システム Workspace パッケージのインポート]** のチェック ボックスをオンにします (デフォルト: クリア)。
6. **[次へ]** をクリックします。
[データベース] ウィンドウが開きます。
7. アップグレードする下位バージョンのデータベースを指定するには、必要に応じてデータベースに対して以下の手順を実行します。アップグレードするデータベース名を入力し、**[サーバー]** の省略記号をクリックして、データベース サーバーのモードを選択し、**[セキュリティ]** グループで **[Windows 認証]** を使用するか、ユーザー名とパスワードを指定して **[SQL Server 認証]** を選択してから、**[OK]** をクリックします。すべてのデータベースが同じサーバー上にある場合は、**[これらの設定を他のすべてのデータベースに適用する]** チェック ボックスをオンにします。
8. **[次へ]** をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開きます。
9. 設定を確認し、**[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。
[インストールの進行状況] ウィンドウにインストールの進行状況が表示されます。セットアップにより、TotalAgility データベースがアップグレードされます。
エラー ログが作成されていないことを確認します。Setup.exe.config のシステム診断セクションにパスが定義されていない場合、エラーが発生すると、デフォルトでは TotalAgility によってデスクトップ上にログ ファイル KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt が作成されます。<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス][ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
10. Kofax TotalAgility の **[インストール完了]** ウィンドウに、インストールのサマリーが表示されます。**[終了]** をクリックします。
これでインストールは完了です。

異なるサーバーへの Web とアプリケーションの標準インストール

別の Web サーバーまたはアプリケーション サーバーに TotalAgility をインストールします。

このセクションでは、次のインストール タイプの標準インストールについて説明します。

- [Web サーバーの標準インストール](#)
- [アプリケーション サーバーの標準インストール](#)

Web サーバーの標準インストール

1. TotalAgility インストール ファイルから \\TotalAgilityInstall に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして **管理者として実行** を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。

インストールが開始します。

2. **[Kofax TotalAgility インストール プログラム]** ウィンドウで **[次へ]** をクリックし、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

i セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。

4. インストール オプションとして **[標準]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

5. **[インストール タイプ]** ウィンドウで、**[Web サーバー]** (デフォルト: Web/アプリケーション サーバー) を選択して、**[次へ]** をクリックします。

[ソフトウェア チェック] ウィンドウに、検出されたソフトウェアのリストが表示されます。TotalAgility を使用するには、TotalAgility をインストールする前に、特定のソフトウェアをシステムにインストールする必要があります。

6. **[検出されたソフトウェア]** リストを確認し、次の手順を実行します。

- システムに必要なソフトウェアの一部がインストールされていない場合は、**[キャンセル]** をクリックしてインストーラを閉じ、ソフトウェアをインストールします。
- システムに必要なソフトウェアがすべてインストールされている場合は、**[次へ]** をクリックします。

[インストール先] ウィンドウが開きます。

7. デフォルトのインストール フォルダを使用するか、**[参照]** をクリックして別のパスを選択し、**[次へ]** をクリックします。

[オプション付きでサーバーの場所を選択] ウィンドウが表示されます。

8. **[サーバー名]** フィールドに、既存の TotalAgility アプリケーション・サーバーの名前を入力します。名前は、<machinename>.<fullyqualifieddomainname>:<portnumber> など、完全に修飾する必要があります。

i ポート番号は、ポート 80 以外の場合のみ必須です。

9. SSL をサポートするには、**[SSL のサポート]** チェック ボックスをオンにします。

i SSL オプションは、IIS で https バインディングを構成した場合にのみ使用できます。「[HTTPS 通信用の TotalAgility の構成](#)」を参照してください。

10. **[次へ]** をクリックします。

[認証情報] ウィンドウが開きます。

11. TotalAgility を実行するユーザーの認証情報 (パスワードおよび確認用パスワード) を入力します。
12. **[TotalAgility アプリケーションをホストするルート Web サイト]** リストで、TotalAgility アプリケーションをホストする Web サイトを選択します。デフォルトでは、**[既定の Web サイト]** が選択されています。

i IIS マネージャーで追加された Web サイトがこのリストに表示されます。IIS マネージャーで Web サイトを追加するには、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] > Inetmgr > [サイト] > [Web サイトの追加] をクリックします。

13. **[Windows 認証]** で次のいずれかを実行します。
 - TotalAgility Designer および Workspace に自動的にログオンするには、**[Windows 認証]** チェックボックスをオンのままにします (デフォルト)。
 - TotalAgility Designer および Workspace に手動でログオンするには、**[Windows 認証]** チェックボックスをオフにします。
14. **[次へ]** をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開き、設定が表示されます。
15. 設定を確認し、**[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。
[インストールの進行状況] ウィンドウが開きます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。
アップグレード中にエラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップに KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt というログ ファイルが作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
16. **[終了]** をクリックします。
これでインストールは完了です。

アプリケーション サーバーの標準インストール

1. TotalAgility インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして **管理者として実行** を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。インストールが開始します。
2. **[Kofax TotalAgility インストール プログラム]** ウィンドウで **[次へ]** をクリックし、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

i セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。
4. インストール オプションとして **[標準]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

5. **[インストール タイプ]** ウィンドウで、**[アプリケーション サーバー]** (デフォルト: Web/アプリケーション サーバー) を選択して、**[次へ]** をクリックします。
[アプリケーション サーバー] ウィンドウが開きます。
6. デフォルトでは、Windows サービスと WCF サービスが選択されて、インストールされます。インストールしないサービスがある場合は、そのサービスのチェック ボックスをオフにします。

Windows サービスには以下が含まれます。

- コア サービス
- レポート サービス
- Transformation サービス
- エクスポート サービス
- インポート サービス

TotalAgility をインストールすると、インポート コネクタの 1 つのインスタンスがデフォルトで自動的にインストールされます。インポート コネクタの複数のインスタンスをインストールするには、**[インポート サービス]** の **[インスタンス 2]** と **[インスタンス 3]** のチェック ボックスをオンにします。

TotalAgility をアンインストールすると、Message Connector のすべてのインスタンスがアンインストールされます。

- ライセンス サービス (プライマリ ライセンス サーバーまたはバックアップ ライセンス サーバー、および Https の有効化)

デフォルトでは、**[プライマリ サーバー]** が選択されます。プライマリ ライセンス サーバーが接続に失敗した場合は、ライセンス サーバー構成ファイルを手動で更新することでバックアップ サーバーに接続できます。TotalAgility のインストール後に設定を自動的に更新するには、構成ユーティリティを実行します。

ライセンス サービスの場合は、Https を有効にして、TotalAgility をインストールしたコンピュータで正しく構成された証明書のサムプリントを提供します。Https を有効にして証明書を提供すると、**[ライセンス]** ウィンドウの **[ポート番号]** フィールドに 3582 というポートが自動的に表示されます。

WCF サービスにはコア サービスが含まれます。

i コア サービスのチェック ボックスをオフにした場合、アプリケーション サーバーに Transformation Server のみがインストールされるため、IIS の前提条件は不要です。Transformation Server のスタンドアロン インストールには、IIS は必要ありません。


7. **[次へ]** をクリックします。
[ソフトウェア チェック] ウィンドウが開きます。サービスとデータベースの選択、および必要なソフトウェアがインストールされているかどうかに基づいて、必要なソフトウェアのリストが表示されます。
8. **[検出されたソフトウェア]** リストを確認し、次の手順を実行します。
 - システムに必要なソフトウェアの一部がインストールされていない場合は、**[キャンセル]** をクリックしてインストーラを閉じ、ソフトウェアをインストールします。
 - システムに必要なソフトウェアがすべてインストールされている場合は、**[次へ]** をクリックします。

[インストール先] ウィンドウが開きます。

9. デフォルトのインストール フォルダを使用して TotalAgility をインストールするか、**[参照]** をクリックして別のフォルダを選択し、**[次へ]** をクリックします。

[認証情報] ウィンドウが開きます。

10. TotalAgility を実行するユーザーの認証情報 (パスワードおよび確認用パスワード) を入力します。
管理者以外のアカウントの認証情報を入力する場合は、Streaming Service が実行されるように変更する必要があります。

 サービス アカウント名の末尾が \$ (ドル記号) である場合は、パスワードを指定しないでください。

11. **[次へ]** をクリックします。
[データベース] ウィンドウが開きます。
12. 次のいずれかを行います。

オプション	説明
デフォルト設定を使用します。	[データベースのインストール] チェック ボックスをオンのままにして、 手順 13 を実行します。
同じ名前のデータベースが既に存在し、既存のデータベースを上書きします。	<p>a. [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオンにします。 [接続のテスト] オプションが使用可能になります。</p> <p>b. [接続のテスト] をクリックします。 データベース接続の結果を示すメッセージが表示されます。データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合、データベースへの接続は失敗します。</p> <p>c. [次へ] をクリックします。</p> <p>d. [はい] をクリックして、データベースの上書きを確認します。</p>
ローカル マシン上の既存のデータベースを指定します。	<p>a. [データベースのインストール] および、[存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオフにします。</p> <p>b. 各データベースの名前を入力して、手順 13 に従います。</p>
別のマシン上の既存のデータベースを指定します。	<p>a. [データベースのインストール] および [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオンにします。</p> <p>b. 各データベースに、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データベース名を入力します。 2. [サーバー] の省略記号をクリックし、データベース サーバーのモードとして [SQL Server (SSL 不使用)] または [SQL Azure] を選択します。 3. 使用可能なサーバーのリストから、インストールする SQL サーバーのデータベース サーバーを選択します。 4. [セキュリティ] グループの [認証] リストで、データベース サーバー モードが [SQL Server (SSL 不使用)] の場合は [Windows 認証] または [SQL Server 認証] を使用し、データベースのサーバー モードが [SQL Azure] の場合は [SQL Server 認証]/[Azure Active Directory - パスワード] を使用します。[SQL Server 認証] と [Azure Active Directory - パスワード] オプションのユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。 5. すべてのデータベースが同じサーバー上にある場合は、[これらの設定を他のすべてのデータベースに適用する] チェック ボックスをオンにします。



- アプリケーション プールがシステム アカウントで実行されている場合は、エラーが表示されません。
- データベースを操作するには、信頼できるアカウントが必要です。SQL 認証情報を入力して、**[OK]**をクリックします。
- データベースなしで TotalAgility をインストールする場合は、構成ユーティリティを使用し、後の段階でデータベースが使用可能になったときにデータベースを指定できます。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

13. **[次へ]** をクリックします。

[データベース接続結果] ウィンドウが開き、データベースとの接続結果が表示されます。データベースへの接続に失敗した場合は、インストールを続行できません。**[戻る]** をクリックし、必要に応じて変更します。



[データベース接続結果] ウィンドウが開くのは、前の手順で「データベースのインストール」または「存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?」のチェック ボックスがオンになっている場合のみです。

14. データベースが正常に接続されたら、**[次へ]** をクリックします。

[キャプチャ バイナリ データ ストレージ] ウィンドウが開きます。

15. デフォルトでは、ドキュメントのキャプチャ、.NET Store DLL、CCM Pack などのバイナリ データは TotalAgility データベースに保存されます。Amazon S3 や Windows Azure Blob ストレージなどの事前構成済みの外部クラウド データ ストレージ サービスを使用して、バイナリ データを保存および処理できます。クラウド サービスは、SQL Server のメンテナンス コストを削減し、メンテナンスを外部サービスに委任し、暗号化するのに役立ちます。



[ストレージ タイプ] を Azure/Amazon BLOB ストレージまたは **[SQL Server とファイル システム]** に変更すると、バイナリ データは選択したストレージ タイプで保存されます。ストレージ タイプを変更すると、後でオフにすることはできません。

次のいずれかのキャプチャ データ ストレージ タイプを選択します。

ストレージタイプ	説明
[SQL Server] (デフォルト)	SQL Server のキャプチャ データを格納します。

ストレージタイプ	説明
[SQL Server とファイル システム]	<p>FILESTREAM ファイル グループを保存します。</p> <p>キャプチャ ドキュメントはファイル システムに保存されます。データベースには、"FILESTREAM" と呼ばれる特定のファイル グループがあります。SQL Server データベースを使用して、ドキュメントに対してアクションを実行できます。管理者はこれらのファイル グループを作成します。これらのファイル グループが [ファイル ストレージ設定] の下に表示されるようにするには、[スタート] > [プログラム] > [SQL Server Configuration Manager] > [SQL Server のプロパティ] > [FILESTREAM] から、SQL Server Configuration Manager で FILESTREAM 機能を有効にする必要があります。</p> <p>[ファイル ストレージ設定] の下に、SQL Server Configuration Manager で構成されたファイル グループがリストされます。キャプチャ バイナリを保存するファイル グループを選択します。</p> <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i FILESTREAM は SQL Server 認証ではサポートされていません。また、データベースが存在しない場合はサポートされません。</p> </div>
[Windows Azure Blob ストレージ]	<p>キャプチャ データを、Azure Blob ストレージ サービスに格納します。次の [クラウド アカウント設定] を構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. Blob ストレージ サービスに接続するための [アカウント接続文字列] を入力します。 b. ストレージ サービスの [コンテナ名] を入力します。
[Amazon S3]	<p>次のクラウド アカウント設定を構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. [アクセス キー] を入力して、Amazon S3 ストレージ サービスに接続します。 b. [秘密キー] を入力します。 c. [領域] リストで、アジア太平洋 (シドニー) などの定義済みの S3 地域を選択します。(デフォルト: 米国東部 (オハイオ)) d. [バケット名] を入力します。 <p>バケットとは、データ ストレージ用の Amazon S3 の基本的なコンテナのことです。</p>

16. [次へ] をクリックします。

[Kofax TotalAgility リソース 認証情報] ウィンドウが開きます。

17. インストール時に作成されるユーザーの認証情報 ([ユーザー名]、[パスワード] (6 文字以上の英数字)、および[確認]用パスワード) を入力します。

デフォルトでは、ユーザー名フィールドにはログオンしているユーザーの名前が表示されます。必要に応じて、別のユーザー名を指定できます。

18. [次へ] をクリックします。

[インストール オプション] ウィンドウが開きます。

19. 自動的にサービスを開始するには、**[サービスの自動開始]** チェック ボックスをオンのままにして、**[次へ]** をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開き、設定が表示されます。
20. **[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。
[インストールの進行状況] ウィンドウが開きます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。
21. **[次へ]** をクリックします。
[ライセンス] ウィンドウが開きます。
22. 次のいずれかを行います。

オプション	説明
ライセンス サーバーとの接続をスキップして、TotalAgility を起動するときに接続します。 または データベースを手動でインストールするように選択した場合(手順 12)。	<ol style="list-style-type: none"> a. [スキップ] をクリックします。 b. [終了] をクリックします。
ライセンス サーバーに接続します。	<ol style="list-style-type: none"> a. [ライセンス サーバー] フィールドに、ライセンス サーバーの場所を入力します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>i 共有ライセンス サーバーに接続するには、共有ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを入力します。</p> </div> b. [ポート番号] フィールドに、ライセンス サーバーがリスンするポート番号を入力します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>i ライセンス サービスの場合は、TotalAgility をインストールしたコンピュータで Https を有効にして、正しく構成された証明書のサムプリントを提供すると、ライセンス画面のポート番号フィールドに 3582 というポートが自動的に表示されます。</p> </div> c. [次へ] をクリックします。2 番目のライセンス ウィンドウが開きます。次の手順に従います。

23. TotalAgility の **[シリアル番号]** および **[製品コード]** を入力します。
ライセンス サーバーが共有ライセンス サーバーの場合は、シリアル番号と製品コードがデフォルトで表示されます。
24. 選択したライセンス サーバーの読み取り専用フィールド (**[マシン ID]** と **[サーバーのバージョン]**) が表示されます。
25. ライセンスのアクティベーションを行うには、ライセンスのアクティベーション方法を選択します。
 - **[自動]**: インターネット接続が利用可能な場合は、このオプションを使用します。ライセンスのアクティベーションはオンラインで行われます。


- **[手動]:** インターネットに接続されていない場合、または Kofax 製品のインストーラやライセンスユーティリティからの自動アクティベーションが成功しなかった場合は、このオプションを使用します。[アクティベーション コード] ボックスが表示され、アクティベーション コードを指定できるようになります。

a. アクティベーション コードを取得するには:

1. ブラウザに次の URL を入力します。

<http://activatelegacy.Kofax.com/support/Activation/manual.aspx>
Kofax 製品ライセンス アクティベーション ページが開きます。

2. 購入時に発行された **[シリアル番号]** を入力します。ハードウェア キーを保持している場合は、シリアル番号 (通常は 7 文字) がキーに印字されています。
3. 製品ライセンスのアクティベーションを行うために必要な情報を Kofax から送信する場合の宛先となる電子メール アドレスを入力します。
4. **[次へ]** をクリックして、アクティベーション プロセスを続行します。

 Kofax Capture または Ascent Capture を使用していない場合は、**[バージョン]** 選択フィールドを無視します。

5. **[アクティベーション コード]** をコピーして、**[ライセンス]** ウィンドウのフィールドに貼り付けます。
6. **[アクティブ化]** をクリックしてライセンスのアクティベーションを行うか、**[スキップ]** をクリックします。ライセンスのアクティベーションをスキップすると、ライセンスのアクティベーションが後で必要になるという警告が表示されます。

b. アクティベーション コードを取得したら、コードをコピーします。

c. **[ライセンス]** ウィンドウの**[アクティベーション コード]** フィールドにコードを貼り付けます。

d. **[アクティブ化]** をクリックしてライセンスのアクティベーションを行うか、**[スキップ]** をクリックしてライセンスのアクティベーションを後で行います。ライセンスのアクティベーションをスキップすると、サマリーパネルに、ライセンスのアクティベーションが後で必要になるという警告が表示されます。

26. **[終了]** をクリックします。

これでインストールは完了です。

TotalAgility のインストール後、インストーラに Kofax Transformation Server バンドルを [インストール](#) するように求めるメッセージが表示されます。



- さらにサービスをインストールする場合は、TotalAgility をアンインストールし、[アプリケーション サーバー] ウィンドウで必要なサービスを選択して再インストールする必要があります。
- アップグレード中にエラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップに KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt というログ ファイルが作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

TotalAgility をインストールした後に、次の操作を行う場合は、TotalAgility をさらに設定します。

- [TotalAgility の起動](#)
- [Dynamics CRM との統合](#)
- [Dynamics AX との統合](#)
- [Micro Focus Content Manager との統合](#)



インストールした TotalAgility のバージョンを表示するには、TotalAgility Designer にログインして、[システム]>[システム設定] に移動します。製品バージョン情報は、[システム設定] ページの右下に表示されます。最後の 3 桁はビルド番号に対応しています。

同じサーバーへの Web およびアプリケーションの標準インストール

このインストール タイプは、Web サーバーとアプリケーション サーバーを単一のマシンにインストールします。

1. TotalAgility インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして **管理者として実行** を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。

インストールが開始します。

2. **[Kofax TotalAgility インストール プログラム]** ウィンドウで **[次へ]** をクリックし、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。



セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。
4. インストール オプションとして **[標準]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. **[インストール タイプ]** ウィンドウで **[Web/アプリケーション サーバー]** (デフォルト) を選択し、**[次へ]** をクリックします。
[アプリケーション サーバー] ウィンドウが開きます。
6. デフォルトでは、Windows サービスと WCF サービスが選択されて、インストールされます。インストールしないサービスがある場合は、そのサービスのチェック ボックスをオフにします。

Windows サービスには以下が含まれます。

- コア サービス
- レポート サービス
- Transformation サービス
- エクスポート サービス
- インポート サービス

TotalAgility をインストールすると、インポート コネクタの 1 つのインスタンスがデフォルトで自動的にインストールされます。インポート コネクタの複数のインスタンスをインストールするには、**[インポート サービス]** の **[インスタンス 2]** と **[インスタンス 3]** のチェック ボックスをオンにします。

TotalAgility をアンインストールすると、Message Connector のすべてのインスタンスがアンインストールされます。

- ライセンス サービス (プライマリ ライセンス サーバーまたはバックアップ ライセンス サーバー、および Https の有効化)

デフォルトでは、**[プライマリ サーバー]** が選択されます。プライマリ ライセンス サーバーが接続に失敗した場合は、ライセンス サーバー構成ファイルを手動で更新することでバックアップサーバーに接続できます。TotalAgility のインストール後に設定を自動的に更新するには、構成ユーティリティを実行します。

ライセンス サービスの場合は、Https を有効にして、TotalAgility をインストールしたコンピュータで正しく構成された証明書のサムプリントを提供します。Https を有効にして証明書を提供すると、**[ライセンス]** ウィンドウの **[ポート番号]** フィールドに 3582 というポートが自動的に表示されます。

WCF サービスにはコア サービスが含まれます。

i コア サービスのチェック ボックスをオフにした場合、アプリケーション サーバーに Transformation Server のみがインストールされるため、IIS の前提条件は不要です。Transformation Server のスタンドアロン インストールには、IIS は必要ありません。

7. **[次へ]** をクリックします。

[ソフトウェア チェック] ウィンドウが開きます。サービスとデータベースの選択、および必要なソフトウェアがインストールされているかどうかに基づいて、必要なソフトウェアのリストが表示されます。

8. **[検出されたソフトウェア]** リストを確認し、次の手順を実行します。

- システムに必要なソフトウェアの一部がインストールされていない場合は、**[キャンセル]** をクリックしてインストーラを閉じ、ソフトウェアをインストールします。
- システムに必要なソフトウェアがすべてインストールされている場合は、**[次へ]** をクリックします。

[インストール先] ウィンドウが開きます。

9. デフォルトのインストール フォルダを使用するか、**[参照]** をクリックして、TotalAgility がインストールされる目的の場所を選択します。
10. **[次へ]** をクリックします。

[認証情報] ウィンドウが開きます。

11. TotalAgility を実行するユーザーの認証情報 (**[パスワード]**) および**[パスワードの確認]** を入力します。

i サービス アカウント名の末尾が \$ (ドル) である場合は、パスワードを指定しないでください。

12. **[TotalAgility アプリケーションをホストするルート Web サイト]** リストで、TotalAgility アプリケーションをホストする Web サイトを選択します。デフォルトでは、**[既定の Web サイト]** が選択されています。

i IIS マネージャーで追加された Web サイトがこのリストに表示されます。IIS マネージャーで Web サイトを追加するには、**[スタート] > [ファイル名を指定して実行] > Inetmgr > [サイト] > [Web サイトの追加]** をクリックします。

13. SSL をサポートするには、**[SSL のサポート]** チェック ボックスをオンにします。(デフォルト: クリア)

i

- SSL オプションは、IIS で https バインディングを構成した場合にのみ使用できます。「[HTTPS 通信用の TotalAgility の構成](#)」を参照してください。
- TotalAgility Designer で HTTPS が使用されている場合、一部のブラウザで TotalAgility サーバーをリンクすると、クライアント証明書を選択して自分自身を認証するように求めるプロンプトが表示されます。TotalAgility は、指定されたクライアント証明書を必要に応じて自動的に渡すため、プロンプトは無視してください。

14. **[Windows 認証]** で次のいずれかを実行します。

- TotalAgility Designer および Workspace に自動的にログオンするには、**[Windows 認証]** チェック ボックスをオンのままにします (デフォルト)。
- TotalAgility Designer および Workspace に手動でログオンするには、**[Windows 認証]** チェック ボックスをオフにします。

15. **[次へ]** をクリックします。

[データベース] ウィンドウが開きます。

16. 次のいずれかを行います。

オプション	説明
デフォルト設定を使用します。つまり、新しいデータベースがインストールされます。	<p>以下を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. [データベースのインストール] チェック ボックスがオンになっています。 b. [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスがオフになっています。
同じ名前のデータベースが既に存在し、既存のデータベースを上書きします。	<ul style="list-style-type: none"> a. [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオンにします。 [接続のテスト] オプションが使用可能になります。 b. [接続のテスト] をクリックします。 メッセージにデータベース接続の結果が表示されます。データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合、データベースへの接続は失敗します。 c. [次へ] をクリックします。 d. [はい] をクリックして、データベースの上書きを確認します。 <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i 既存のデータベースを上書きするように選択したときにデータベースの詳細が有効ではない場合、またはデータベースが存在しない場合は、エラーが発生します。</p> </div>
ローカル マシン上の既存のデータベースを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> a. [データベースのインストール] および [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオフにします。 b. 各データベースの名前を入力して、手順 13 に従います。
別のマシン上の既存のデータベースを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> a. [データベースのインストール] および、[存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオフにします。 b. 各データベースに、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. データベース名を入力します。 2. [サーバー] の省略記号をクリックし、データベース サーバーのモードとして [SQL Server (SSL 不使用)] または [SQL Azure] を選択します。 3. 使用可能なサーバーのリストから、インストールする SQL サーバーのデータベース サーバーを選択します。 4. [セキュリティ] グループの [認証] リストで、データベース サーバー モードが [SQL Server (SSL 不使用)] の場合は [Windows 認証] または [SQL Server 認証] を使用し、データベースのサーバー モードが [SQL Azure] の場合は [SQL Server 認証]/[Azure Active Directory - パスワード] を使用します。[SQL Server 認証] と [Azure Active Directory - パスワード] オプションのユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。 5. すべてのデータベースが同じサーバー上にある場合は、[これらの設定を他のすべてのデータベースに適用する] チェック ボックスをオンにします。

データベースを手動でインストールします。

- a. setup.exe ウィザードをこの画面に戻します。
- b. **[データベースのインストール]** および **[存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?]** チェック ボックスをオンにします。



- アプリケーション プールがシステム アカウントで実行されている場合は、エラーが表示されません。
- データベースを操作するには、信頼できるアカウントが必要です。SQL 認証情報を入力して、**[OK]**をクリックします。
- データベースなしで TotalAgility をインストールする場合は、構成ユーティリティを使用し、後の段階でデータベースが使用可能になったときにデータベースを指定できます。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

17. **[次へ]** をクリックします。

[データベース接続結果] ウィンドウが開き、データベースとの接続結果が表示されます。データベースへの接続に失敗した場合は、インストールを続行できません。**[戻る]** をクリックし、必要に応じて変更します。



[データベース接続結果] ウィンドウが開くのは、前の手順で「データベースのインストール」または「存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?」のチェック ボックスがオンになっている場合のみです。

18. データベースが正常に接続されたら、**[次へ]** をクリックします。

[キャプチャ バイナリ データ ストレージ] ウィンドウが開きます。

19. デフォルトでは、ドキュメントのキャプチャ、.NET Store DLL、CCM Pack などのバイナリ データは TotalAgility データベースに保存されます。Amazon S3 や Windows Azure Blob ストレージなどの事前構成済みの外部クラウド データ ストレージ サービスを使用して、バイナリ データを保存および処理できます。クラウド サービスは、SQL Server のメンテナンス コストを削減し、メンテナンスを外部サービスに委任し、暗号化するのに役立ちます。



ストレージ タイプを Azure/Amazon BLOB ストレージまたは [SQL Server とファイル システム] に変更すると、バイナリ データは選択したストレージ タイプで保存されます。ストレージ タイプを変更すると、後でオフにすることはできません。

次のいずれかのキャプチャ データ ストレージ タイプを選択します。

ストレージタイプ	説明
[SQL Server] (デフォルト)	SQL Server のキャプチャ データを格納します。

ストレージタイプ	説明
[SQL Server とファイル システム]	<p>FILESTREAM ファイル グループを保存します。</p> <p>キャプチャ ドキュメントはファイル システムに保存されます。データベースには、"FILESTREAM" と呼ばれる特定のファイル グループがあります。SQL Server データベースを使用して、ドキュメントに対してアクションを実行できます。管理者はこれらのファイル グループを作成します。これらのファイル グループが [ファイル ストレージ設定] の下に表示されるようにするには、[スタート] > [プログラム] > [SQL Server Configuration Manager] > [SQL Server のプロパティ] > [FILESTREAM] から、SQL Server Configuration Manager で FILESTREAM 機能を有効にする必要があります。</p> <p>[ファイル ストレージ設定] の下に、SQL Server Configuration Manager で構成されたファイル グループがリストされます。キャプチャ バイナリを保存するファイル グループを選択します。</p> <p>i FILESTREAM は SQL Server 認証ではサポートされていません。また、データベースが存在しない場合はサポートされません。</p>
[Windows Azure Blob ストレージ]	<p>Azure Blob ストレージ サービスを使用して、キャプチャ データを格納します。</p> <p>次の [クラウド アカウント設定] を構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> Blob ストレージ サービスに接続するための [アカウント接続文字列] を入力します。 ストレージ サービスの [コンテナ名] を入力します。
[Amazon S3]	<p>次のクラウド アカウント設定を構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [アクセス キー] を入力して、Amazon S3 ストレージ サービスに接続します。 [秘密キー] を入力します。 [領域] リストで、アジア太平洋 (シドニー) などの定義済みの S3 地域を選択します。デフォルト: 米国東部 (オハイオ) [バケット名] を入力します。 <p>バケットとは、データ ストレージ用の Amazon S3 の基本的なコンテナのことです。</p>

20. [次へ] をクリックします。

[Kofax TotalAgility リソース 認証情報] ウィンドウが開きます。

21. インストール時に作成されるユーザーの認証情報 ([ユーザー名]、[パスワード]) (6 文字以上の英数字)、および [パスワードの確認] を入力します。

i デフォルトでは、ユーザー名フィールドにはログインしているユーザーの名前が表示されます。必要に応じて、別のユーザー名を指定できます。

22. **[次へ]** をクリックします。

[インストール オプション] ウィンドウが開きます。

23. 自動的にサービスを開始するには、**[サービスの自動開始]** チェック ボックスをオンのままにして、**[次へ]** をクリックします。

[インストール レビュー] ウィンドウが開き、設定が表示されます。

24. 設定を確認し、**[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。

[インストールの進行状況] ウィンドウにインストールの進行状況が表示されます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。

[ライセンス] ウィンドウが開きます。

25. 次のいずれかを行います。

オプション	説明
ライセンス サーバーに接続します。	<p>a. [ライセンス サーバー] フィールドに、ライセンス サーバーの場所を入力します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>i 共有ライセンス サーバーに接続するには、共有ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを入力します。</p> </div> <p>b. [ポート番号] フィールドに、ライセンス サーバーがリスンするポート番号を入力します。</p> <p>c. [次へ] をクリックします。2 番目のライセンス ウィンドウが開きます。次の手順に従います。</p>
<p>ライセンス サーバーとの接続をスキップして、TotalAgility を起動するときに接続します。</p> <p>または</p> <p>データベースを手動でインストールするように選択した場合 (手順 13)。</p>	<p>a. [スキップ] をクリックします。</p> <p>b. [終了] をクリックします。</p>

26. **[次へ]** をクリックします。

[インストールの進行状況] ウィンドウが開きます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。

27. **[次へ]** をクリックします。

[ライセンス] ウィンドウが開きます。

28. ライセンス サーバーに接続するには:

a. **[ライセンス サーバー]** フィールドに、ライセンス サーバーの場所を入力します。

i 共有ライセンス サーバーに接続するには、共有ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを入力します。

b. **[ポート番号]** フィールドに、ライセンス サーバーがリスンするポート番号を入力します。

c. **[次へ]** をクリックします。2 番目のライセンス ウィンドウが開きます。

次の場合は **[スキップ]** をクリックして、手順 24 に進みます。

- 今はライセンス サーバーとの接続をスキップして、TotalAgility の起動時に接続する場合。
- データベースを手動でインストールするように選択した場合 (手順 12)。

29. TotalAgility の **[シリアル番号]** および **[製品コード]** を入力します。

i ライセンス サーバーが共有ライセンス サーバーの場合は、**[シリアル番号]** と **[製品コード]** がデフォルトで表示されます。

30. 選択したライセンス サーバーの [ID] が**[マシン ID]** フィールドに表示されます。

31. ライセンスのアクティベーションを行うには、ライセンスのアクティベーション方法を選択します。

- **[自動]**: インターネット接続が利用可能な場合は、このオプションを使用します。ライセンスのアクティベーションはオンラインで行われます。
- **[手動]**: インターネットに接続されていない場合、または Kofax 製品のインストーラやライセンスユーティリティからの自動アクティベーションが成功しなかった場合は、このオプションを使用します。**[アクティベーション コード]** ボックスが表示され、アクティベーション コードを指定できるようになります。

a. アクティベーション コードを取得するには:

1. ブラウザに次の URL を入力します。

<http://activatelegacy.Kofax.com/support/Activation/manual.aspx>
Kofax 製品ライセンス アクティベーション ページが開きます。

2. 購入時に発行された **[シリアル番号]** を入力します。ハードウェア キーを保持している場合は、シリアル番号 (通常は 7 文字) がキーに印字されています。

3. 製品ライセンスのアクティベーションを行うために必要な情報を Kofax から送信する場合の宛先となる電子メール アドレスを入力します。

4. **[次へ]** をクリックして、アクティベーション プロセスを続行します。

i Kofax Capture または Kofax Ascent Capture を使用していない場合は、「バージョン」 選択フィールドを無視します。

5. **[アクティベーション コード]** をコピーして、**[ライセンス]** ウィンドウのフィールドに貼り付けます。

6. **[アクティブ化]** をクリックしてライセンスのアクティベーションを行うか、**[スキップ]** をクリックします。ライセンスのアクティベーションをスキップすると、ライセンスのアクティベーションが後で必要になるという警告が表示されます。

b. アクティベーション コードを取得したら、コードをコピーします。

c. **[ライセンス]** ウィンドウの**[アクティベーション コード]** フィールドにコードを貼り付けます。

d. **[アクティブ化]** をクリックしてライセンスのアクティベーションを行うか、**[スキップ]** をクリックしてライセンスのアクティベーションを後で行います。ライセンスのアクティベ

ションをスキップすると、サマリーパネルに、ライセンスのアクティベーションが後で必要になるという警告が表示されます。

i ライセンスがアクティブ化されると、ライセンス期間が開始されます。そのため、インストール時にはアクティベーションをスキップし、TotalAgility を使用する準備ができてからアクティブ化することが考えられます。初めて TotalAgility にログインする場合は、ライセンスをアクティブ化する必要があります。

32. **[終了]** をクリックします。

これでインストールは完了です。

TotalAgility のインストール後、インストーラに Transformation Server を [インストール](#) するように求めるメッセージが表示されます。



- さらにサービスをインストールするには、TotalAgility をアンインストールし、[Application Server] ウィンドウで必要なサービスを選択して再インストールする必要があります。
- アップグレード中にエラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップに KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt というログ ファイルが作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

TotalAgility をインストールした後に、次の操作を行う場合は、TotalAgility をさらに設定します。

- [TotalAgility の起動](#)
- [Dynamics CRM との統合](#)
- [Dynamics AX との統合](#)
- [Micro Focus Content Manager との統合](#)



i インストールした TotalAgility のバージョンを表示するには、TotalAgility Designer にログインして、[システム]>[システム設定] に移動します。バージョン情報は、[システム設定] ページの右下に表示されます。最後の 3 桁はビルド番号に対応しています。

リアルタイム Transformation Server の標準インストール

1. TotalAgility インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして **管理者として実行** を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。

インストールが開始します。

2. **Kofax TotalAgility インストール プログラム** ウィンドウで **次へ** をクリックし、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

i セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。

4. インストール オプションとして **[標準]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

5. **[インストール タイプ]** ウィンドウで **[リアル タイム Transformation サービス]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

[ソフトウェア チェック] ウィンドウが開きます。サービスとデータベースの選択、および必要なソフトウェアがインストールされているかどうかに基づいて、必要なソフトウェアのリストが表示されます。

6. **[検出されたソフトウェア]** リストを確認し、次の手順を実行します。

- システムに必要なソフトウェアの一部がインストールされていない場合は、**[キャンセル]** をクリックしてインストーラを閉じ、ソフトウェアをインストールします。
- システムに必要なソフトウェアがすべてインストールされている場合は、**[次へ]** をクリックします。

[インストール先] ウィンドウが開きます。

7. デフォルトのインストール フォルダを使用するか、**[参照]** をクリックして別のパスを選択し、**[次へ]** をクリックします。

[認証情報] ウィンドウが開きます。

8. TotalAgility を実行するユーザーの認証情報 (パスワードおよび確認用パスワード) を入力します。

i サービス アカウント名の末尾が \$ (ドル記号) である場合は、パスワードを指定しないでください。

9. **[TotalAgility アプリケーションをホストするルート Web サイト]** リストで、TotalAgility および Workspace アプリケーションをホストする Web サイトを選択します。デフォルトでは、**[既定の Web サイト]** が選択されています。

i IIS マネージャーで追加された Web サイトがこのリストに表示されます。IIS マネージャーで Web サイトを追加するには、**[スタート] > [ファイル名を指定して実行] > Inetmgr > [サイト] > [Web サイトの追加]** をクリックします。

10. SSL をサポートするには、**[SSL のサポート]** チェック ボックスをオンにします。

i SSL オプションは、IIS で https バインディングを構成した場合にのみ使用できます。「[HTTPS 通信用の TotalAgility の構成](#)」を参照してください。

11. 次のいずれかを実行して、**[Windows 認証]** オプションを設定します。

- TotalAgility および Workspace に自動的にログオンするには、**[Windows 認証]** チェック ボックスをオンのままにします (デフォルト)。
- TotalAgility および Workspace に手動でログオンするには、**[Windows 認証]** チェック ボックスをオフにします。

12. **[次へ]** をクリックします。

[データベース] ウィンドウが開きます。

13. デフォルト設定を使用するか、以下を実行します。

- ローカル マシンの既存のデータベースを指し示す場合は、各データベースの名前を入力し、インストール時に作成されるユーザーの認証情報 (パスワードと確認用パスワード) を入力します。
- 各データベースにデータベース サーバーを指定する場合は、次の手順を実行します。データベース名を入力します。[サーバー] の省略記号をクリックし、データベース サーバーのモードとして [SQL Server (SSL 不使用)] または [SQL Azure] を選択します。使用可能なサーバーのリストから、インストールする SQL サーバーのデータベース サーバーを選択します。[セキュリティ] グループの [認証] リストで、データベースのサーバー モードが [SQL Server (SSL 不使用)] の場合は [Windows 認証] または [SQL Server 認証] を使用し、データベースのサーバー モードが [SQL Azure] の場合は [SQL Server 認証]/[Azure Active Directory - パスワード] を使用します。[SQL Server 認証] と [Azure Active Directory - パスワード] オプションのユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。すべてのデータベースが同じサーバー上にある場合は、[これらの設定を他のすべてのデータベースに適用する] チェック ボックスをオンにします。

14. [次へ] をクリックします。

[インストール レビュー] ウィンドウが開きます。

15. 設定を確認して、[次へ] をクリックします。

[インストールの進行状況] ウィンドウが開きます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。

16. [終了] をクリックします。

これでインストールは完了です。

i エラー ログが作成されていないことを確認します。アップグレード中にエラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップに KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt というログ ファイルが作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

17. インストールが予測どおりに機能することを確実にするには、次の手順を実行します。

- <Program Files>/Kofax/TotalAgility/Agility.Server.Web に移動して、Web.config ファイルを編集します。
- TransformationServerExternalService_Binding バインディング パラメータを見つけ、<transport clientCredentialType> 値が Windows に設定されていることを確認します。
- Web.config を保存して閉じます。

非標準ポートへの TotalAgility のインストール

非標準ポートに TotalAgility をインストールするには、まずバインドを編集してポート番号を指定し、ベースアドレスを更新して、Streaming Service を再起動する必要があります。

バインドの編集

1. [スタート] > [実行] > InetMgr > [サイト] > [デフォルトの Web サイト] をクリックします。
デフォルトでは、**デフォルトの Web サイト** が選択されています。
2. デフォルトの Web サイトを右クリックして、**[バインドの編集]** をクリックします。
3. デフォルトのポート 80 を選択して、**[編集]** をクリックします。
4. **サイトバインドの編集** ウィンドウでポート番号を 81 に変更し、**[OK]** をクリックします。
5. Kofax TotalAgility をインストールします。「[TotalAgility のインストール](#)」を参照してください。
6. ブラウザに次の URL を入力して、ログインする URL のポート番号を 81 に変更します。http://
ServerName:81/TotalAgility/forms/GeneralWorkQueue.form

ベースアドレスの更新

ベースアドレスの設定は、手動で編集するか、構成ユーティリティを使用して編集できます。

手動で行う

1. TotalAgility インストール ファイルから、\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\bin> にある Agility.Server.StreamingService.exe.config ファイルを開き、ベースアドレスセクションを変更します。

```
< baseAddresses >
<add baseAddress="http://<ServerName>.<DomainName>:
<non default port>/TotalAgility/Services/Sdk/StreamingService.svc" />
</ baseAddresses >
```

2. 同様に、\\TotalAgilityInstall\CoreWorkerService> にある Agility.Server.StreamingService.exe.config ファイルのベースアドレスセクションを変更します。

```
< baseAddresses >
<add baseAddress="http://<ServerName>.<DomainName>:
<non default port>/TotalAgility/Services/Core/StreamingService.svc" />
</ baseAddresses >
```

3. Streaming Service は http サーバーをホストします。Streaming Service、Package Streaming Service、および Capture Streaming Service が非標準ポートで非管理者アカウントとして実行されている場合は、それらの名前空間を予約する必要があります。そのためには、コマンドプロンプトで、ローカルマシンの管理者権限を持つアカウントを使用して次のコマンドを実行します。

- StreamingService.svc の場合:
 - Web サーバーおよび Web/アプリケーション一体型サーバーのインストールの場合:

```
netsh http add urlacl url=http://+:<non default port>/TotalAgility/
Services/Sdk/StreamingService.svc user=%domainuser%
```
 - アプリケーションサーバーのインストールの場合:

```
netsh http add urlacl url=http://+:/TotalAgility/Services/Core/
StreamingService.svc user=%domainuser%
```
- PackageStreamingService.svc の場合:

```
netsh http add urlacl url=http://+:<non default port>/TotalAgility/
Services/Sdk/PackageStreamingService.svc user=%domainuser%
```

- CaptureStreamingService.svc の場合:

```
netsh http add urlacl url=https://+:<non default port>/TotalAgility/
Services/Sdk/CaptureStreamingService.svc user=%domainuser%
```

URL が予約されておらず、管理者サービス以外のアカウントを使用している場合は、Streaming Service は開始されません。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、Streaming Service のベース アドレス プロパティを更新します。変更を有効にするには、Streaming Service を再起動する必要があります。

Streaming Service の再起動

ベース アドレスが変更されるか、名前空間を予約するコマンドが完了したら、Streaming Service を再起動します。

言語パックのインストール

言語ファイルは、インストール ディレクトリ内の次の場所にあります。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
```

TotalAgility のインストール後、TotalAgility メニューの「言語のインポート」機能を使用して、<言語>.zip をインポートします。

ブラウザの言語をサポートされている言語のいずれかに変更すると、対応する翻訳が表示されます。

i 言語パックのインストール後、ブラウザの表示言語に従って、Workspace のみがローカライズされます。

.NET Framework 言語パックをインストールする

.NET のシステム エラー メッセージをローカライズするには、Web サーバーとアプリケーション サーバーの両方に .NET Framework 言語パックをインストールする必要があります。

.NET Framework 言語パックは、Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

ウイルス対策スキャンからのフォルダの除外

ウイルス対策アプリケーションで、次の TotalAgility フォルダまたはファイルを、スキャンから除外される項目のリストに追加します。ウイルス対策スキャンから除外される TotalAgility フォルダとファイルについては、次の表を参照してください。

ファイル	パス
KSALicenseService.EXE	C:\Program Files(x86)\Kofax\TotalAgility \LicenseServer
Agility.Server.Core.Executor.exe Agility.Server.Core.ExportService.exe Agility.Server.Core.ExportWorker.Host.exe Agility.Server.Core.WorkerService.exe	C:\Program Files\Kofax\TotalAgility \CoreWorkerService
Kofax.CEBPM.Reporting.AzureETL.exe Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe	C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Reporting
Agility.Server.Core.Executor.exe Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe Kofax.CEBPM.DocumentConversionService e.Host.exe Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe Kofax.CEBPM.ProcessingService.Host.exe Kofax.CEBPM.PdfGenerator.exe	C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Transformation Server
Agility.Installation.Server.Upgrade.exe Agility.Server.Core.Executor.exe Agility.Server.ExportConnector.exe Agility.Server.StreamingService.exe	C:\Program Files\Kofax\TotalAgility \Agility.Server.Web\bin

ファイル	パス
7z.exe MC_Albin.exe MC_BISCOM.exe MC_Cluster.exe MC_Converter.exe MC_DocConv.exe MC_Email.exe MC_Email2.exe MC_EWS.exe MC_FaxMain.exe MC_File.exe MC_H323.exe MC_Http.exe MC_Http2.exe MC_Http3.exe MC_Master.exe MC_MSGraph.exe MC_RFax.exe MC_Sip.exe MC_Store.exe MC_T30.exe MC_Tcsi.exe MC_Tnef.exe MC_Tsl.exe MC_Tsl3.exe MC_XSLT.exe XmlTransform.exe RunAsAdmin.exe	C:\Program Files (x86)\Kofax\KIC-ED\MC\bin
ランタイム フォルダ	
AppLogging KIC-ED KSALic KTT ライセンス TotalAgility Vrs WebCapture	C:\ProgramData\Kofax
Telemetry TotalAgility TotalAgility テナント管理	C:\Program Files\Kofax
その他のフォルダ	

ファイル	パス
BWE	C:\Program Files (x86)\Common Files\Kofax
CheckPlus7.3	
CheckPlusInternational	
CheckRecognition1.0	
CheckUltra	
CheckUsability1.7.4	
コンポーネント	
DetectHpMp3.0	
FormXtra7.6	
NLP	
OmniPage22	
Salience7.0	
サーバー	
TableExtraction1.0	

EVRSCheck ユーティリティの実行


EvrCheck ユーティリティは、eVRS 設定が適用された後のイメージの外観をテストするのに役立ちます。設定を適用すると、アプリケーション ウィンドウの左半分には元のイメージが表示され、右半分には処理後のイメージが表示されます。

1. インストール フォルダの次の場所にある **EvrCheck.exe** を実行します。

\\TotalAgility\Utilities\EvrCheck

[前後] ウィンドウが開きます。

2. **選択** をクリックしてイメージを選択します。
選択したイメージとそのメタデータがウィンドウの左半分に表示されます。選択したイメージが複数ページのイメージの場合、「<」および「>」ボタンを使用してページ間を移動できます。
3. 目的の eVRS 設定をコピーして、**EVRS 設定** ボックスに貼り付けます。
イメージは、eVRS 設定に基づいて処理されます。出力がメタデータとともにウィンドウの右半分に表示されます。

 eVRS 設定を編集できます。入力すると、イメージの再処理が開始されます。

第3章

Docker コンテナでの TotalAgility のインストール

この章では、前提条件、制限事項、Docker コンテナの作成と実行の手順、およびサイレント インストールの構成について説明します。

概要

Docker は、アプリケーションを開発、配布、および実行するためのオープン プラットフォームです。Docker を使用すると、アプリケーションをインフラストラクチャから分割できます。Docker を使用することで、アプリケーションの管理と同じ方法でインフラストラクチャを管理できます。

Docker は、コンテナと呼ばれる緩やかに隔離された環境に TotalAgility などのアプリケーションをパッケージ化し、そこで実行する機能を備えています。この分離とセキュリティにより、使用するリソースを仮想マシンよりも抑えながら、1 台のホストで多くのコンテナを同時に実行できます。

TotalAgility アプリケーションは、独立したコンテナまたはオーケストレーションされた一連のコンテナとして、本番環境に展開できます。これは、本番環境がローカル データ センター、クラウド プロバイダ、または両方のハイブリッドのいずれであっても、同じように機能します。TotalAgility が Docker コンテナに展開される場合、TotalAgility インストール プログラムを使用する必要はありません。TotalAgility はすでにインストールされており、コンテナの実行時に必要とされるものは、データベース接続文字列などの関連する構成設定のみです。

デフォルトでは、すべての TotalAgility コンテナでメモリおよび CPU の制限はありません。SQL Server は別の Windows コンテナまたは別のマシンで実行されますが、TotalAgility コンテナでは実行されません。

制限事項

エクスポート コネクタは Docker 環境ではサポートされていません。

前提条件

データベースにはスタンドアロン サーバー (コンテナではなく) を使用することをお勧めします。そのため、コンテナ内で TotalAgility を実行する前に、TotalAgility データベースをセットアップし、リモートでアクセスできるようにしておく必要があります (IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を使用)。

このセットアップを使用するには、使用している SQL Server で次のように構成します。

- ファイアウォールで SQL Server へのリモート アクセスを許可する必要があります
- ユーザーは Windows 認証なしでもアクセスできるため、混合モードでのリモート アクセスを許可するように SQL Server を構成します。
- SQL Server の TCP/IP プロトコルを有効にします。

i 「名前付きパイプ」プロトコルは機能しません。

Windows サーバーへの Docker のインストール

Windows サーバーで Docker を設定します。それには、TotalAgility Windows コンテナの実行をサポートするために Windows Server 2016 以降が必要です。

i Windows Server 2016 で Docker を設定した場合、イメージ品質の分析、モバイル ID、および モバイル カード キャプチャ はサポートされません。

1. 管理者特権で PowerShell コマンド プロンプトを開き、次のコマンドを入力します。

```
Install-Module DockerMsftProvider -Force
Install-Package Docker -ProviderName DockerMsftProvider -Force
```

i Quick Capture で「キー値ペア」抽出機能を使用する場合、または Transformation Server でキーと値のペアのロケータを使用する場合は、次のコマンドを実行する必要があります。

```
docker pull mcr.microsoft.com/windows
```

2. 再起動が必要な場合は、次のコマンドを使用してインスタンスを再起動します。

```
(Install-WindowsFeature Containers).RestartNeeded
```

このコマンドの出力が「はい」の場合、次のコマンドを使用してサーバーを再起動します。Restart-Computer

3. 「docker info」コマンドを実行して、Docker Engine - Enterprise インストールをテストします。

```
docker info
Containers: 1
Running: 0
Paused: 0
Stopped: 1
Images: 26
```



```
Server Version: 18.09.3
Storage Driver: windowsfilter
Windows:
Execution Driver: <not supported>
Logging Driver: json-file
Plugins:
Volume: local
Network: ics l2bridge l2tunnel nat null overlay transparent
Kernel Version: 10.0 14393 (14393.2828.amd64fre.rs1_release_inmarket.190216-1457)
Operating System: Windows Server 2016 Standard Version 1607 (OS Build 14393.2828)
OSType: windows
Architecture: x86_64
CPUs: 4
Total Memory: 10.04 GiB
Name: HV-Docker-QA
ID: HI53:GJSY:3BWT:Z3S5:3NWU:DEFN:6D3X:KCXO:2EMJ:ITZR:QAVY:VXFK
Docker Root Dir: C:\ProgramData\docker
Debug Mode (client): false
Debug Mode (server): false
Registry: https://index.docker.io/v1/
Labels:
Insecure Registries:
 127.0.0.0/8
```

4. この項目は任意です。Docker 内での Transformation Server の NLP サポートは、デフォルトでは有効ではありません。Docker を Transformation Server 内で NLP と連携させ、Docker コンテナイメージのデフォルトの最大サイズを増やすには、次の手順を実行します。
 - a. C:\ProgramData\docker\config にある **daemon.json** を開きます。この場所にファイルが存在しない場合は、ファイルを作成します。
 - b. daemon.json に次のテキストを追加します。

```
{
  "storage-opts": ["size=50GB"]
}
```

- c. Docker Engine サービスを再起動します。

Docker でのイメージ品質の分析、モバイル ID、およびモバイルカード キャプチャの使用

コンテナでイメージ品質の分析、モバイル ID、およびモバイルカード キャプチャを使用するには、Windows Server 2019 以降をコンテナ ホストとして使用し、「イメージ品質の分析、モバイル ID、およびモバイルカード キャプチャ」が必要な、すべての TotalAgility コンテナ タイプ (RTTS および Transformation Server を含む) の Docker ファイルで `mcr.microsoft.com/dotnet/framework/aspnet` という Docker ベースのコンテナを指定する必要があります。

Docker ファイルに以下の変更を加えます。

- 次のように、RUN powershell C:\KTA\PowershellScripts\ConfigureContainer.ps1 という行の前に、RUN powershell "Set-ExecutionPolicy -ExecutionPolicy RemoteSigned" という行を追加します。



- また、モバイル ID およびモバイル カード キャプチャでは、VC++ 2013 x86 再頒布可能パッケージが前提条件として必要です。これは、自動的にダウンロードされ、Docker ファイルにインストールされるようにすることができます。
- Windows Server 2016 または 2019 でイメージ品質の分析、モバイル ID、およびモバイル カード キャプチャ アプリケーション (32 ビット DLL 依存) を実行する場合は、次の DLL が存在することを確認してください。32 ビット バージョンの DLL (avicap32.dll、avifil32.dll、msacm32.dll、msvfw32.dll) をホストの C:\Windows\SysWOW64 からコピーし、DLL を Docker コンテナの C:\Windows\SysWOW64 folder フォルダに貼り付けます。Transformation サービスを実行しているすべてのコンテナに、これらの DLL をコピーする必要があります。

TotalAgility Docker コンテナ イメージの作成

コンテナは、そのイメージと、作成時または起動時に指定する構成オプションによって定義されます。

Docker では、前提条件をインストールするベースとして Microsoft の「microsoft/aspnet」イメージが使用されるため、Docker イメージを作成するにはインターネット接続が必要です。イメージから機能を取得できない場合、ベース オペレーティング システムまたはインターネットからインストールされるためです。



TotalAgility Docker コンテナを正常に構築するには、約 100 GB の空きディスク容量が必要です。

1. Kofax TotalAgility-8.0.0.ZIP の内容を <source directory> に抽出します。
2. 新しいフォルダ <workingdirectory> を作成します。
Docker コマンドは、このディレクトリから実行されます。
3. [ソース ディレクトリ]\Utilities\Docker の内容を [作業ディレクトリ] にコピーします。
4. [ソース ディレクトリ] フォルダの内容を [作業ディレクトリ]\ContainerFiles に移動します。
ファイル構造は、次のようになります。
[作業ディレクトリ]\Dockerfile
[作業ディレクトリ]\ContainerFiles\[ソース ディレクトリ]のすべての内容
[作業ディレクトリ]\ContainerFiles\PowerShellScripts
5. 各コンテナ タイプでの必要に応じて、パラメータを更新します。「[サイレント インストールの構成](#)」を参照してください。
 - IIS に依存しないコンテナ タイプの場合は、次の手順を実行して Docker ファイルを更新します。# を追加して行 #FROM microsoft/aspnet をコメントアウトし、行 #FROM mcr.microsoft.com/dotnet/framework/runtime から # を削除して行のコメントを解除します。

- Transformation Server の Docker イメージを作成し、「キーと値のペア」抽出機能を使用する場合、この機能が動作するようにするには、次のように Docker ファイルを更新する必要があります。

最初の行 FROM mcr.microsoft.com/dotnet/framework/aspnet を削除し、FROM mcr.microsoft.com/windows/server を追加します。

6. イメージを作成するには、コンテナ ホストで PowerShell ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

```
docker build -t <imagenamegoeshere> "<fullpathtoworkingdirectory>"
```

i コンテナ ホストとは、Docker サーバーがインストールされているマシンです。ビルド コマンドのパフォーマンスは、コンテナ ホスト マシンのプロセッサの数に依存します。このコマンドが完了するまで、クアッド コア プロセッサ構成で約 1 時間かかる可能性があります。

例: 次のコマンドは、C:\Docker\Kofax TotalAgility 内の内容を使用して、「kofaxop」という名前のイメージを生成します。

```
docker build -t kofaxop "C:\Docker\Kofax TotalAgility"
```

Docker でのサイレント インストール

1. TotalAgility インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. 以下に、この展開で使用可能な Docker コンテナ タイプと、SilentInstallConfig.xml で更新される必須の構成パラメータを示します。

- [デモ](#)
- [アプリケーション サーバー \(コア サービスと Core Worker\)](#)
- [Web サーバー](#)
- [Web サーバーとアプリケーション サーバー \(コア サービスと Core Worker\)](#)
- [レポート サーバー](#)
- [ライセンス サーバー](#)
- [Transformation Server](#)
- [リアル タイム Transformation サービス](#)

i アプリケーション サーバー、Web サーバー、レポート サーバー、ライセンス サーバー、Transformation Server を任意に組み合わせて、Docker コンテナを作成できます。リアル タイム Transformation Server (RTTS) は、専用の Docker コンテナでのみサポートされます。

デモ

次のパラメータをデモ サーバー インストール用に更新します。

i このガイドのコードをコピーして貼り付ける場合、改行を修正してください。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
ImportService	true	
ExportService	false	エクスポート サービスは、Docker コンテナ内ではサポートされません。
LicenseService	true	
CoreWorkerService	true	
ReportingService	true	
TransformationService	true	<p>i TransformationService が true に設定されている場合は、次のパスから PowerShell スクリプトを実行してフォントをコピーする必要があります。 [作業ディレクトリ]/containerfiles/powershellscripts/copyfonts.ps1。スクリプトを実行すると、PDF 生成用に、フォントが Windir/fonts から Docker コンテナの [作業ディレクトリ]/containerfiles/powershellscripts/fonts にコピーされます。</p>
CoreServices	true	
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
[RunAsSystemAccount]	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	<p>True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。</p> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p>
[Install Info]		
InstallType	Both	

パラメータ	値	説明
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

アプリケーション サーバー (コア サービスと Core Worker)

次のパラメータをアプリケーション サーバー インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
ImportService	true	
ExportService	false	エクスポート サービスは、Docker コンテナ内ではサポートされません。
ReportingService	false	
LicenseService	false	
CoreWorkerService	true	
CoreService	true	
TransformationService	false	
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
[RunAsSystemAccount]	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>
[Install Info]		
InstallType	ApplicationServer	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。

パラメータ	値	説明
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

アプリケーション サーバー (コア サービスのみ)

次のパラメータをコア サービスのみのアプリケーション サーバー インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
ImportService	false	
ExportService	false	エクスポート サービスは、Docker コンテナ内ではサポートされません。
ReportingService	false	
LicenseService	false	
CoreWorkerService	false	
CoreService	true	
TransformationService	false	
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
[RunAsSystemAccount]	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>
[Install Info]		
InstallType	ApplicationServer	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。

パラメータ	値	説明
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されません。

Web サーバー

次のパラメータを Web サーバー インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>
[Install Info]		
InstallType	WebServer	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

Web サーバーとアプリケーション サーバー (コア サービスと Core Worker)

次のパラメータを Web サーバーとアプリケーション サーバーの両方のインストール用に更新します。


パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
ImportService	true	
ExportService	false	エクスポート サービスは、Docker コンテナ内ではサポートされません。

パラメータ	値	説明
ReportingService	false	
LicenseService	false	
CoreWorkerService	true	
CoreService	true	true に設定すると、TotalAgility がサービスなしで Docker にインストールされます。 false に設定すると、コンテナの agility.server.web ディレクトリのフォルダとファイルが欠落します。
TransformationService	false	
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>
[Install Info]		
InstallType	Both	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

Web サーバーとアプリケーション サーバー (コア サービスのみ)

次のパラメータをコア サービスのみの Web サーバーおよびアプリケーション サーバーのインストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
ImportService	false	

パラメータ	値	説明
ExportService	false	エクスポート サービスは、Docker コンテナ内ではサポートされません。
ReportingService	false	
LicenseService	false	
CoreWorkerService	false	
CoreService	true	true に設定すると、TotalAgility がサービスなしで Docker にインストールされます。 false に設定すると、コンテナの agility.server.web ディレクトリのフォルダとファイルが欠落します。
TransformationService	false	
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。  RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。
[Install Info]		
InstallType	Both	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

レポート サーバー

次のパラメータをレポート サーバー インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
ImportService	false	

パラメータ	値	説明
ExportService	false	エクスポート サービスは、Docker コンテナ内ではサポートされません。
ReportingService	true	
LicenseService	false	
CoreWorkerService	false	
CoreService	false	
TransformationService	false	
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #00a0e3; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>
Install Info		
インストール タイプ	ApplicationServer	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

ライセンス サーバー

次のパラメータをライセンス サーバー インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
LicenseService	true	
CoreWorkerService	false	

パラメータ	値	説明
ReportingService	false	
TransformationService	false	
CoreServices	false	
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True に設定されている場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>
[Install Info]		
InstallType	ApplicationServer	
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

i コンテナを構成して開始した後は、ライセンスのアクティベーションは行われません。TotalAgility Designer を使用してライセンスのアクティベーションを行う必要があります。

Transformation Server

次のパラメータを Transformation Server インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
CoreWorkerService	false	
ImportService	false	
ExportService	false	エクスポート サービスは、Docker コンテナ内ではサポートされません。
ReportingService	false	

パラメータ	値	説明
LicenseService	false	
TransformationService	true	<p>i TransformationService が true に設定されている場合は、次のパスから PowerShell スクリプトを実行してフォントをコピーする必要があります。[作業ディレクトリ]/containerfiles/poweshellscripts/copyfonts.ps1。スクリプトを実行すると、PDF 生成用に、フォントが Windir/fonts から Docker コンテナの [作業ディレクトリ]/containerfiles/poweshellscripts/fonts にコピーされます。</p>
CoreServices	false	
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	<p>True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。</p> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p>
[Install Info]		
InstallType	ApplicationServer	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。
TS_INSTALL_NLP_WESTERN	false	true に設定されている場合は、英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、およびドイツ語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES1	false	true に設定されている場合は、イタリア語、ルーマニア語、およびオランダ語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES2	false	true に設定されている場合は、日本語、中国語、および韓国語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。

パラメータ	値	説明
TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES3	false	true に設定すると、スウェーデン語、フィンランド語、デンマーク語、ノルウェー語、アラビア語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。

i Docker 内での Transformation Server の NLP サポートは、デフォルトでは有効ではありません。Docker を Transformation Server 内で NLP と連携させ、Docker コンテナ イメージのデフォルトの最大サイズを増やすには、次の手順を実行します。

1. C:\ProgramData\docker\config にある **daemon.json** を開きます。この場所にファイルが存在しない場合は、ファイルを作成します。
2. daemon.json に次のテキストを追加します。

```
{
  "storage-opts": ["size=50GB"]
}
```

3. Docker Engine サービスを再起動します。

リアルタイム Transformation サービス

次のパラメータをリアルタイム Transformation サービス インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
CoreServices	true	
DatabaseInformation		
UpdateDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
		i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。

パラメータ	値	説明
Install Info		
InstallType	RTTS	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

Docker コンテナの実行

Docker コンテナは、コンテナのランタイム環境をサポートする任意のマシンで実行されます。アプリケーションをホスト オペレーティング システムに関連付ける必要はないため、アプリケーション環境と基盤となるオペレーティング環境の両方をクリーンかつ最小限の状態に保つことができます。

コンテナが実行を停止しているときに発生した状態の変化は、永続ストレージに保存している場合を除き、失われません。

Docker コンテナの実行前に、データベースがセットアップされている必要があります ([データベースのみのインストール モード](#)を使用)。

このセットアップを使用するには、SQL Server で次の構成が必要です。

- ファイアウォールは、SQL Server へのリモート アクセスを許可する必要があります。
- ユーザーは Windows 認証なしのアクセスも許可されるため、SQL Server 自体は混合モードでのリモート アクセスを許可するように構成する必要があります。
- SQL Server に対して TCP/IP プロトコルを有効にする必要があります。

i 名前付きのパイプ プロトコルは機能しません。

- 分割データベースを使用するには、メイン データベースと終了済みジョブのデータベースが同じデータベースを指し、同じデータベース サーバーに存在する必要があります。Microsoft は、Docker コンテナで MSDTC をサポートしていません。

i IP アドレスを使用する SQL Server Management Studio を使用して、データベースがセットアップされたデータベース サーバーにリモートで接続できることを検証します。確認することにより、Docker コンテナが問題なくデータベース サーバーに接続されていることが確認されます。

1. Docker モードで構成ユーティリティを使用して「dockersettings.env」を生成します。このファイルは、後でコンテナの初期化に使用されます。詳細については、『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

i TotalAgilityにアクセスするための認証モードは、構成ユーティリティを使用して設定できません。

2. コンテナへのアクセス権は、コンテナ ホストに制限することも、グローバル アクセスできるようにポート転送することもできます。ホスト マシンのファイアウォール設定で、必要な公開ポート番号を有効にします。

3. Windows 認証以外の場合:

- a. 次のコマンドは、kofaxop イメージを使用してコンテナを起動します。Kofax TotalAgility 設定は、Windows 認証なしで `dockersettings.env` から適用されます。コンテナのポート 80 は、コンテナ ホストのポート 5000 に転送されます。

```
docker run -d --hostname "opdemo2" --name "opdemo2" --env-file "C:\  
  \Docker\TotalAgility\dockersettings.env" -p 5000:80 kofaxop
```

- b. 次のコマンドは、kofaxop イメージを使用してコンテナを起動します。Kofax TotalAgility 設定は、Windows 認証なしで `dockersettings.env` から適用されます。

```
docker run -d --hostname "opdemo1" --name "opdemo1" --env-file "C:\  
  \Docker\TotalAgility\dockersettings.env" kofaxop
```

4. コンテナでライセンスを有効にするには、「-p 3581:3581」を「docker run」コマンドに追加する必要があります。例:

```
docker run -d --hostname "opdemo2" --name "opdemo2" --env-file "C:\Docker  
  \TotalAgility\dockersettings.env" -p 5000:80 -p 3581:3581 kofaxop
```

i コンテナでライセンス サーバーを実行している場合、関連するライセンスのシリアル番号のアクティベーションを行ってから Kofax TotalAgility Core Worker サービスを開始する必要があります。

5. 「`docker exec -it <container id\name goes here> powershell`」を使用して、作成されたコンテナの PowerShell セッションに接続します。

たとえば、`docker exec -it opdemo3 powershell` は、コンテナ名として `opdemo3` を使用して、コンテナ内で `powershell` セッションを起動します。

6. Message Connector に必要なポート番号を開くには、「-p 5003:25086」を「docker run」コマンドに追加する必要があります。例:

```
docker run -d --hostname "opdemo2" --name "opdemo2" --env-file "C:\Docker  
  \TotalAgility\dockersettings.env" -p 5000:80 -p 5003:25086 kofaxop
```

i 5003 は、Message Connector の転送ポート番号の例です。Message Connector 用に構成されたポート番号を使用します。同様に、Message Connector の他のインスタンスのポート番号を構成できます。

複数のホストで TotalAgility コンテナを実行している場合は、組み込み DNS サーバーを備えた Docker Swarm または Kubernetes オーケストレータを使用して、複数のホスト間でコンテナの DNS を解決することをお勧めします。

コンテナ オーケストレータを使用しないで、Transformation Server 同期処理を使用している場合は、`TRANS_SERVER_INSTANCE` データベース テーブルを手動で更新して、Transformation Server コンテナが実行されているホストの IP URL を含める必要があります。Transformation Server サービスは、デフォルトでポート 9001 で実行されます。ただし、構成ユーティリティを使用してポートを再構成できます。このポートは、別のホスト マシンでホストされているアプリ コンテナで使用す

るために公開する必要があります。Transformation Server コンテナの実行中に、追加のスイッチ - p TS Port :9001 を使用します。

TotalAgility へのアクセス

Docker コンテナに接続し、すべてのサービスが期待される状態になっていることを確認したら、次の URL を使用して、ポート転送が設定されたコンテナ ホストの外部の TotalAgility にアクセスします。

- `http://<コンテナ ホストの IP アドレス>:<コンテナ ホストの公開ポート>/TotalAgility/Designer`
- `http://<コンテナ ホストの IP アドレス>:<コンテナ ホストの公開ポート>/TotalAgility/Forms`

IIS をホストしているコンテナの場合 - TotalAgility Web サイト

Docker コンテナ内の大文字と小文字を区別しない URL 解決ではデフォルトの動作が異なるため、追加の構成を実行して、大文字と小文字を区別しない方法で TotalAgility Web サイトを解決できるようにする必要があります。

Designer/Workspace のコンテナを構成する場合は、URL にアクセスする前に、VirtualHost ファイルを使用して、ホスト OS を介したポートと URL の公開を構成することをお勧めします。また、書き換えルールを使用して、URL へのすべてのアクセスが小文字表現にリダイレクトすることも検討してください。

RFC 2616 に従い、「...クライアントは、大文字と小文字を区別して、URI 全体をオクテットごとに比較する必要があります...ホスト名を比較するときは、大文字と小文字を区別しないようにしてください。」

Docker デーモンおよびキャッシュで保持される URL の解決は、大文字と小文字が区別されます。このため、最初のアクセスの前に URL の大文字と小文字が変更された場合は、問題が生じる可能性があります。このキャッシュの問題は、Docker で WSL v1 が使用されている場合に発生します。この問題は WSL v2 で解決されます。Docker 内では、複数のプロトコルに同じコンテナ ポートを開示することはできません。また、大文字と小文字を区別する URL を以前にキャッシュした場合は、キャッシュをクリアして小文字の URL に置き換える必要があります。

Message Connector へのアクセス

コンテナ ホスト内またはコンテナ ホストの外部から Message Connector にアクセスするには、次の手順を実行します。

1. URL として `http: DockerServerIP:5003/en/file/index.html` を使用します。
ここで、DockerServerIP は Docker コンテナ ホストの IP アドレスです。5003 は Message Connector にアクセスするために構成された転送済みのポート番号です。Message Connector 用に構成された転送ポート番号を使用します。
Message Connector Monitor が表示されます。
2. Message Connector の構成にアクセスするには、**構成ツール** をクリックします。
Message Connector 構成ツールが表示されます。
3. 必要な構成変更を行って、保存します。

4. 必要に応じて Message Connector サービスを再起動するには、**サービスの再起動** ボタンをクリックします。

Docker コンテナから Message Connector サービスを停止して再起動するには、次のコマンドを使用します。Start-service KIC-ED-MCStop-service KIC-ED-MC

便利な Docker コマンド

このテーブルには、便利な Docker コマンドがいくつか含まれています。

Docker コマンド	用途
docker images	サーバーで現在使用可能なすべての Docker イメージのリストを取得します。
docker ps -a	サーバーで使用可能なすべてのコンテナのリストを取得します。
docker start <containerID>	サーバーで、ID が <containerID> のコンテナを開始します。
docker stop <containerID>	サーバーで、ID が <containerID> のコンテナを停止します。
docker rm <containerID>	サーバーで、ID が <containerID> のコンテナを削除します。
docker rmi <imagename>	サーバーで、ID が <imagename> のイメージを削除します。このイメージを使用する子コンテナがない場合のみ、削除は成功します。
docker inspect -f "{{ .NetworkSettings.Networks.nat.IPAddress }}" <containerID>	ID が <containerID> のコンテナの IP アドレスを取得します。
docker cp "<containerID>:/<fullfilepathoncontainer>" "<pathtofolderonserver>"	コンテナからサーバーにファイルをコピーします。
docker cp "<fullfilepathonserver>" "<containerID>:/<fullfilepathoncontainer>"	サーバーからコンテナにファイルをコピーします。
docker logs <containerID>	特定のコンテナのすべてのログを表示します。
docker logs - tail n <containerID>	特定のコンテナの最後の「n」個のログを表示します。
type <FQDN of text file>	PowerShell インスタンス内のテキスト ファイルの内容を表示します。
Get-Process	すべてのプロセスのリストを取得します。
Get-Service	すべてのサービス (実行中および停止中) のリストを取得します。
start-service ServiceNameGoesHere	特定のサービスを開始します。
Stop-service ServiceNameGoesHere	特定のサービスを停止します。
Get-WMIObject Win32_Service select starname, name, status	いくつかの追加の列を含む、すべてのサービスのリストを取得します。
Get-EventLog -LogName Application -newest 10 format-table -auto -wrap	イベント ビューアーから最新の 10 個のアプリケーション ログを取得します。
import-module webadministration	次のコマンドの前に実行します。
get-iisappool	アプリケーション プールの名前を取得します。

Docker コマンド	用途
get-itemProperty -path IIS:\APPPools\TotalAgilityAppPool -names	アプリケーション プールの ID 情報を取得します。

シークレットの使用

次のいずれかのシークレットを使用して、データベース接続文字列やパスワードなどの機密情報を保存できます。

- Kubernetes
- Docker
- AWS

Kubernetes Secrets

Kubernetes シークレットを使用している場合は、Docker イメージを構築して Kubernetes にデプロイする前に、いくつかの変更を加える必要があります。たとえば、MainDBConnectionString のアプリケーション設定を Secret として使用する場合は考えてみます。

Kubernetes シークレットをボリュームまたは環境変数として使用できます。

ボリュームとしての Kubernetes シークレットの使用

1. MainDBConnectionString の詳細を含む Secret <maindbsecret> を Kubernetes に作成します。Secret を作成するには、Kubernetes のドキュメントを参照してください。
2. Docker コンテナのインストール ファイルから、`\\Utilities\Docker\ContainerFiles\PowershellScripts\` に移動します。"`$appSetting.value = $_.Value;`" の行を、次の行に置き換えます。これにより、'maindbconnectionstring' の設定を確認し、すべての Kofax TotalAgility 構成ファイルの値を、<target path> にマウントされた <maindbsecret> ファイルの内容で更新します。

```
if($appSetting.key -eq "<MainDBConnectionString>")
{
    $dbconnstring = (Get-Content "<target path>\<maindbsecret>") -as [string];
    if($dbconnstring -ne $null)
    {
        $appSetting.value = $dbconnstring;
    }
    else
    {
        $appSetting.value = $_.Value;
    }
}
```

i DockerSettings.env 内の対応するすべての「MaindbConnectionString」の値は、Secrets から取得されるため、入力する必要はありません。

3. 変更を保存します。

4. 同様に、必要に応じて他のアプリケーションの設定用の `UpdateConfigAppSettings.ps1` スクリプト ファイルを更新します。
5. Pod の定義を変更して、ボリューム `<maindbvol>` と `<maindbsecret>` を、コンテナ内の選択した `<target path>` に追加します (例: `</kta/maindb/>`)。ボリュームを追加するには、Kubernetes のドキュメントを参照してください。
6. Pod を展開すると、コンテナの `c:\kta\maindb\` の下に接続文字列値を含む Secret ファイル `<maindbsecret>` が作成され、対応する TotalAgility 構成ファイル設定がその Secret 値で更新されます。

環境変数としての Kubernetes シークレットの使用

1. MainDBConnectionString の詳細を含む Secret `<maindbsecret>` を Kubernetes に作成します。Secret の作成については、Secrets に関する Kubernetes のドキュメントを参照してください。
2. Pod の定義を変更して、Secret `<maindbsecret>` の環境変数 `<env variable name>` を追加します。`<env variable name>` は、「KTA_Agility.Server.Web--web.config_MainDBConnectionString」など、`dockerSettings.env` 内の名前と同じにする必要があります。これにより、Pod を展開すると環境変数「KTA_Agility.Server.Web--web.config_MainDBConnectionString」に、接続文字列値を含む Secret `<maindbsecret>` の値が設定されます。環境変数として追加するには、Kubernetes のドキュメントを参照してください。
3. 同様に、Secret からの値が必要な Pod の定義に複数の環境変数を追加できます。スクリプト ファイルを変更する必要はありません。

Docker Secrets

Docker Secrets を使用して機密情報を保存している場合は、Swarm モードでのみ使用できます。そのため、スタンドアロン コンテナではこの機能を使用できません。

i Docker イメージを構築して Swarm に展開する前に、次の変更を行う必要があります。

1. MainDBConnectionString の詳細を含む Secret `<maindbsecret>` を Swarm に作成します。Secret を作成するには、Docker のドキュメントを参照してください。
2. Docker コンテナのインストール ファイルから、`\\Utilities\Docker\ContainerFiles\PowershellScripts` に移動し、`UpdateConfigAppSettings.ps1` Powershell スクリプト ファイルを更新します。`"$appSetting.value = $_.Value;"` の行を、次の行に置き換えます。これにより、`'maindbconnectionstring'` の設定を確認し、すべての Kofax TotalAgility 構成ファイルの値を、デフォルトのターゲットの場所 (Windows コンテナの場合、デフォルトのターゲットは `'C:\ProgramData\Docker\secrets'` の下) にある `<maindbsecret>` ファイルの内容で更新します。

```
if($appSetting.key -eq "<MainDBConnectionString>")
{
    $dbconnstring = (Get-Content "<target location>\<maindbsecret>") -as [string];
    if($dbconnstring -ne $null)
    {
        $appSetting.value = $dbconnstring;
    }
    else
    {
        $appSetting.value = $_.Value;
    }
}
```

}

i DockerSettings.env 内の対応するすべての「MaindbConnectionString」の値は、Secrets から取得されるため、入力する必要はありません。

3. 変更を保存します。同様に、必要に応じて他のアプリケーションの設定用の UpdateConfigAppSettings.ps1 スクリプト ファイルを更新できます。
4. Docker サービスを作成/更新し、Docker 環境ファイルとともに <maindbsecret> Secret へのアクセスを提供します。これにより、コンテナに Secret ファイル <maindbsecret> が作成され、Kofax TotalAgility 構成ファイルの対応する設定がその Secret 値で更新されます。サービスの作成については、Docker のドキュメントを参照してください。

AWS Secrets

AWS シークレットを使用してデータベース接続文字列やパスワードなどの機密情報を保存している場合は、AWS Tools for PowerShell またはカスタム .Net ライブラリを介してコンテナからシークレットを動的に取得できます。(たとえば、MainDBConnectionString のアプリケーション設定を Secret として使用するとします)。

i Docker イメージを構築する前に、次の変更を行います。

AWS Tools for PowerShell の使用

AWS Tools for PowerShell 経由で AWS シークレットを使用している場合は、次の変更を行います。

1. MainDBConnectionString の詳細を含む Secret <mainsecret> を AWS Secret Manager に作成します。
Secret の作成については、AWS のドキュメントを参照してください。
2. NuGet プロバイダと AWS.Tools.SecretsManager をコンテナにインストールして、AWS から Secret を取得します。
3. Docker のインストール ファイルから、\\TotalAgility\Utilities\Docker\ContainerFiles\PowershellScripts\ に移動し、UpdateConfigAppSettings.ps1 PowerShell スクリプト ファイルを更新します。「Update-ConfigFile」関数で、行「Get-ChildItem env:*|」の前に次のスクリプト行を追加します。これにより、必要な AWS Tools for PowerShell がインストールされ、AWS Secret から取得した <mainsecret> の内容が更新されます。

```
Set-PSRepository -Name 'PSGallery' -InstallationPolicy Trusted
Install-PackageProvider -Name NuGet -MinimumVersion 2.8.5.201 -Force
If(-not (Get-InstalledModule AWS.Tools.SecretsManager -ErrorAction
  silentlycontinue))
{
  Install-Module AWS.Tools.SecretsManager -RequiredVersion 4.1.4.0 -Confirm:
  $False -Force
}
$sawsAccessKeyId = [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_ACCESSKEYID');
$sawsSecretAccessKey =
  [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_SECRETACCESSKEY');
$sawsRegion = [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_REGION');
Set-AWSCredential -AccessKey $sawsAccessKeyId -SecretKey $sawsSecretAccessKey
Initialize-AWSDefaultConfiguration -Region $sawsRegion
```

```
$awsMainSecretName =
[Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_MAINSECRETNAME');
$awsMainSecret_response = Get-SECSecretValue -SecretId $awsMainSecretName
$mainSecretJsonobj = ConvertFrom-Json -inputObject
$awsMainSecret_response.SecretString
```

- 「\$appSetting.value = \$_.Value;」の行を、次の行に置き換えます。これにより、'maindbconnectionstring' の設定を確認して、すべての Kofax TotalAgility 構成ファイルの値を AWS Secret から取得した <mainsecret> の内容で更新します。

```
        if($appSetting.key -eq "<MainDBConnectionString>")
        {
            $dbconnstring = $mainSecretJsonobj.$awsMainSecretName;
            if($dbconnstring -ne $null)
            {
                $appSetting.value = $dbconnstring;
            }
        }
        else
        {
            $appSetting.value = $_.Value;
        }
    }
```

- AWS 環境変数をクリーンアップする 「Update-License-Config」関数の前に、以下のスクリプト行を追加します。

```
$awsAccessKeyId = [Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_ACCESSKEYID',
$null);
$awsSecretAccessKey =
[Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_SECRETACCESSKEY',$null);
$awsRegion = [Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_REGION',$null);
$awsMainSecretName =
[Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_MAINSECRETNAME',$null);
```

- 変更を保存します。
- Docker コンテナを実行すると、上記のスクリプトで記述した KTA_AWS 変数が環境変数として渡されます。「Docker コンテナの実行」セクションで説明した Docker コマンドも、これらの **--env** 変数で **--env-file** とともに渡されます。

```
docker run -d --hostname "<host>" --name "<name>" --env
KTA_AWS_ACCESSKEYID=<access id> --env KTA_AWS_SECRETACCESSKEY=<key> --env
KTA_AWS_REGION=<region> --env KTA_AWS_MAINSECRETNAME=<mainsecret> -env-
file "dockersettings.env" -p <port> <image>
```

i DockerSettings.env 内の対応するすべての「MaindbConnectionString」の値は、Secrets から取得されるため、入力する必要はありません。

- コンテナの実行時に、Secret <mainsecret> を取得します。これには接続文字列値が含まれ、対応する Kofax TotalAgility 構成ファイル設定を Secret 値で更新します。
- 同様に、UpdateConfigAppSettings.ps1 スクリプト ファイル と docker run コマンドを更新して、それぞれに \$ awsMainSecretName と KTA_AWS_MAINSECRETNAME などの新しい変数を追加することで、AWS Secret から他のアプリケーション設定を取得できます。

カスタム ライブラリの使用

カスタム ライブラリ経由で AWS シークレットを使用している場合は、次の変更を行います。

1. MainDBConnectionString の詳細を含む Secret <mainsecret> を AWS Secret Manager に作成します。

Secret の作成については、AWS のドキュメントを参照してください。

2. AWS Secret を取得する GetAWSSecret() メソッドを使用して .NET カスタム ライブラリ「AWSSecretManager.dll」を作成します。そのためには、AWSSDK.Core & AWSSDK.SecretsManager SDK for .NET がインストールされている必要があります。メソッドコードは次のようになります。

```
class AWSSecretManager:
public static string GetAWSSecret(string awsAccessKeyId, string awsSecretAccessKey,
string region , string awsSecretName)
{
    string secret = string.Empty;
    IAmazonSecretsManager client = new
AmazonSecretsManagerClient(awsAccessKeyId, awsSecretAccessKey,
RegionEndpoint.GetBySystemName(region));
    GetSecretValueRequest request = new GetSecretValueRequest();
    request.SecretId = awsSecretName;
    request.VersionStage = "AWSCURRENT"; // VersionStage defaults to
AWSCURRENT if unspecified.
    GetSecretValueResponse response = null;
    // In this sample we only handle the specific exceptions for the
'GetSecretValue' API.
    // See https://docs.aws.amazon.com/secretsmanager/latest/apireference/
API_GetSecretValue.html
    // We rethrow the exception by default.
    try
    {
        response = client.GetSecretValueAsync(request).Result;
    }
    catch (DecryptionFailureException e)
    {
        // Secrets Manager can't decrypt the protected secret text using
the provided KMS key.
        // Deal with the exception here, and/or rethrow at your
discretion.
        throw;
    }
    catch (InternalServiceErrorException e)
    {
        // An error occurred on the server side.
        // Deal with the exception here, and/or rethrow at your
discretion.
        throw;
    }
    catch (InvalidParameterException e)
    {
        // You provided an invalid value for a parameter.
        // Deal with the exception here, and/or rethrow at your discretion
throw;
    }
    catch (InvalidRequestException e)
    {
        // You provided a parameter value that is not valid for the
current state of the resource.
```

```

        // Deal with the exception here, and/or rethrow at your
discretion.
        throw;
    }
    catch (ResourceNotFoundException e)
    {
        // We can't find the resource that you asked for.
        // Deal with the exception here, and/or rethrow at your
discretion.
        throw;
    }
    catch (System.AggregateException ae)
    {
        // More than one of the above exceptions were triggered.
        // Deal with the exception here, and/or rethrow at your
discretion.
        throw;
    }

    // Decrypts secret using the associated KMS CMK.
    // Depending on whether the secret is a string or binary, one of these
fields will be populated.
    if (response.SecretString != null)
    {
        secret = response.SecretString;
    }
    else
    {
        MemoryStream memoryStream = new MemoryStream();
        memoryStream = response.SecretBinary;
        StreamReader reader = new StreamReader(memoryStream);
        secret =
System.Text.Encoding.UTF8.GetString(Convert.FromBase64String(reader.ReadToEnd()));
    }

    return secret;
}

```

3. Docker のインストール ファイルから、\\TotalAgility\Utilities\Docker \ContainerFiles\PowershellScripts\ に移動し、以下のユーティリティ DLL ファイルをコピーします。AWSSecretManager.dll、AWSSDK.Core.dll、AWSSDK.SecretsManager.dll。
4. UpdateConfigAppSettings.ps1 PowerShell スクリプト ファイルを更新します。「Update-ConfigFile」関数で、行「Get-ChildItem env:*| ...」の前に次のスクリプト行を追加します。これにより、カスタム ライブラリが読み込まれ、AWS Secret から取得した <mainsecret> の内容が次のように更新されます。

```

$add = [Reflection.Assembly]::LoadFile("C:\KTA\PowershellScripts
\AWSecretManager.dll")
$add = [Reflection.Assembly]::LoadFile("C:\KTA\PowershellScripts
\AWSSDK.SecretsManager.dll")
$add = [Reflection.Assembly]::LoadFile("C:\KTA\PowershellScripts\AWSSDK.Core.dll")

$awsAccessKeyId = [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_ACCESSKEYID');
$awsSecretAccessKey =
[Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_SECRETACCESSKEY');
$awsRegion = [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_REGION');
Set-AWSCredential -AccessKey $awsAccessKeyId -SecretKey $awsSecretAccessKey
Initialize-AWSDefaultConfiguration -Region $awsRegion

$awsMainSecretName =
[Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_MAINSECRETNAME');

```



```

Try {
    $awsMainSecret_response =
    [AWSecretManager.AWSecretManager]::GetAWSecret($awsAccessKeyId,
    $awsSecretAccessKey,$awsMainSecretName)
}
Catch {
    Write-Host "Exception::"
    Write-Host $_.Exception
}
$mainSecretJsonobj = ConvertFrom-Json -inputObject
$awsMainSecret_response.SecretString

```

- 「\$appSetting.value = \$_.Value;」の行を、次の行に置き換えます。これにより、「maindbconnectionstring」の設定を確認してすべての TotalAgility 構成ファイルの値を AWS Secret から取得した <mainsecret> の内容で更新します。

```

        if($appSetting.key -eq "<MainDBConnectionString>")
        {
            $dbconnstring = $mainSecretJsonobj.$awsMainSecretName;
            if($dbconnstring -ne $null)
            {
                $appSetting.value = $dbconnstring;
            }
        }
        else
        {
            $appSetting.value = $_.Value;
        }
    }
}

```

- AWS 環境変数をクリーンアップする 「Update-License-Config」関数の前に、以下のスクリプト行を追加します。

```

$awsAccessKeyId =
[Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_ACCESSKEYID',$null);
$awsSecretAccessKey =
[Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_SECRETACCESSKEY',$null);
$awsRegion = [Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_REGION',
$null); $awsMainSecretName =
[Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_MAINSECRETNAME',$null);


```

- 変更を保存します。
- Docker コンテナを実行すると、上記のスクリプトで記述した KTA_AWS 変数が環境変数として渡されます。「Docker コンテナの実行」セクションで説明した Docker 実行コマンドも、これらの --env 変数で --env-file とともに渡されます。

```

docker run -d --hostname "<host>" --name "<name>" --env
KTA_AWS_ACCESSKEYID=<access id> --env KTA_AWS_SECRETACCESSKEY=<key> --env
KTA_AWS_REGION=<region>--env KTA_AWS_MAINSECRETNAME=<mainsecret> -env-file
"dockersettings.env" -p <port> <image>

```

 DockerSettings.env 内の対応するすべての「MaindbConnectionString」の値は、Secrets から取得されるため、入力する必要はありません。

- コンテナの実行時に、Secret <mainsecret> を取得します。これには接続文字列値が含まれ、対応する Kofax TotalAgility 構成ファイル設定を Secret 値で更新します。

10. 同様に、UpdateConfigAppSettings.ps1 スクリプト ファイル と docker run コマンドを更新して、それぞれに \$ awsMainSecretName と KTA_AWS_MAINSECRETNAME などの新しい変数を追加することで、AWS シークレットから他のアプリケーション設定を取得できます。

SSL 証明書をコンテナにインポートする

Docker コンテナでは、TotalAgility によって使用されるカスタム SSL 証明書をインポートできます。

パスワードで保護された証明書と秘密キーをインポートできます。証明書のエクスポートの詳細については、SSL Support Desk を参照してください。

1. ホスト マシンに「HostMachineFolder」などの新しいフォルダを作成します。
2. 新しく作成したフォルダ (HostMachineFolder) に、CertificateName.pfx などの証明書ファイルをコピーします。
3. 証明書のパスワードは、テキストまたはファイルでコンテナに渡すことができます。ファイルは、シークレットとして (Docker Compose を使用する場合は Kubernetes など)、またはマップされたボリュームとして、コンテナに渡すことができます。マップされたボリュームを使用してパスワード ファイルを渡すには、以下の手順を実行します。
 - a. HostMachineFolder フォルダ内に、password.txt などの新しいテキスト ファイルを作成します。
 - b. 新しく作成したファイルを開き、ファイルの最初の行に証明書のパスワードを入力します。
 - c. ファイルを保存し、ファイル属性を非表示に変更します。
4. 以前のセクションで説明した「docker run」コマンドに 2 つの追加スイッチ「-v」および「-e」を付けて使用して、Docker コンテナを作成します。
 - a. -v: コンテナは、マップされた ContainerFolder を介して HostMachineFolder の内容にアクセスできます。
 - b. -e: SSL 証明書のパス「KTA_SSL_CERT_PATH」およびパスワード (「KTA_SSL_CERT_PASSWORD」またはパスワードのパス「KTA_SSL_CERT_PASSWORD_PATH」) を格納するための追加の環境変数が作成されます。
 - c. 以下は、-v および -e を追加した「docker run」コマンドの例です。
 - `docker run --env-file "C:\Docker\TotalAgility\dockersettings.env" -e KTA_SSL_CERT_PASSWORD="password" -e KTA_SSL_CERT_PATH="HostMachineFolder\CertificateName.pfx" -v "HostMachineFolder:ContainerFolder" -p 5000:443 -d kofax/kta_771`
 - `docker run --env-file "C:\Docker\TotalAgility\dockersettings.env" -e KTA_SSL_CERT_PASSWORD_PATH="C:\folder\password.txt" -e KTA_SSL_CERT_PATH="C:\folder\Cert.pfx" -v "C:\folder:C:\folder2" -p 5000:443 -d kofax/kta_771`
 - d. HostMachineFolder をホスト マシン上の実際の証明書パスに置き換えます。
 - e. CertificateName を実際の証明書名に置き換えます。

- f. ContainerFolder をコンテナの実際のフォルダ パスと名前に置き換えます (フォルダが作成されます)。

i フォルダのパスまたは名前にスペースが含まれていないことを確認してください。

IIS および SQL Server で Windows 認証の使用

GSMA を使用して、Docker コンテナの Windows 認証を構成します。

IIS および SQL Server での Windows 認証の使用

Docker コンテナは、Active Directory ドメインに参加できません。ただし、LocalSystem または NetworkService アカウントとして実行するように構成された、コンテナ内のすべてのローカル Windows サービスおよび IIS アプリケーション プールについて、コンテナを実行するときに特定の AD Group Managed Service Account (gMSA) を使用するように指定できます。

コンテナで LocalSystem または NetworkService アカウントとして実行すると、サービスとアプリケーション プールは自動的に gMSA のアクセス権を取得し、Windows 認証を使用してコンテナ外の他の仮想マシンおよびマシンにアクセスできるようになります。

Windows 認証を使用するように TotalAgility Docker コンテナを設定する場合は、SilentInstallConfig.xml ファイルを変更して、すべての TotalAgility サービスおよび IIS アプリ プールに使用するアカウントとして LocalSystem を指定する必要があります。このアカウントは、コンテナの構築時に使用されます。

以下の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Docker サーバー、SQL Server マシン、および必要なドメイン コントローラの下で gMSA を使用するマシンを追加します。
- これらのマシンを Active Directory の Computer フォルダの下に追加します。
- Active Directory の Builtin フォルダの下に、「ContainerHostGroupName」などのグローバル セキュリティ グループを作成します。
- Docker サーバー、SQL Server マシン、または gMSA を使用するマシンを、この新しいグループのメンバーとして追加します。

IIS および SQL Server で Windows 認証を使用するには、以下の手順を実行します。

1. KDS ルート キーを作成します。

このキーは (他の情報と共に)、DC 上の KDS サービスによってパスワードを生成するために使用されます。このキーは、ドメインごとに 1 回のみ生成できます。

- a. ドメイン コントローラにログインし、以下のコマンドを実行します。

```
Import-module ActiveDirectory  
Add-KdsRootKey -EffectiveImmediately
```

- b. 次のコマンドを使用してキーを確認します。

```
Get-KdsRootKey
```

2. gMSA アカウントを作成します。

- a. ドメイン コントローラにログインし、次のコマンドを実行します。

```
GMSA account name : containerhost
Domain name: TotalAgilityexample.com

New-ADServiceAccount -Name containerhost -DNSHostName TotalAgilityexample.com
-PrincipalsAllowedToRetrieveManagedPassword "Domain Controllers",
"domain admins", "CN= ContainerHostGroupName,CN=Builtin, DC=
TotalAgilityexample, DC=COM" -KerberosEncryptionType RC4, AES128, AES256
```

- b. 次のコマンドを使用して新しい gMSA アカウントを確認します。

```
Get - ADServiceAccount - Identity containerhost
```

- c. ドメインのマネージド サービス アカウントに新しい gMSA オブジェクトが表示されます。

3. 使用するサーバーに gMSA アカウントを追加します。

- a. Active Directory 管理センターを開き、マネージド サービス アカウントに移動します。
- b. gMSA アカウントを選択し、**[プロパティ]** をクリックします。
- c. セキュリティを選択し、**[追加]** をクリックします。
- d. Docker サーバーや SQL Server マシンなど、gMSA を使用するコンピュータを選択します。
- e. 変更を有効にするために、ドメイン コントローラを再起動します。
- f. gMSA を使用するコンピュータを再起動します。

4. サーバーに gMSA アカウントをインストールします。

- a. Docker サーバーとして使用するマシンにログインします。
- b. Active Directory 機能が利用できない場合は、次のコマンドを実行します。

```
Enable-WindowsOptionalFeature -FeatureName ActiveDirectory-Powershell
-online -all
```

- c. gMSA をインストールしてテストするには、次のコマンドを実行します。

```
// check whether you are able to account
Get-ADServiceAccount -Identity containerhost //Name of GMSA

// install on machine
Install-ADServiceAccount -Identity containerhost

// test
Test-AdServiceAccount -Identity containerhost
```

出力にエラーが含まれていない場合は、次のようになります。

```
Path :
Online : True
RestartNeeded : False
DistinguishedName : CN=containerhost,CN=Managed Service Accounts, DC=local
Enabled : True
Name: containerhost
objectClass : msDs-GroupManagedServiceAccount
ObjectGUID : containerhost$
SamAccountName : containerhost$
SID : S-1-5-21-3914853822-719528391-929614657-1606
```

```
UserPrincipalName :
True
```

5. サービス プリンシパル名を gMSA に関連付けます。

- a. この手順は、Kerberos 認証を使用して Chrome ブラウザで自動ログインを行なうために必要です。この手順をスキップしても認証は機能しますが、NTLM にフォールバックするため、常にユーザー名とパスワードの入力を求められます。

```
gMSA アカウント: containerhost
ドメイン名: TotalAgilityexample.com
コンテナ ホスト マシン: machine1
```

- b. ドメイン コントローラにログインし、次のコマンドを実行します。

```
setspn -c -s HTTP/ machine1 TotalAgilityexample \ containerhost
setspn -c -s HTTP/ machine1. TotalAgilityexample.com TotalAgilityexample \
containerhost
```

6. コンテナ ホストで Active Directory アクセスをテストするには、ホスト マシンで次のコマンドを実行します。 `nltest /parentdomain`

この時点でエラーが発生していなければ、コンテナの LocalSystem アカウントが、構成された gMSA アカウントのプロキシになります。コンテナで LocalSystem プリンシパルとして実行されるプロセスは、Active Directory ドメインのすべてのアセットで gMSA プリンシパルと表示されます。

7. このサービス アカウントを使用するには、コンテナの作成時に Docker に渡される認証情報指定 ファイルを生成します。次のコマンドを実行してモジュールをダウンロードします。このモジュールは、Microsoft github アカウントからこのファイルを作成し、必要なデータを含む JSON ファイルを作成します。

```
GMSA account: containerhost
Domain name: TotalAgilityexample.com

Invoke-WebRequest "https://raw.githubusercontent.com/Microsoft/Virtualization-Documentation/live/windows-server-container-tools/ServiceAccounts/CredentialSpec.psml" -UseBasicParsing -OutFile $env:TEMP\cred.psml

import-module $env:temp\cred.psml

New-CredentialSpec -Name win -AccountName containerhost
#This will return location and name of JSON file
Get-CredentialSpec

Name Path
----
win C:\ProgramData\docker\CredentialSpecs\win.json
```

8. gMSA を許可する SQL Server 構成の場合は、gMSA アカウントとして「containerhost」、ドメイン名として「TotalAgilityexample.com」と入力し、SQL データベースに対して以下の SQL コマンドを実行します。

```
CREATE LOGIN " TotalAgilityexample \containerhost$"
FROM WINDOWS
GO
```

すべての TotalAgility データベースに対してユーザーを作成するには、次のようにします。

```
CREATE USER containerhost FOR LOGIN " TotalAgilityexample \ containerhost$"
```

```
GO
EXEC sp_addrolemember 'db_datareader', containerhost
EXEC sp_addrolemember 'db_datawriter', containerhost
```

9. エラーがなければ、コンテナの LocalSystem アカウントが、構成された gMSA アカウントのプロキシになります。コンテナで LocalSystem プリンシパルとして実行されるプロセスは、Active Directory ドメインのすべてのアセットで gMSA プリンシパルと表示されます。コンテナで Active Directory アクセスをテストするには、コンテナで次のコマンドを実行します。 `nltest /parentdomain`

第 4 章

Transformation Server バンドルのインストール

Transformation Server バンドルには以下が含まれます:

- Transformation Server
- 変換コア モジュール

Transformation Server バンドルは、TotalAgility をインストールするときにインストールできます。また、Transformation Server バンドルを別途インストールすることもできます。

いずれかのコンポーネントをインストールするには、Transformation Server バンドル全体をインストールする必要があります。

Transformation Server のインストール後に、Transformation Server の構成ファイルを編集するか、構成ユーティリティを実行して、構成の設定を変更できます。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

前提条件

Transformation Server バンドルをインストールする前に、必ず次の操作を実行してください。

- USERTrust 証明書と DigiCert Assured ID Root CA 証明書を環境にインストールします。これらの証明書がないと、インストールが失敗することがあります。
- 追加環境では、TotalAgility をインストールした場所に Transformation Server バンドルをインストールします。本番環境では、別のコンピュータに Transformation Server バンドルをインストールします。
- Oracle を使用している場合は、Transformation Server がインストールされているすべてのサーバーに Oracle Data Provider をインストールします。Oracle Data Provider は、Oracle Web サイトから入手できます。
- TotalAgility とは別に Transformation Server をインストールする場合は、サポートされているバージョンの .NET Framework がそのマシンにインストール済みであることを確認してください。
- Transformation Server を実行するユーザーには、管理者権限と「サービスとしてログオンする」権限が割り当てられている必要があります。このユーザーは、Windows 認証が使用されるすべての通信チャンネルに使用されます。たとえば、SQL Server に Windows 認証が使用されている場合、このユーザーにはこのサーバーに対する権限が必要です。権限が割り当てられていない場合、Transformation Server は動作しません。

- ユーザー アカウントが次の Windows グループの一部である場合、ユーザーは非管理者として Transformation Server を実行できます。ユーザーであり、次の権限が割り当てられている:
 - ローカル セキュリティ ポリシーの権限: サービスとしてログオンします。
 - ログイン用に構成されたログ ファイル フォルダへのフル アクセス権。デフォルトでは、このフォルダがインストール フォルダです
 - 次のフォルダへのフル アクセス権:
 - C:\ProgramData\Kofax
 - C:\Program Files (x86)\Common Files\Kofax\Transformation Server

i このフォルダには「Kofax.CEBPM.CPUserver.ServiceHost.exe.config」が含まれていません。

- データベースに対する次の権限:
 - db_reader
 - db_writer
 - 実行権限

Transformation Server のユーザー アカウント

セキュリティのために、Transformation Server はコンピュータごとに 1 つユーザー グループを使用し、テナントごとに 1 つのユーザー アカウントを使用します。Transformation Server が初めてテナントのアクティビティを受信すると、ユーザー グループおよびアカウントが作成されます。

- ユーザー アカウント: TU<GUID> (最大 20 文字に切り捨て)
- ローカル グループ: TenantUsers

ユーザー アカウントには、ファイルの実行を除くすべての権限があり、すべての TotalAgility コンポーネントと同じデータベース認証メカニズムが使用されます。これらのユーザー アカウントの権限により、サーバーでの悪意のあるスクリプトの実行を防止できます。トラバース チェックのバイパスや Web サービスを使用する機能などの操作を行うには、その他の権限が必要です。

Transformation Server のサイレント インストール

このセクションでは、TotalAgility に関係なく、Transformation Server バンドルのサイレント インストールを行う方法について説明します。

i Transformation Server バンドルのサイレント インストールでは、TotalAgility の残りの部分をインストールするために使用されるのと同じ xml ベースのサイレント インストーラ構成ファイル (SilentInstall.config) は使用しません。

1. TotalAgility インストール ファイルから \\Transformation Server に移動します。

2. コマンド プロンプト ウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
TransformationServerSetup.exe /quiet /log %LogFile% TS_INSTALLLOCATION=
%InstallLocation% TS_SERVICE_ACCOUNT=%WindowsServiceAccount%
TS_SERVICE_PASSWORD=%WindowsServicePassword% TS_USE_SPECIFIC_POOL=
%UseSpecificPool% TS_POOL_NAME=%PoolName% TS_OL_ENABLED=%OLEnabled
% TS_WCF_PORT=%WcfPort% TS_RESERVED_SLOTS=%ReservedSlots%
TS_OVERRIDE_DEF_SLOTS=%OverrideDefSlots% TS_MAX_SLOTS=%MaxSlots%
TS_ENABLE_SYNC_CALLS=%EnableSyncCalls% TS_SYNCHRONOUS_ONLY=FALSE
TS_STARTSERVICE=TRUE TS_MAIN_DB_CONNECTION_STRING=
%MainDBConnectionString% TS_AUDIT_DB_CONNECTION_STRING=
%AuditDBConnectionString% TS_REPORTING_STAGING_DB_CONNECTION_STRING=
%ReportingStagingDBConnectionString% TS_ARCHIVE_DB_CONNECTION_STRING=
%ArchiveDBConnectionString% %TS_INSTALL_OCR_ADDONS=%
%TS_INSTALL_NLP_WESTERN=1% %TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES1=1%
%TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES2=1%
%TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES3=1%
```

i 必要に応じて、インストール コマンドで `TS_SETUP_CONFIG_FILE` を呼び出します。このプロパティには、インストーラの構成ファイルに対する絶対パスが必要です。構成ファイルには、1 行に 1 つのパラメータのみを含めることができます。このような構成ファイルを使用すると、`setup.exe` が機密データを記録できなくなります。

TS_SETUP_CONFIG_FILE の例:

```
TS_INSTALLLOCATION= "<Installation path>\Kofax\TotalAgility\Transformation Server
\"
TS_SERVICE_ACCOUNT=**account name**
TS_SERVICE_PASSWORD=**Password**
TS_SERVER_SERVICE_URL= https://**Name/IP**/TotalAgility/Services/Core/
ServerService.svc
TS_USE_SPECIFIC_POOL=FALSE
TS_POOL_NAME=
TS_OL_ENABLED=TRUE
TS_WCF_PORT=9001
TS_RESERVED_SLOTS=0
TS_OVERRIDE_DEF_SLOTS=
TS_MAX_SLOTS=0
TS_ENABLE_SYNC_CALLS=TRUE
TS_MAIN_DB_CONNECTION_STRING=Server=**Name/
IP**;Trusted_Connection=Yes;Database=**DB Name**;
TS_AUDIT_DB_CONNECTION_STRING=Server=localhost;Trusted_Connection=Yes;
Database=TotalAgility;
TS_ARCHIVE_DB_CONNECTION_STRING=Server=localhost;Trusted_Connection=Yes;
Database=TotalAgility;
TS_REPORTING_STAGING_DB_CONNECTION_STRING=Server=localhost;
Trusted_Connection=Yes;Database=TotalAgility_Reporting_Staging;
TS_STARTSERVICE=TRUE
TS_SYNCHRONOUS_ONLY=false
TS_INSTALL_OCR_ADDONS=1
TS_INSTALL_NLP_WESTERN=1
TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES1=1
TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES2=1
TS_INSTALL_NLP_ADDITIONALLANGUAGES3=1
```

Transformation Server パラメータの詳細については、「[同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレントインストール](#)」の「Transformation Server の情報」セクションを参照してください。

i パラメータ名では大文字と小文字が区別されます。パラメータの値にスペースが含まれている場合は、値を引用符で囲みます。

3. インストールが予測どおりに機能することを確実にするには、次の手順を実行します。
 - a. [プログラム ファイル]/Kofax/TotalAgility/Agility.Server.Web に移動して、テキストエディタで Web.config を開きます。
 - b. TransformationServerExternalService_Binding バインディング パラメータを見つけ、<transport ClientCredentialType> 値が Windows に設定されていることを確認します。
 - c. Web 構成ファイルを保存して、閉じます。

Transformation Server の標準インストール

オンプレミス環境で Transformation Server を実行するには、管理者権限とサービスとしてログオンする権限が必要です。

次の権限を使用してユーザー アカウントを設定することにより、非管理者として Transformation Server を実行できます。

- TS_User は Windows グループの一部である必要があります。ユーザー。
- TS_User には、ローカル セキュリティ ポリシーの権限が必要です。サービスとしてログオンします。
- TS_User には、ロギング用に構成されたログ ファイル フォルダへのフル アクセス権が必要です。(デフォルトでは、インストール フォルダです)
- TS_User には、次のフォルダへのフル アクセス権が必要です。
 - C:\ProgramData\Kofax
 - C:\Program Files (x86)\Common Files\Kofax\Transformation Server

i このフォルダには「Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config」が含まれています。

- TS_User には、データベースに対する次の権限が必要です。
 - db_reader
 - db_writer
 - 実行権限
- 1. 次のいずれかの方法で Transformation Server バンドル インストーラにアクセスします。
 - **本番システム:** TotalAgility とは別に Transformation Server バンドルをインストールします。インストール ファイルから \\Transformation Server\Transformation Server に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - ログ ファイルを作成しないでインストールするには、**Transformation ServerSetup.exe** を実行します。
[Kofax Transformation Server 8.0] ウィンドウが開きます。

- インストールして、ログ ファイルを作成するには、**setup.exe/log <path\install_log.txt>** を実行します。ここで、<path\install_log.txt> はログのパスおよび名前です。
 - **開発システム:** Transformation Server を TotalAgility インストールの一環としてインストールする場合は、Transformation Server バンドル インストーラが自動的に開きます。
2. **[Kofax Transformation Server 8.0]** ウィンドウで、**[オプション]** をクリックし、次の手順を実行します。

セットアップ オプション	
マルチテナント インストール	選択すると、Transformation Server がオンプレミスのマルチテナント環境にインストールされます。(デフォルト: クリア)
[追加の A2iA エンジン [サポートされていません]]	選択すると、A2iA 認識エンジンがインストールされます。(デフォルト: クリア)
自然言語処理言語バンドル	
西洋語 (en、es、pt、fr、de) (デフォルト: 選択済み)	選択すると、自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
追加言語 1 (it、ro、nl)	
追加言語 2 (ja、zh、ko)	
追加言語 3 (ar、da、fi、no、sv)	

3. **[インストール]** をクリックします。
必要なすべての前提条件がインストールされます。
4. **[次へ]** をクリックします。
[Kofax Transformation Server のセットアップ ウィザード] ウィンドウが開きます。
5. **[次へ]** をクリックします。
6. ライセンス契約ウィンドウで、ライセンス契約書の条項に同意します。
Transformation Server が TotalAgility インストールの一環として自動的にインストールされている場合、このウィンドウは表示されません。
7. **[次へ]** をクリックします。
Transformation Server のインストール先フォルダを指定するよう求められます。
8. インストール先を入力して、**[次へ]** をクリックします。
9. **[サービス アカウントのセットアップ]** ウィンドウで、Transformation Server を実行するユーザーの認証情報を入力します。これらの認証情報は、機密データの暗号化にも使用されます。
- a. **[ユーザー名]** フィールドに、ユーザー名を入力します。ドメイン ユーザーを指定するには、<ドメイン>\<ユーザー> の形式でユーザー名を入力します。
 - b. **[パスワード]** を入力し、確認します。
 - c. **[次へ]** をクリックします。
- [接続データの設定]** ウィンドウが開きます。
10. メイン、監査、アーカイブ、およびステージング データベースの接続文字列を入力し、データベースに接続して、データベースを認証します。

次の構文を使用します。

```
Server=<server address>;Database=TotalAgility;User ID=<user_name>;  
Password=<password>;
```

分割された Web/アプリケーションにインストールする場合は、次の構文を使用します。

```
Server=<server name>; Trusted_Connection=yes; Database=<database name>;
```

データベース サーバーのアドレスと、データベースで認証するためのユーザー名とパスワード (指定されている場合) を指定します。例:

```
Server=dbserver\dbinstance;Database=TotalAgility;User  
ID=dbo_id;Password=dbopassword;
```

11. **[次へ]** をクリックします。

12. TotalAgility サーバーへの接続オプションを指定します。

- a. Transformation Server がオンライン学習タスクを処理できるようにするには、**[Transformation Server インスタンスによるオンライン ラーニング処理の有効化]** を選択してください。
- b. 必要に応じて、**[特定の Transformation Server プールからのアクティビティの処理]** を選択して、**[プール名]** を入力します。

i デフォルト プールを選択するには、**[デフォルトの Transformation Server スレッド プール]** を選択します。

13. **[次へ]** をクリックします。

[詳細な実行オプション] ウィンドウが開きます。これらのオプションは、受信した高優先順位のアクティビティ用に用意されているスロットを制御します。

14. 詳細な実行オプションを選択します。

- **[Quick Capture のサポートの有効化]:** Quick Capture ソリューション サービスをサポートするために必要なバックエンド サービスを提供するには、このオプションを選択します。
- **[同期コール処理の有効化]:** TCP/IP ポートと予約済み処理スロットの数を構成するには、このオプションを選択します。デフォルトの TCP/IP ポートは 9001 です。予約されている処理スロットの数は 0 です。

i バージョン 7.0.0 からアップグレードするときに、予約済み処理スロットの数がゼロの場合は「同期コール処理の有効化」が無効になり、予約済み処理スロットが 1 つ以上ある場合は有効になります。

- **[デフォルトの処理スロット数の上書き]:** デフォルト以外のスロット数を指定するには、このオプションを選択します。

15. **[次へ]** をクリックします。

Kofax Transformation Server のインストール準備ができました。

16. **[インストール]** をクリックして Transformation Server をインストールします。

Transformation Server のセットアップが完了すると、インストールのステータスとメッセージが表示されます。

17. **[終了]** をクリックして続行します。

Transformation Server バンドルのセットアップが成功すると、Transformation Server バンドル セットアップのステータスおよびメッセージが表示されます。

18. **[閉じる]** をクリックして、成功メッセージ ウィンドウを閉じます。
19. インストールが予測どおりに機能することを確実にするには、次の手順を実行します。
 - a. [プログラム ファイル]/Kofax/TotalAgility/Agility.Server.Web に移動して、テキスト エディタで Web.config を開きます。
 - b. TransformationServerExternalService_Binding バインディング パラメータを見つけ、<transport ClientCredentialType> 値が Windows に設定されていることを確認します。
 - c. Web 構成ファイルを保存して、閉じます。
20. サービス コンソールから、Kofax サービスを開始します。
21. 必要に応じて、ウイルス対策またはファイアウォール アプリケーションを再起動します。

構成ファイルの暗号化および復号化

構成ファイルには、機密情報などの Transformation Server 設定が含まれています。そのため、このファイルを暗号化することをお勧めします。Transformation Server では、コマンド ライン パラメータに応じて次の 2 つの暗号化方法を使用できます。

- **DPAPI 暗号化:** ファイルを暗号化したときと同じマシンでファイルを復号化するため、このユーティリティは、一度に 1 つのサーバーを暗号化する場合に使用します。[「Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe の使用」](#) を参照してください。
- **RSA 暗号化:** 2 つの独立したキーを使用する、公開キー暗号化とデジタル署名のアルゴリズムです。1 つの Transformation Server でキーを作成し、構成ファイルを暗号化して、他のすべての Transformation Server にキーをエクスポートします。エクスポートしたキーがインストールされているすべての Transformation Server から、構成ファイルにアクセスできます。同じ構成 (TASession ID、プール名など) の Transformation Server がいくつかある場合は、この方法を使用します。[「RSA 暗号化の使用」](#) を参照してください。

構成ファイルの復号化するには、[「構成ファイルの復号化」](#) を参照してください。

Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe の使用

Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe ユーティリティは、構成ファイルの CPUserver および appSettings セクションを暗号化 (-enc) または復号化 (-dec) します。CPUserver セクションには、TotalAgility セッション ID が含まれています。AppSettings セクションには、ユーザー ID、パスワード、その他の情報が含まれています。オプションの -h フラグを使用すると、コマンドのヘルプが表示されます。

Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe を使用したファイルの暗号化

各 Transformation Server で個別にユーティリティを実行します。

1. Transformation Server サービスを停止します。

2. Transformation Server インストール ディレクトリに移動し、コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
3. 次のコマンドを実行します。
Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe -f Kofax.CEBPM.CPUserver.ServiceHost.exe.config -s "appSettings" -p DPAPIProtection -enc

RSA 暗号化の使用

RSA 暗号化を使用して構成ファイルを暗号化し、暗号化キーをエクスポートして、暗号化キー ファイルを複数の Transformation Server にインストールします。同じ構成 (TAService ID、プール名など) の Transformation Server がいくつかある場合は、この方法を使用します。

以下の手順は、キーを作成するソース Transformation Server と、キーをインポートするターゲット Transformation Server とで異なります。

キーを準備する

1 つのソース Transformation Server で、これらの手順を実行します。

1. カスタム RSA キー コンテナを作成します。
 - a. 管理者権限で Transformation Server にログオンします。
 - b. コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
 - c. .NET Framework バージョン 4.5 のディレクトリに移動します。たとえば、次のコマンドを入力します。
`cd \WINDOWS\Microsoft.Net\Framework\v4.5.*`
 - d. 次のコマンドを実行します。
aspnet_regiis -pc "<キー ファイル>" -exp
ここで、
 - <キー ファイル> は、キー ファイルの名前です。
 - -exp オプションは、キーをエクスポート可能にします。
2. 次のコマンドを実行して、Transformation Server サービス ユーザーに <キー ファイル> RSA コンテナ ファイルを読み取る権限を付与します。

aspnet_regiis -pa "<キー ファイル>" "<TS サービス ユーザー>"

ここで、

- <キー ファイル> は、手順 1d で作成したキー ファイルの名前です。
- <TS サービス ユーザー> は、Transformation Server サービス ユーザーです。

3. ファイルを暗号化する
 - a. Transformation Server サービス ユーザーとして Transformation Server にログオンします。
 - b. Transformation Server のインストール ディレクトリに移動し、コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
 - c. 次のコマンドを実行します。

```
Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe -f
Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config -s "appSettings" -p
RSAProvider -enc
```

このコマンドは、構成ファイルの CPU Server セクションと AppSettings セクションを暗号化します。CPU Server セクションには、TotalAgility セッション ID が含まれていません。AppSettings セクションには、ユーザー ID、パスワード、その他の情報が含まれていません。

4. 次のコマンドを実行してキーをエクスポートします。

```
aspnet_regiis -px "<キー ファイル>" "c:\keys.xml" -pri
```

ここで、

- <キー ファイル> は、デフォルトのキー ストア キー コンテナ名です。
- <c:\keys.xml> は、エクスポートされるキー ファイルのパスとファイル名です。

キーをインポートする

すべてのターゲット Transformation Server で以下の手順を実行します。

1. キーをインポートします。

- a. 管理者権限で Transformation Server にログオンします。
- b. keys.xml ファイルをソース Transformation Server からターゲット Transformation Server のルート ディレクトリにコピーします。
- c. コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
- d. 次のコマンドを実行します。

```
aspnet_regiis -pi "<キー ファイル>" "c:\keys.xml"
```

ここで、

- <キー ファイル> は、キー ファイルのデフォルト名です。
- <c:\keys.xml> は、インポートされるキー ファイルのパスとファイル名です。

- e. keys.xml は、保護されていない秘密キーが含まれているため、削除します。

2. 次のコマンドを実行して、Transformation Server サービス ユーザーに <キー ファイル> RSA コンテナ ファイルを使用する権限を付与します。

```
aspnet_regiis -pa "<キー ファイル>" "TS サービス ユーザー"
```

ここで、

- <キー ファイル> は、手順 1 でインポートしたキー ファイルの名前です。
- <TS サービス ユーザー> は、Transformation Server サービス ユーザーです。

3. 残りのすべての Transformation Server で、この手順を繰り返します。

構成ファイルの復号化

1. Transformation Server サービスを停止します。
2. Transformation Server インストール ディレクトリに移動し、コマンド ライン ウィンドウを開きます。

3. 次のコマンドを実行します。

```
Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe -f
Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config -s "appSettings" -p
DPAPIProtection -deC
```

構成ファイルを編集する

システム構成が変更されたときや、技術的問題またはパフォーマンスの問題を解決する必要があるときは、Transformation Server 構成ファイル **Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config** を変更します。

1. Transformation Server のインストール後に構成ファイルを暗号化したときは、ファイルを復号化します。「[構成ファイルの復号化](#)」を参照してください。

i RSA 暗号化が使用されている場合は、最初にファイルを暗号化したソース Transformation Server のみについて構成ファイルを復号化します。

2. Transformation Server のインストール ディレクトリに移動し、**Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config** を見つけます。
3. ファイルをバックアップし、セキュアな場所に保存します。
4. テキスト エディタで構成ファイルを開きます。
5. システム構成オプションを変更するには、<appSettings> セクションのキーを変更します。このセクションには、構成オプションを設定するためのキーのリストが含まれています。次の例に示すように、変更できるものには、設定とサポートされている値を説明するコメントが付いています。

```
<!-- Maximum number of instances allowed for Executor Process -->
<add key="MaxNumberOfTenantProcesses" value="1"/>
```

6. コメントに示されているように、引用符の内側の値をサポートされている値に変更します。
7. イベント ビューアによって表示できるアプリケーション イベント ログにエラーをレポートする方法を変更するには、<system.diagnostics> セクションを次のように変更します。

- a. <switches> の下で、次の要素を見つめます。

```
<add name="TraceLevelSwitch" value="Warning"/>
```

デフォルトでは、値は Warning に設定されており、エラー メッセージと警告メッセージがレポートされます。コメントにリストされているオプションのいずれかに値を変更して、レポートされるメッセージのタイプを変更します。

- b. <sharedListeners> の下で、次の行を見つめます。

```
<add name="CPUServerLogTxt"
type="Kofax.CEBPM.CPUServer.Common.Diagnostics.DateTimeTaggedTraceListener,
Kofax.CEBPM.CPUServer.Common" initializeData="KofaxCPUServerLog.log" >
```

別のログ ファイルを指定するか、**timestamps** の形式を変更するには、ファイル内のコメントに示されているように、**initializeData** の値を変更します。

8. 構成ファイルを保存して閉じます。

9. 構成ファイルを再暗号化するには、暗号化ユーティリティを実行します。「[構成ファイルの暗号化および復号化](#)」を参照してください。

i RSA 暗号化を使用した場合は、キーをエクスポートし、暗号化した元の構成ファイルをインポート済みのすべてのターゲット Transformation Server に、その暗号化キー ファイルをインストールします。

10. Kofax Transformation Server サービスを再起動します。

NLP 言語パックを手動でインストールする

Transformation Designer がソリューションの Transformation Server バンドルと異なるサーバーにインストールされている場合は、Transformation Designer がインストールされているマシンに Kofax NLP エンジンの言語パックをインストールする必要があります。これは、Kofax NLP エンジンの言語パックは Transformation Server バンドルによってのみインストールされ、Transformation Designer および本番環境で Kofax NLP 機能を使用するには、これらの言語が必要であるためです。

Kofax NLP エンジン言語パックをインストールするには、元の Kofax TotalAgility インストール zip ファイルにアクセスする必要があります。

Kofax NLP エンジン言語パックは、次の手順に従ってインストールできます。

1. Kofax TotalAgility インストール ファイルから、TotalAgility\TransformationServer\KofaxTransformation_Salience7.0 に移動します。
2. サポートする言語に応じて、次のいずれかの .MSI ファイルをダブルクリックします。
 - **KofaxTransformation_Salience7.0_LanguageBundle_western-default**
英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語の言語サポートをインストールする場合に実行します。
 - **KofaxTransformation_Salience7.0_LanguageBundle_additionalLanguages1**
イタリア語、オランダ語、ルーマニア語のサポートをインストールする場合に実行します。
 - **KofaxTransformation_Salience7.0_LanguageBundle_additionalLanguages2**
日本語、韓国語、標準中国語のサポートをインストールする場合にこれを実行します。
 - **KofaxTransformation_Salience7.0_LanguageBundle_additionalLanguages3**
スウェーデン語、フィンランド語、デンマーク語、ノルウェー語、アラビア語の言語サポートをインストールする場合にこれを実行します。

Windows インストーラのウィンドウが表示され、選択した Kofax NLP 言語が自動的にインストールされます。

インストールが完了すると、インストーラ ウィンドウが閉じます。

3. オプションで追加の言語をサポートする場合は、別の言語インストーラをダブルクリックします。

サイレント インストールを使用した Transformation Server のアップグレード

サイレント モードで Transformation Server をアップグレードするには、次のコマンドを使用して、サンプル コンテンツを実際の環境に置き換えます。

```
setup.exe /quiet /Upgrade /log installation.log TS_SERVER_SERVICE_URL=http://<Server>/TotalAgility/Services/Core/ServerService.svc TS_INSTALLLOCATION="<Program Files>\Kofax\TotalAgility\Transformation Server"  
TS_MAIN_DB_CONNECTION_STRING="Server=servername;Database=databasename;User  
Id=sa;Password=password" TS_SERVICE_ACCOUNT=serviceAccountName  
TS_SERVICE_PASSWORD=password TS_STARTSERVICE=TRUE
```

Transformation Server をアンインストールする

Transformation Server のアンインストールは、インストールした方法に応じて行います。

- Kofax TotalAgility 標準インストールの一部として Transformation Server をインストールした場合、TotalAgility をアンインストールすると、Transformation Server も自動的にアンインストールされます。
- Transformation Server を別のシステムにインストールした場合は、コントロール パネルから Transformation Server バンドルをアンインストールします。
- サイレント モードでアンインストールするには、次の手順を実行します。
 - TransformationServerSetup.exe のルート ディレクトリに移動します。
 - TransformationServerSetup.exe / uninstall / quiet を実行します。

システムによって Transformation Server がアンインストールされ、一時ファイル フォルダにログ ファイルが自動的に作成されます。このログ ファイルには、エラーに関する情報が含まれています (存在する場合)。

第5章

Transformation Designer のインストール

Transformation Designer は通常、Kofax TotalAgility の完全インストールの一環としてインストールされます。ただし、フル インストーラーを使用しなかった場合、または Transformation Designer を個別にインストールする場合は、Kofax TotalAgility インストール ファイルから入手可能なスタンドアロンの Transformation Designer インストーラーを使用できます。

前提条件

TotalAgility とは別に Transformation Designer をインストールする場合は、サポートされているバージョンの .NET Framework がそのマシンにインストール済みであることを確認してください。

Transformation Designer のサイレント インストール

Transformation Designer は通常、Kofax TotalAgility の完全インストールの一環としてインストールされます。ただし、完全インストーラを使用しなかった場合、または Transformation Designer を個別にインストールする場合は、Transformation Designer のスタンドアロン インストーラをサイレント モードで使用します。インストーラは、Kofax TotalAgility インストール ファイルの一部として用意されています。

1. インストール ファイルの場所から `\\TransformationDesigner` に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、コマンド プロンプトで右クリックして **[管理者として実行]** を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**コマンド プロンプト**を実行します。

コマンド プロンプトが表示されます。

2. `"TransformationDesigner Installer.exe" /quiet` を実行します。

インストーラはバックグラウンドで実行されます。

同じコマンドを使用して、互換性のある Transformation Designer インストールの上に修正パックを適用できます。必要に応じて、修正パック インストーラのコマンド名を更新します。

Transformation Designer の標準インストール

1. インストール ファイルから \\TotalAgilityInstall\TransformationDesigner フォルダに移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アクセス制御) が有効になっている場合は、TransformationDesigner Installer.exe を右クリックし、**[管理者として実行]** を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**[TransformationDesigner Installer.exe]** を実行します。インストールが開始されます。

i セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。

2. Transformation Designer インストール ウィンドウで、ライセンス契約書の条項を選択し、**[次へ]** をクリックします。
[インストール オプション] ウィンドウが表示されます。
3. **[インストール オプション]** ページで、追加の設定を選択し、**[次へ]** をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開きます。
4. **[インストール]** をクリックします。
[インストールの進行状況] ウィンドウが開きます。セットアップにより、必要なファイルがインストールされます。
5. **[終了]** をクリックします。
これでインストールは完了です。

Transformation Designer への Oracle ドライバーのインストール

抽出またはデータベース検索に Oracle データベースを使用する場合は、Oracle ドライバーをインストールする必要があります。

ドライバーをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle .NET ダウンロード サイトに移動し、「ODAC 21c - 最新の 64 ビット バージョン」ドライバー zip ファイルをダウンロードして解凍します。
2. 抽出したファイルから、`<extractedfiles>\odpm\odp.net\managed\common\Oracle.ManagedDataAccess.dll` をコピーし、Transformation Designer がインストールされているサーバー上の次の場所にコピーします。
 - C:\Program Files (x86)\Kofax\TotalAgility\Transformation
 - C:\Program Files (x86)\Common Files\Kofax\Components
 - C:\Program Files (x86)\Common Files\Kofax\Server

i デフォルトのパスとは異なる場所を使用するようにインストールパスが構成されている場合は、それに応じた調整を行ってください。

3. TotalAgility - Scheduler Service を再起動します。
サービスが再起動し、Oracle データベース接続を構成できるようになります。

Transformation Designer のヘルプのアップグレード

Kofax TotalAgility 8.0.0 をインストールするときに、『Transformation Designer のヘルプ』は自動的にアップグレードされません。ドキュメントをアップグレードするには、次の手順を手動で実行する必要があります。

1. Transformation Designer ドキュメントがインストールされている場所に移動します。デフォルトでは、`%ProgramData%/Kofax/Transformation` です。
「Help」ディレクトリが表示されます。
2. フォルダの名前を「Help_8.0.0」または類似の名前に変更します。
後で再度必要になるので、ウィンドウは開いたままにします。
3. Kofax TotalAgility 8.0.0 ISO ファイル内の `\\Transformation Designer` に移動します。
「Help.zip」という ZIP ファイルが表示されます。
4. 「Help.zip」を `%ProgramData%/Kofax/Transformation` に展開して、作成されたディレクトリ
の名前が「Help」であることを確認します。
5. Transformation Designer を開き、F1 キーを押してヘルプを開きます。
アップグレードされたヘルプが表示されます。
ヘルプが表示されない場合は、Help ディレクトリの構造が「Help_8.0.0」ディレクトリの構造と一致していることを確認してから再試行してください。

HTTPS 通信用の Transformation Designer の構成

Kofax Transformation Designer オプション内の接続を更新することにより、SSL 経由でアクセスされる SDK SVC を使用するように Kofax Transformation Designer を更新します。Kofax Transformation Designer で HTTPS 通信を行うには、次の操作を行う必要があります。

- サーバー上のクライアントで信頼されている証明書がインストールされていることを確認してください。
- Transformation Designer サーバーがオンプレミスでインストールされているにもかかわらず、ドメインに含まれていない場合は、BasicHttpBinding_Service および WebHttpBinding_Service に対する Windows 認証を無効にします。
- 次のように、HTTPS に対する Transformation Designer の URL を指定します
 - Azure の場合: `https://[Azure ホスト名]/Services/SDK`
 - その他の構成の場合: `https://[ホスト名]/TotalAgility/Services/SDK`

Transformation Designer をアンインストールする

Kofax TotalAgility が Transformation Designer と同じサーバーにインストールされている場合は、Kofax TotalAgility がアンインストールされると Transformation Designer が削除されます。ただし、Transformation Designer のスタンドアロン インストールがある場合は、次のいずれかの手順でこのアプリケーションを削除できます。

サイレント モードを使用する場合

1. TotalAgility インストール ファイルから `\\TransformationDesigner` に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、コマンド プロンプトで右クリックして **[管理者として実行]** を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**コマンド プロンプト** を実行します。コマンド プロンプトが表示されます。
2. `"TransformationDesigner Installer.exe" /quiet /uninstall` を実行します。
実行できる別のコマンドは `"TransformationDesigner Installer.exe" /quiet /x` です。
インストーラがバックグラウンドで実行され、Transformation Designer アプリケーションがアンインストールされます。

インストール ウィザードを使用する場合

1. **[スタート]** > **[すべてのプログラム]** をクリックし、Transformation Designer を右クリックします。
コンテキスト メニューが表示されます。
2. **[アンインストール]** を選択します。
[プログラムと機能] ウィンドウが表示されます。
3. Kofax TotalAgility Transformation Designer 8.0.0 をクリックし、**[アンインストール]** を選択します。
インストーラ ウィンドウが表示され、[アンインストール] オプションが選択されます。
4. [Kofax TotalAgility Transformation Designer (8.0.0) のセットアップ] ウィンドウで、**[次へ]** をクリックします。
5. メッセージを確認し、準備ができたなら **[アンインストール]** をクリックします。
アプリケーション削除のステータスを示す進行状況メッセージが表示されます。
6. アンインストールが完了した後に、**[終了]** をクリックします。
Transformation Designer アプリケーションが削除されます。

第 6 章

Message Connector のインストール

この章では、Message Connector をインストールする手順について説明します。

前提条件

Kofax Message Connector の 64 ビット インストールを行うには、次のシステム制限を満たす必要があります。これらの制限は、32 ビット インストールでは異なる場合があります。

- Message Connector ストレージ内のメッセージの最大サイズ: 8 GB
- 単一のコンピューターで許可される Message Connector インスタンス数: 3
- KfxConverter のシステム メモリ使用の上限: 4 GB

Kofax Message Connector の前提条件の詳細については、『Kofax TotalAgility 前提条件ガイド』を参照してください。

Message Connector の展開シナリオと高度な構成については、『Kofax TotalAgility 管理者ガイド』を参照してください。

システム制限

これらのシステム制限は 64 ビットのインストールに適用されます。32 ビット インストールの場合、制限値はこれよりも低くなる可能性があります。

Message Connector ストレージ内のメッセージの最大サイズ	120 GB
1 台のコンピュータ上の Message Connector インスタンスの最大数	3
Kofax コンバータのシステム メモリの最大使用制限。ただし、入力ファイルの処理中のメモリ使用量は、次の要因によって異なる場合があります。 <ul style="list-style-type: none">• ドキュメントのページ数• ドキュメント タイプ• 変換タイプ	4 GB

Message Connector の複数インスタンスのサイレント インストール

コンピュータに Message Connector のインスタンスを 3 つまでインストールできます。

1. Message Connector の最初のインスタンスをインストールするには、TotalAgility をインストールする前に、SilentInstallConfig.xml で ImportService パラメータの値を true に設定します。「[同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール](#)」または「[別の Web およびアプリケーション サーバーへのサイレント インストール](#)」を参照してください。

2. Message Connector の 2 番目のインスタンスをインストールするには、コマンド プロンプトで次のコマンドを実行します。

```
msiexec /i <\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> TRANSFORMS=:I02  
MSINewInstance=1 Kofax="<path>" <options>
```

ここで、<\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> は TotalAgility セットアップ フォルダのパスです。

<path> では、Message Connector の 2 番目のインスタンスのインストール パスを指定します。インストール時に、このパスに \KIC-ED\MC02 が追加されます。

3. Message Connector の 3 番目のインスタンスをインストールするには、コマンド プロンプトで次のコマンドを実行します。

```
msiexec /i <\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> TRANSFORMS=:I03  
MSINewInstance=1 Kofax="<path>" <options>
```

ここで、<\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> は TotalAgility セットアップ フォルダのパスです。

<path> では、Message Connector の 3 番目のインスタンスのインストール パスを指定します。インストール時に、このパスに \KIC-ED\MC03 が追加されます。

Message Connector の 2 番目と 3 番目のインスタンスについては、必要に応じて、<options> で次のコマンドを使用します。

- /qn - サイレント インストール
- /qb - 基本的なユーザー インターフェイス (進行状況バー) を使用するサイレント インストール
- ALLUSERS=1 - すべてのユーザー向けのインストール

次のコマンドでは、TotalAgility セットアップ フォルダが C: ドライブ内にあり、Message Connector の 2 番目のインスタンスが C:\Program Files (x86)\Kofax にインストールされると想定します。

```
msiexec /i C:\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi TRANSFORMS=:I02  
MSINewInstance=1 Kofax="C:\Program Files (x86)\Kofax" /qn /norestart  
ALLUSERS=1
```

Message Connectors インスタンスのアップグレード

Message Connector の複数のインスタンスがインストールされている場合は、TotalAgility のアップグレード時に Message Connector のすべてのインスタンスをアップグレードする必要があります。

1. Message Connector の最初のインスタンスをアップグレードするには、TotalAgility をアップグレードする前に、SilentInstallConfig.xml で ImportService パラメータの値を true に設定します。「[サイレントアップグレードプロセス](#)」を参照してください。
2. Message Connector の 2 番目のインスタンスをアップグレードするには、コマンド プロンプトで次のコマンドを実行します。

```
<\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> TRANSFORMS=:I02 MSINewInstance=1  
Kofax="<path>" <options>
```

ここで、<\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> は TotalAgility セットアップ フォルダのパスです。

<path> では、Message Connector の 2 番目のインスタンスのアップグレード パスを指定します。アップグレード時に、このパスに \KIC-ED\MC02 が追加されます。

3. Message Connector の 3 番目のインスタンスをアップグレードするには、コマンド プロンプトで次のコマンドを実行します。

```
<\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> TRANSFORMS=:I03 MSINewInstance=1  
Kofax="<path>" <options>
```

ここで、<\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> は TotalAgility セットアップ フォルダのパスです。

<path> では、Message Connector の 3 番目のインスタンスのアップグレード パスを指定します。アップグレード時に、このパスに \KIC-ED\MC03 が追加されます。

Message Connector の 2 番目と 3 番目のインスタンスについては、<options> で次のコマンドを使用できます。

- /qn - サイレント インストール
- /qb - 基本的なユーザー インターフェイス (進行状況バー) を使用するサイレント インストール
- ALLUSERS=1 - すべてのユーザー向けのインストール

i Kofax Import Connector 2.11 にアップグレードすると、デフォルトで、Message Connector 構成の [セキュリティ オプション] にある [フォルダ入力ベース ディレクトリ] 設定に「[Deny]」属性が追加されます。この属性により、ローカル監視フォルダへのアクセスが無効になります。

アクセスを有効にするには、[フォルダ入力ベース ディレクトリ] テキスト ボックスから「[Deny]」属性を削除し、Message Connector の構成を保存します。

第7章

レポート サーバーのインストール

この章では、Kofax Reporting Server のインストール手順について説明します。

- TotalAgility から独立して行われる、レポート サーバーのサイレント インストール
- インストール ウィザードを使用した標準インストール。

前提条件

追加の環境では、TotalAgility をインストールした場所にレポート サーバーをインストールします。

i TotalAgility のインストール先と同じドメイン内の別のシステムにレポート サーバーをインストールする場合は、サービス アカウントに次のロールを割り当てる必要があります。

- ステージング データベースの場合: kfx_staging
- データ ウェアハウスの場合: kfx_etl、kfx_reader、kfx_advanced_reader

サービス アカウントが、データベースで一括操作を実行できるように設定されている必要があります。この操作を行うには、次のコマンドを実行します。

```
USE master GRANT ADMINISTER BULK OPERATIONS TO  
[<service_account_running_reporting_server>];
```

レポート サーバーのサイレント インストール

このセクションでは、TotalAgility から独立して行われる、レポート サーバーのサイレント インストールについて説明します。

レポート サーバーのインストールに必要なサイレント インストール パラメータについては、次のテーブルを参照してください。

i パラメータ名は大文字と小文字が区別されます。

パラメータ	デフォルト値	説明
INSTALLLOCATION	C:\Program Files\Kofax \TotalAgility\ Reporting Server\	レポート サーバーのインストール先ディレクトリを指定します。

パラメータ	デフォルト値	説明
WINSERV_ACCOUNT	デフォルトなし	レポート サーバーを実行するユーザーの名前を入力します。ドメイン ユーザーを指定するには、<ドメイン>\<ユーザー> の形式でユーザー名を入力します。 レポート サーバーは Windows 認証が使用されるすべての場所でこのアカウントを使用して認証するため、アカウントの詳細が正しいことを確認してください。たとえば、TotalAgility データベースなどです。 すべての通信とリソース アクセスは、このアカウントで実行されます。したがって、レポート サーバーが実行されているアカウントを、ダミー アカウントにすることはできません。
WINSERV_PASSWORD	デフォルトなし	ユーザーのパスワードを入力します。
MAIN_DB_CONNECTION_STRING	デフォルトなし	メイン データベースの接続文字列を入力します。 例: 「Server=<hostname>;Trusted_Connection=Yes;」 「Database=TotalAgility;」
AUDIT_DB_CONNECTION_STRING	デフォルトなし	監査データベースの接続文字列を入力します。
REPORTING_STAGING_DB_CONNECTION_STRING	デフォルトなし	レポート ステージング データベースの接続文字列を入力します。
REPORTING_WORKHOUSE_DB_CONNECTION_STRING	デフォルトなし	レポート ワークハウス データベースの接続文字列を入力します。

1. TotalAgility インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall\Reporting\ TAReportingService に移動します。
2. 次のコマンドを実行します。

```
msiexec.exe /i KofaxKofax.Reporting.TAService.msi /q WINSERV_ACCOUNT=
%WindowsServiceAccount% WINSERV_PASSWORD=%WindowsServicePassword
% MAIN_DB_CONNECTION_STRING="%MainDBConnectionString%"
INSTALLLOCATION="%InstallLocation%"
AUDIT_DB_CONNECTION_STRING="%AuditDBConnectionString
%" REPORTING_STAGING_DB_CONNECTION_STRING=
"%ReportingStagingDBConnectionString%"
REPORTING_WAREHOUSE_DB_CONNECTION_STRING="%ReportingConnection%"
```

レポート サーバーの標準インストール

1. TotalAgility インストール ファイルから、TotalAgility > Reporting > TAReportingService > Kofax.Reporting.TAService.msi に移動します。

[TotalAgility レポート サーバーのセットアップ] ウィンドウが開きます。

2. **[次へ]** をクリックします。
3. [エンドユーザー ライセンス契約書] ウィンドウでライセンス契約書の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。
4. [インストール先フォルダ] ウィンドウで、レポート サーバーのデフォルト フォルダ (C:\Program Files (x86)\Kofax\TotalAgility\Reporting Server\) を選択するか、**[変更]** をクリックして他のフォルダを選択します。
5. **[次へ]** をクリックします。
6. [サービス アカウントのセットアップ] ウィンドウで、Kofax TotalAgility レポート サーバー サービスを実行するユーザーの認証情報を入力します。
 - a. **[ユーザー名]** フィールドに、ユーザー名を入力します。

i ドメイン ユーザーを指定するには、<ドメイン>\<ユーザー> の形式でユーザー名を入力します。
 - b. **[パスワード]** を入力し、確認します。
 - c. **[次へ]** をクリックします。
7. [TotalAgility 構成の取得] ウィンドウで、以下の操作を行います。
 - a. TotalAgility Server サービス URL を `http://[サーバー名]/TotalAgility/Services/Core/ServerService.svc` の形式で指定します
ここで、[サーバー名] は TotalAgility サーバーの名前です。

i SSL 経由で Web サービスをインストールするには、URL で「http://」の代わりに「https://」を使用します。
 - b. [メイン DB 接続文字列] ボックスに、TotalAgility データベースの接続文字列を入力します。
 - c. **[次へ]** をクリックします。
システムによって構成設定がダウンロードされます。
8. **[インストール]** をクリックしてインストールを開始します。
9. **[終了]** をクリックします。

レポート サーバーをアンインストールする

レポート サーバーのアンインストールは、インストールした方法に応じて行います。

- レポート サーバーが Kofax TotalAgility 標準インストールの一部としてインストールされている場合、TotalAgility をアンインストールすると、レポート サーバーが自動的にアンインストールされます。
- ウィザードを使用して別のシステムにレポート サーバーをインストールした場合は、コントロール パネルからレポート サーバーをアンインストールします。

- レポート サーバーをサイレント モードでインストールした場合、レポート サーバーをサイレント モードでアンインストールするには、以下の手順を実行する必要があります。
 1. コマンド プロンプトで、コマンド ラインを `Kofax.Reporting.TAService.msi` ファイルの ルート ディレクトリに変更します。
 2. `msiexec.exe/quiet/x Kofax.Reporting.TAService.msi/L*V"%LogFileName%"` を実行します。

システムによってレポート サーバーがアンインストールされ、一時ファイル フォルダにログ ファイルが自動的に作成されます。このログ ファイルには、エラーに関する情報が含まれています (存在する場合)。インストールとログのオプションを確認するには、"`msiexec/help`" (Windows インストーラ ヘルプ) を使用できます。

第 8 章

KCM プロキシのインストール

この章では、KCM プロキシを Web サーバーにインストールする方法について説明します。KCM プロキシは、Communications Manager でのインタラクティブな要求のために TotalAgility フォームで Kofax Communications Manager (KCM) コントロールを使用する場合に必要です。プロキシにより、TotalAgility Web サーバーと Kofax Communications Manager 間のセキュアなクロス ドメイン通信が可能になります。

前提条件

KCM プロキシ Web サーバーをインストールする前に、Microsoft プラグインの Web Platform Installer がインストールされていることを確認してください。Microsoft Web Platform は、Microsoft Web サイトからインストールできます。

KCM プロキシのサイレント インストール

1. TotalAgility インストール ファイルから、`\\KCMProxyInstallation` に移動します。
2. コマンド プロンプト ウィンドウを起動して **Setup.exe** を実行し、次の形式で KCM サーバー URL を入力します。`http(s)://<CCMServer>:<Portnumber>`
KCM サーバーの IP アドレスとポート番号を指定します。インストーラにより、`Web.config` が KCM サーバーの詳細で更新され、Web サーバー (IIS) でのプロキシ書き換えルールが有効にされます。
3. **Enter** を押します。
KCM プロキシがサイレント モードでインストールされます。
Setup.exe と同じ場所にログ ファイルが生成されます。

KCM プロキシの標準インストール

1. TotalAgility インストール ファイルから、`\\KCMProxyInstallation` に移動し、**Setup.exe** をダブルクリックします。
KCM プロキシ構成 ウィンドウが表示されます。
2. **KCM サーバー URL** を次の形式で入力します。`http(s)://<CCMServer>:<Portnumber>`
KCM サーバーの IP アドレスとポート番号を使用して、`Web.config` ファイルが自動的に更新されます。

3. **構成** をクリックします。
4. **OK** をクリックします。

KCM プロキシの Docker インストール

「dockersetting.env」ファイルを生成する際、構成ユーティリティ ツールの「KCM サーバー URL」設定に URL が指定されている場合は、同じ URL を使用して KCM プロキシがインストールされ、コンテナでの展開が構成されます。

TotalAgility Web.config に含まれる KCM サーバー URL の更新

KCM サーバー URL は、TotalAgility Web.config で手動で更新するか、KCM への統合をセットアップする前に構成ユーティリティを実行して設定を更新することができます。

手動での KCM サーバー URL の更新

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
2. テキスト エディタで、次のディレクトリにある **TotalAgility Web.config** を開きます。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
```

3. 次のセクションを見つけます。

```
<rewrite>
  <rules>
    <rule name="CCMInteractiveProxy" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/Interactive/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/ccm/Interactive/
{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="CCMDesignerProxy" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/Repository/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/ccm/Repository/
{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUIJavascriptProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/ccmcomposerui.js" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/
ccmcomposerui.js" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUICssProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/ccmcomposerui.css" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/
ccmcomposerui.css" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUIImgProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/img/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/img/{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="CCMDesignerStaticProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/static/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/ccm/static/
{R:1}" />
  </rules>
</rewrite>
```

```
</rule>
<rule name="ComposerUIFontProxyRule" stopProcessing="true">
  <match url="CCM/Proxy/fonts/(.*)" />
  <action type="Rewrite" url="http://{ccmserver:port}/proxy/fonts/
{R:1}" />
</rule>
</rules>
```

4. `http://<kcmserver>:<port>` を KCM サーバー URL に置き換えます。
5. 構成ファイルを保存して閉じます。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、設定エディタ ツールで [アプリ] タブを選択し、構成設定を更新します。
『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

KCM プロキシを手動でインストールする

Web プラットフォーム インストーラおよび KCM プロキシ インストーラを使用することなく KCM プロキシをインストールできます。

1. IIS URL Rewrite 2.0 をインストールします。
2. IIS 用の Microsoft Application Request Routing 2.5 以降をインストールします。
3. IIS マネージャーで、以下の操作を行います。
 - a. サーバー レベルで、**アプリケーション 要求ルーティング キャッシュ**をダブルクリックします。
 - b. **サーバー プロキシ設定** をクリックします。
 - c. **プロキシの有効化** を選択します。
 - d. **適用** をクリックします。
4. TotalAgility Web.config で `{http://ccmserver:port}` を見つけ、`http://servername:port` に置き換えます。ここで、**servername** は KCM マシンのホスト名で、**port** は、KCM がデフォルトの 8081 としてリストしたポートです。TotalAgility Web.config で KCM サーバー URL を手動で更新する方法については、前のセクションを参照してください。
5. `<rewrite>` セクションをコメント解除します。
6. 構成ファイルを保存して閉じます。

第9章

TotalAgility ライセンス プロキシのインストール

ライセンス プロキシは、手動でインストールすることも、TotalAgility のインストール時にインストールすることもできます。

この章では、ライセンス プロキシのインストール手順について説明します。

- [ライセンス プロキシの標準インストール](#)
- [ライセンス プロキシのサイレント インストール](#)

TotalAgility のインストール時のライセンス プロキシのインストールについては、「TotalAgility の標準インストールのライセンス プロキシのインストールの手順」を参照してください。

前提条件

システムが次の前提条件を満たしていることを確認してください。

1. VRS Elite サーバーがインストールされているマシンに TotalAgility License Proxy をインストールします (推奨)。インストールしない場合は、各ワークステーションでライセンス ユーティリティを実行し、プロキシ マシンを指すようにサーバーを構成する必要があります。
2. ライセンス プロキシはトラフィックをライセンス サーバーにルーティングする必要があるため、ライセンス プロキシをライセンス サーバー (「Kofax ライセンス サーバー」サービスを実行しているコンピュータ) とは別のコンピュータにインストールします。ライセンス プロキシ セットアップの一環として、インストーラはローカル コンピュータで TotalAgility ライセンス サーバーを確認し、サービスを停止して、起動タイプを「無効」に設定します。

ライセンス プロキシのサイレント インストール

TotalAgility ライセンス プロキシのサイレント インストールを使用して、コマンド ラインまたはバッチ ファイルからライセンス プロキシを自動的にインストールします。サイレント インストール ファイルを編集すると、ユーザーの操作なしでインストールが続行されます。

1. TotalAgility ライセンス プロキシのサイレント インストール ファイルから、C:\Program Files\Kofax\Kofax TotalAgility License Proxy に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。

2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

パラメータ	デフォルト値	説明
InstallLocation	C:\Program Files\Kofax\Kofax TotalAgility License Proxy	TotalAgility ライセンス プロキシをインストールします。
WINSERV_ACCOUNT	"<username>"	サービスを実行しているユーザーの名前。
WINSERV_PASSWORD	"<password>"	サービスを実行しているユーザーのパスワード。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i サービスを実行しているユーザーにサービスとしてログオンする権限と、環境に適したその他の要件が割り当てられていることを確認してください。</p> </div>
TOTAL_AGILITY_URL	http://<TotalAgility SERVER>/TotalAgility/Services/SDK/LicenseServerService.svc	接続する Kofax TotalAgility サーバー (「<TotalAgility SERVER>」を実際のサーバーに置き換えます)。
SYSTEM_SESSION_ID	"<SYSTEM_SESSION_ID>" /qn	Kofax TotalAgility のシステム セッション ID (「<SYSTEM_SESSION_ID>」をシステム セッション ID に置き換えます)。

ライセンス プロキシの標準インストール

標準のインストーラ ウィザードを使用して、TotalAgility ライセンス プロキシをインストールできます。

1. TotalAgility インストール ファイルから手動でインストールするには、\
 \Kofax TotalAgility-7.11.0\Licensing\Installs に移動し、KofaxLicenseServer.TotalAgility.Proxy-6.5.0.msi を実行します。
 [Kofax TotalAgility ライセンス プロキシのセットアップ] ウィザードが開きます。
2. [次へ] をクリックします。
3. [エンドユーザー ライセンス契約書] ウィンドウでライセンス契約書の条項に同意し、[次へ] をクリックします。
4. [インストール先フォルダ] ウィンドウで、Kofax TotalAgility ライセンス プロキシがインストールされるデフォルトのパス (C:\Program Files (x86)\Kofax\TotalAgility License Proxy\) を選択するか、[変更] をクリックして別のフォルダを選択します。
5. [次へ] をクリックします。
6. [サービス アカウントのセットアップ] ウィンドウで、TotalAgility ライセンス サーバー サービスを実行するユーザーの認証情報を入力します。
 - a. [ユーザー名] フィールドに、ユーザー名を入力します。
 ドメイン ユーザーを指定するには、<ドメイン>\<ユーザー> の形式でユーザー名を入力します。

- b. パスワードを入力し、確認します。

i このアカウントは、指定された TotalAgility URL にアクセスできる必要があります。これらの認証情報は、Kofax ライセンス プロキシ サービスに使用されます。

- c. **[次へ]** をクリックします。

7. TotalAgility 接続設定ウィンドウで、以下の操作を行います。

- a. 構成設定が存在するライセンス サーバーの URL を入力します。

`http://[サーバー名]/TotalAgility/Services/Core/LicenseServerService.svc`
という形式を使用します。ここで、[サーバー名] は TotalAgility サーバーの名前です。

i SSL を使用する場合は、信頼済みの有効な証明書が必要です。

- b. システム セッション ID を入力します。

TotalAgility Designer ([システム] > [設定] > [設定]) でシステム セッション ID 値を取得します。

- c. **[次へ]** をクリックします。

システムによって設定がダウンロードされます。

8. **[インストール]** をクリックしてインストールを開始します。

9. **[終了]** をクリックします。

VRS サーバーの Kofax TotalAgility ライセンス プロキシがインストールされます。プロキシが適切に動作しているかどうかを確認するには、`C:\Program Files\Kofax\Imgctls\bin\Application` に移動し、`KSALicenseUtility` を実行します。プロキシが適切に構成されている場合はライセンス情報が Kofax ライセンス ユーティリティのユーザー インターフェイスに表示され、適切に構成されていない場合はエラーが表示されます。場合によっては、TotalAgility サーバーと一致するようにシステム セッション ID を再構成する必要があります。

TotalAgility ライセンス プロキシ情報を変更する

インストール後、以下のいずれかの方法で TotalAgility ライセンス プロキシ情報を変更できます。

- 通常は `C:\Program Files (x86)\Kofax\TotalAgility License Proxy\` にある `Kofax.Licensing.TotalAgility.ProxyConfig.exe` を実行します。例: TotalAgility Designer でシステム セッション ID を再生成する場合は、ライセンス プロキシ構成に同じセッション ID を反映させる必要があります。
- コマンド ライン パラメータを使用します。必要に応じて、パラメータを次の値に置き換えます。

パラメータ	値
/URL	TotalAgility URL
/sessionID	指定されたユーザーのシステム セッション ID。

パラメータ	値
/retrySpan	TotalAgility との接続を再試行する期間。時間は、TimeSpan.Parse で受け入れられる形式で指定します。たとえば、「00:00:30」はデフォルトの 30 秒を表します。
/silent	構成ユーティリティのサイレント モードを有効にします。ユーザー インターフェイスは表示されません。

たとえば、`Kofax.Licensing.TotalAgility.TenantProxyConfig /url https://tenantSpecific /sessionId {66FFD7D5-F618-4BEE-903A-54C151671BC8} /retrySpan:00:05:00` のようにします。



i 無効なパラメータを指定してコマンドを実行すると、エラー メッセージが標準エラー ファイルに送信されます。

第 10 章

Kofax Web Capture Service のインストール

この章では、Kofax Web Capture Service をデフォルトの場所またはカスタムの場所にインストールする方法について説明します。

デフォルトの場所への Web Capture サービスのインストール

1. 初めてスキャン対応フォームを開くと、新しい Web Capture サービスをインストールするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。『TotalAgility Designer のヘルプ』の「スキャン新規ジョブ作成フォームの作成」を参照してください。
2. **実行** をクリックします。
3. MSI インストーラのコピーを保持する場合は、**名前を付けて保存** を選択します。MSI インストーラは、エンタープライズでの一元的な展開のシナリオに使用できます。
4. インストールが完了したら、ページを更新します。
5. ページの更新後、スキャン新規ジョブ作成フォームの [設定の表示と変更] アイコン  が利用可能になります。
6. システムトレイ アイコンの [Kofax Web Capture サービス] アイコン  は、サービスが実行されているかどうかを示します。

カスタムの場所への Web Capture サービスのインストール

カスタムの Web Capture サービスのインストール場所が必要なエンタープライズ展開のシナリオでは、次のように Web Capture サービスをインストールします。

コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
msiexec /i Kofax.WebCapture.Installer.msi INSTALLFOLDER=<Installation Folder>
```

Web Capture サービスを Windows サービスとしてインストールする

Windows サービスとしてインストールされた Web Capture サービスを展開およびアップグレードするには、管理者権限が必要です。

Web Capture サービスを Windows サービスとしてインストールするには、次のように INSTALLSERVICE コマンド ライン オプションを使用して、マルチユーザー サポート機能を有効にします。

```
msiexec /I Kofax.WebCapture.Installer.msi INSTALLSERVICE=1
```

MSI インストール パッケージは、TotalAgility インストール フォルダの次の場所にあります。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Forms\Controls\Capture\external  
\webcapture
```

マルチユーザー環境での Web Capture サービスの使用

MS ターミナル サーバー、Citrix などのマルチユーザー環境で、Web Capture サービスを使用できます。複数のユーザーが、異なる Windows ログオン セッションから、Web Capture サービスを同時に操作できます。

MS ターミナル サーバーでの Web Capture サービスの使用

ターミナル サーバーを使用すると、複数のユーザーがスキャン サーバーに同時に接続して、スキャン タスクやファイルのインポートを並列して実行できます。Web Capture サービス ホストは、要求を実際に行ったユーザーを特定し、適切な Web Capture サービス ワーカーに要求を転送します。Web Capture サービス ワーカーは、この特定のユーザーが利用できるデバイスとファイルを操作します。

i Web Capture サービスが操作できるスキャナは、リモート ターミナル サーバーに接続されているものだけです。ローカルに接続されているスキャナは操作できません。

同様に、ファイルのインポートの場合に Web Capture サービスによって提供されるのは、ターミナル サーバー上のファイルへのアクセスです。


Citrix で Web Capture サービスを使用する

ブラウザ アプリと Web Capture サービスの両方が Citrix サーバーにインストールされている場合、スキャナがクライアント ユーザーのコンピュータに接続されていても、Web Capture サービスが物理的に実行されるのはリモートの Citrix サーバーです。これは、Citrix TWAIN リダイレクトが有効な場合、Web Capture サービスからは透過的に機能します。

i 1 つの Citrix サーバーで同時にアクティブにできるユーザー セッションの数は、50 セッションまでに制限されています。

Web Capture サービスをアップグレードする

Windows サービスとしてインストールされた Web Capture サービスをアップグレードするには、Web Capture サービスのインストールに使用したものと同一コマンド ライン パラメータを使用します。

 Windows サービスとしてインストールされた Web Capture サービス を、スタンドアロンバージョンにアップグレードすることはできません。これを試みると、次のメッセージが表示されます。既に Web Capture サービスが Windows サービスとしてインストールされているため、このアプリケーションをインストールできません。

ただし、スタンドアロン インストールから Windows にアップグレードできます。

第 11 章

Kofax Scan Agent Service のインストール

Scan Agent Service は、TotalAgility インストール メディアに含まれている MSI ファイルによって展開できる軽量のローカル エージェントを通じて提供されます。

システム サービスをインストールできる特権が必要です。ない場合は、Scan Agent Service (ScanAgentService) をインストールできません。

Scan Agent Service に使用するサービス アカウント:

TotalAgility が Windows 認証を使用するように構成されている場合は、TotalAgility 内で認証される Active Directory アカウントを指定する必要があります。そのようにしない場合は、LocalSystem アカウントを使用します。

Scan Agent Service は、スキャンされたイメージにアクセスするためにユーザー プロファイル固有のフォルダへのアクセス権が必要であるため、Scan Agent Service に使用されるサービス アカウントは、さまざまなユーザー プロファイルへのアクセス権が必要です。したがって、このアカウントには管理者権限が必要です。たとえば、Scan Agent Service がターミナル サーバーにインストールされている場合や、複数のユーザー (スキャン オペレータ) が同じコンピュータを使用している場合などです。

Scan Agent Service をエンド ユーザーのコンピュータに展開する場合は、管理者特権が不要ことがあります。たとえば、Scan Agent Service が特定のユーザーのみのためにイメージをアップロードする場合は、このユーザー アカウントで Scan Agent Service をインストールできます。

前提条件

システム サービスをインストールできる特権が必要です。ない場合は、Scan Agent Service (ScanAgentService) をインストールできません。

Scan Agent Service に使用するサービス アカウント

- TotalAgility が Windows 認証を使用するように構成されている場合は、TotalAgility 内で認証できる Active Directory アカウントを指定します。Active Directory アカウントを指定しない場合は、LocalSystem アカウントを使用します。
- Scan Agent Service が、スキャンされたイメージにアクセスするためにはユーザー プロファイル固有のフォルダへのアクセス権が必要であるため、Scan Agent Service に使用するサービス アカウントには、さまざまなユーザー プロファイルにアクセスするための管理者権限が必要です。たとえば、Scan

Agent Service がターミナル サーバーにインストールされている場合や、複数のユーザー (スキャンオペレータ) が同じコンピュータを使用している場合などです。

- たとえば、特定のユーザーのイメージのみをアップロードするために Scan Agent Service をエンドユーザーのコンピュータに展開する場合、管理者権限は必ずしも必要ではありません。エンドユーザーのアカウントで Scan Agent Service をインストールできます。

Scan Agent Service の標準インストール

1. TotalAgility インストール ファイルから \\ScanAgentService に移動します。
2. **Kofax.TotalAgility.ScanAgentService.Installer.msi** をダブルクリックします。
Kofax TotalAgility Scan Agent Service のセットアップ ウィザードが起動します。
3. **次へ** をクリックします。
4. **エンドユーザー ライセンス契約書** ウィンドウで、**ライセンス契約書の条項に同意します** を選択します。
5. **次へ** をクリックします。
6. **[インストール先フォルダ]** ウィンドウで、Scan Agent Service のインストール先としてデフォルトの場所を受け入れるか、**[変更]** をクリックして別のフォルダを選択します。
7. **次へ** をクリックします。
8. **サービス アカウントのセットアップ** ウィンドウで、Kofax TotalAgility Scan Agent Service のログオン アカウント (Windows アカウント) を指定します。
9. **次へ** をクリックします。
10. **[インストール]** をクリックしてインストールを開始します。
インストールされると、ローカル サービスの「Kofax TotalAgility Scan Agent Service」がワークステーションに作成されます。付属の「Scan Agent Monitor」を使用して、ジョブのアップロードステータスを監視することができます。

Scan Agent Service を使用したスキャン

スキャン新規ジョブ作成フォームのステータス バーは、セッションが Scan Agent Service に接続されているかどうかを示します。

スキャン新規ジョブ作成フォームは、イメージの実際のアップロードを Scan Agent Service にオフロードします。ただし、イメージ補正が有効になっている場合、スキャン新規ジョブ作成フォームは通常の方法でイメージ処理を行います。

イメージ処理操作 (実行される場合) が完了すると、まだサーバーにアップロードされていないイメージがある場合でも、**[ジョブの作成]** ボタンが使用可能になります。**[ジョブの作成]** をクリックすると、Scan Agent Monitor にジョブが表示されます。

Scan Agent Monitor を使用して、ジョブのアップロード ステータスを監視できます。ジョブのアップロード ステータスは、次のとおりです。

- **保留中:** ジョブはアップロードの準備中です。
- **進行中:** ジョブは現在アップロードされています。
- **終了済み:** ジョブは正常にアップロードされました。
- **エラー:** ジョブでエラーが発生し、ジョブが停止しました。
- **一時停止中:** ジョブは一時停止されました。

ジョブのステータスに応じて、以下のアクションを使用できます。

- **中止:** 該当するジョブを中止してキャンセルし、ジョブをキャンセルする TotalAgility ユーザー アカウントを指定するように求めるメッセージを表示します。

i このアクションには、個別の TotalAgility ユーザー セッションが使用されます。[複数のログオンを許可する] が有効になっていない場合、「中止」アクションにより、同じユーザー アカウントを使用している他のすべてのセッションが終了します。

- **一時停止:** ジョブのアップロード セッションを一時停止します。一時停止したジョブは、明示的に再開する必要があります。
- **再試行:** ジョブでエラーが発生した場合、アップロード ジョブを再度キューに入れます。このアクションは、アップロード エラーからの回復に役立ちます。
- **再開:** 一時停止したジョブを再開します。
- **完了済みクリア:** アップロードを完了したすべてのジョブをリストから削除します。

第 12 章

Kofax VRS Elite のインストール

この章では、TotalAgility 用に Kofax VRS Elite をインストールおよび構成する方法について説明します。Kofax VRS Elite のインストールの詳細については、[Kofax サポート](#) サイトの『Kofax VRS Elite インストール ガイド』を参照してください。

VRS Elite のインストール

ライセンス オプションに応じて VRS Elite をインストールします。

1. スキャナに VRS Basic または Professional の OEM バージョンが含まれている場合は、スキャンステーションで setup.exe を実行します。VRS ソフトウェアは、関連付けられているスキャナ モデルに基づいて自動的にアクティブ化されます。
2. スタンドアロン VRS ライセンスを購入した場合は、setup.exe を実行し、セットアップタイプとして [スタンドアロン] を選択します。メッセージが表示されたら、パーツ番号 (VP-P005-0001 など)、製品コード、およびシリアル番号を指定して、ソフトウェアをアクティブ化します。
3. TotalAgility ライセンス サーバーを介して VRS ライセンスを管理し、VRS Elite 共有プロファイルと自動プロファイル トレーニング データを有効にする場合は、次の手順を実行します。
 - a. VRS Elite インストール メディアから setup.exe を実行します。
 - b. プロンプトが表示されるので、セットアップタイプとして [サーバー] を選択します。
 - c. TotalAgility ライセンス サーバーの情報を確認します。

i VRS サーバーが TotalAgility ライセンス サーバーに直接接続していない場合は、**ライセンス プロキシをインストール**する必要があります。

- d. インストール ウィザードの手順を完了します。
- e. 生成された展開 Kofax VRS.msi を使用して、スキャンステーションに VRS をインストールします。詳細については、『Kofax VRS Elite インストール ガイド』を参照してください。

Kofax VRS Elite を TotalAgility Scan Client と共に使用する

VRS Elite をインストールした後、TotalAgility でドキュメントをスキャンすると、スキャナのリストに Kofax Software VRS - TWAIN が表示されます。詳細については、『TotalAgility Scan Client help』(TotalAgility Scan Client のヘルプ) を参照してください。

第 13 章

TotalAgility 構成

この章では、TotalAgility をインストールした後のインストール パラメータの変更または更新、TotalAgility 構成ファイルの暗号化と復号化など、TotalAgility を構成する手順について説明します。

HTTPS 通信用の TotalAgility の構成

TotalAgility を HTTPS 通信用に構成するには、次の手順を実行する必要があります。

- IIS の TotalAgility アプリケーションに対する SSL の構成
- TotalAgility 構成ファイルの更新

IIS の TotalAgility アプリケーションに対する SSL の有効化

TotalAgility Web レイヤーと Kofax TotalAgility Core Worker に対して SSL (Secure Sockets Layer) 通信を有効にし、コア サービスおよび Transformation Server との通信を可能にします。

インストール時に TotalAgility に対して SSL を有効化できます。ただし、インストール時に SSL を有効にしていない場合は、製品インストール フォルダに含まれている構成ユーティリティを実行することにより、インストール後に有効にすることができます。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

i TotalAgility 構成ファイルでバインディングを変更する前に、IIS で TotalAgility に対して SSL が有効になっていることを確認します。

1. **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー**を開きます。
2. **[デフォルトの Web サイト]** を右クリックして、**[バインドの編集]** をクリックします。
3. **[追加]** をクリックします。
 - a. **[タイプ]** リストで、**[HTTPS]** を選択します。
 - b. **SSL 証明書** リストで、証明書を選択します。
 - c. 別の Web サーバーをインストールする場合は、Web サーバーの **IP アドレス** と **ポート番号** を追加で指定します。
 - d. **[OK]** をクリックします。
4. TotalAgility をクリックして、**機能** タブの **[SSL 設定]** をクリックします。
 - a. **SSL の要求** チェック ボックスをオンにします。

- b. クライアント証明書を承認します。
- c. 適用 をクリックします。

TotalAgility 構成ファイルの更新

次の構成ファイルを更新します。

- Web.config
- Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config

Web.config を更新する

1. インストールした場所にある **Web.config** を開きます。デフォルトの場所は次のとおりです。

C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web

2. <servicebehaviors> で、次のように httpsGetEnabled の設定を更新します。

```
<serviceBehaviors>
  <behavior name="Agility.Server.Web.Services.Behavior">
    <serviceMetadata httpGetEnabled="false" httpsGetEnabled="true" />
  </serviceBehaviors>
```

3. デフォルトでは、<security mode="TransportCredentialOnly"> になります。HTTPS モードを使用している場合は、次のように <security> の設定を更新します。

- HTTPS で Windows 認証を使用している場合は、<security> 設定を次のように更新します。

```
<!-- HTTPS SSL with Windows logon-->
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Windows"/>
</security>
```

- HTTPS で匿名認証または手動ログインを使用している場合は、<security> 設定を次のように更新します。

```
<!-- HTTPS SSL with application authentication-->
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="None" />
</security>
```

- HTTP で匿名認証または手動ログインを使用している場合は、<security> 設定を次のように更新します。

```
<security mode="TransportCredentialOnly">
  <transport clientCredentialType="None" />
</security>
```

i Transformation Designer が正しく機能するには、web.config と StreamingService の両方で BasicHttpStreamingBinding_Service バインディングを None に設定する必要があります。

4. すべてのバインディングに対して上記の HTTPS トランスポート認証を実行します。

- BasicHttpBinding_TrimCommunicatorService
- BasicHttpBinding_ExchangeNotificationService
- BasicHttpBinding_DynamicsAxCommunicatorService

- BasicHttpBinding_DynamicsAxIntegrationService
- BasicHttpBinding_Service
- CustomBinding_CoreService
- BasicHttpBinding_RemoteLinkedService
- BasicHttpBinding_LicenseServerService
- BasicHttpStreamingBinding_Service
- BasicHttpBinding_DeviceManagerService
- BasicHttpBinding_InsightDataService
- BasicHttpBinding_SigningIntegrationService
- WebHttpBinding_Service
- WebHttpBinding_DeviceManagerService
- WebHttpBinding_SigningIntegrationService
- BasicHttpBinding_SharepointReceiverService

- HTTPS 認証を使用する場合は、以下の HTTP セクションをコメントアウトします。

```
<!-- HTTPS SSL with application authentication-->
<security mode="TransportCredentialOnly">
<transport clientCredentialType="None"/>
</security>
```

- HTTP 認証を使用する場合は、上記の HTTPS セクションをコメントアウトします。

```
<!-- HTTP with application authentication-->
<security mode="TransportCredentialOnly">
<transport clientCredentialType="None" />
</security>
```

i Windows 認証または手動認証の場合、SharePoint Receiver Service は、HTTP 認証と HTTPS 認証の両方に匿名バインドを使用する必要があります。

5. HTTPS セッション Cookie の機密を保持するための Secure 属性は、デフォルトでは設定されていません。このため、ブラウザはこれらの Cookie を HTTP セッションを介してプレーン テキストで送信できます。Cookie を保護するには、httpCookies タグをコメント解除します。

```
<httpCookies requireSSL="true"/>
```

6. TotalAgility を特定の SQL Server に接続するには、TotalAgility データベース接続文字列に "encrypt=true" が設定されていることを確認します。

i 強制暗号化を使用して SQL Server レベルで SSL 暗号化がグローバルに有効になっている場合は、TotalAgility 接続文字列を更新する必要はありません。
強制暗号化を使用して SQL Server レベルで SSL 暗号化がグローバルに有効になっている場合は、TotalAgility 接続文字列を更新する必要はありません。

7. ファイルを保存します。

Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config の更新

1. インストールした場所にある **Core Worker Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config** を開きます。デフォルトの場所は次のとおりです。

C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\CoreWorkerService

2. すべてのバインディングに対して HTTPS トランスポート認証を実行します。
 - BasicHttpBinding_Service
 - CustomBinding_CoreService
 - BasicHttpBinding_TrimCommunicatorService
3. ファイルを保存します。
4. TotalAgility CoreWorker サービスを再起動します。

Agility.Server.StreamingService.exe.config の更新

1. インストールした場所にある **Agility.Server.StreamingService.exe.config** を開きます。デフォルトの場所は次のとおりです。

- **Web サーバー:**

C:\ProgramFiles\Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web\bin
\Agility.Server.StreamingService.exe.config

- **アプリケーションサーバーおよび Web/アプリケーション一体型サーバー:**

C:\ProgramFiles\Kofax\TotalAgility\CoreWorkerService
\Agility.Server.StreamingService.exe.config

i アプリケーション サービスと Web サービスの両方の
Agility.Server.StreamingService.exe.config を編集します。

2. <servicebehaviors> で、次のように httpsGetEnabled の設定を更新します。

```
<serviceBehaviors>
  <behavior name="Agility.Server.Web.Services.Behavior">
    <serviceMetadata httpGetEnabled="false" httpsGetEnabled="true" />
  </serviceBehaviors>
```

3. デフォルトでは、<security mode="TransportCredentialOnly"> になります。HTTPS モードを使用している場合は、次のように <security> 設定を更新します (Windows 認証または手動ログオンの場合)。

```
<!-- HTTPS SSL with Windows logon-->
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="None"/>
</security>
```

i 他の種類の認証は WCF ストリーミング転送モードでサポートされていないため、ストリーミング サービスの場合は ClientCredentialType を None にする必要があります。呼び出し側セッション ID は常に検証され、HTTPS 証明書が有効であることが必要になるため、これは問題ではありません。

4. 次のように、すべてのバインディングに対して HTTPS トランスポート認証を実行します。

- **WebHttpExportBinding_Service**

```
<binding name="WebHttpExportBinding_Service"> transferMode="StreamedResponse">
  <security mode="Transport">
    <transport clientCredentialType="None">
  </transport>
```

```
</security>
</binding>
```

- **WebHttpImportBinding_Service**

```
<binding name="WebHttpImportBinding_Service" transferMode="StreamedRequest">
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="None">
</transport>
</security>
</binding>
```

- **BasicHttpStreamingBinding_Service**

```
<binding name="BasicHttpStreamingBinding_Service" transferMode="Streamed"
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="None">
</transport>
</security>
</binding>
```

- **BasicHttpBinding_Service**

```
<binding name="BasicHttpBinding_Service">
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>
</binding>
```

- **BasicHttpStreamingBinding_CoreService**

```
<binding name="BasicHttpStreamingBinding_CoreService" transferMode="Streamed"
<binding name="BasicHttpStreamingBinding_CoreService" transferMode="Streamed"
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>
</binding>
```

i ストリーム転送モードでは、Microsoft WCF ランタイムによって、セキュリティにいくつかの制限が適用されます。Windows 認証は、ストリーミング転送モードでは使用できません。したがって、匿名認証を使用することをお勧めします。ただし、TotalAgility はリクエストを処理する前に、必ずセッション ID を検証します。

- **CustomBinding_CoreService**

```
<binding name="CustomBinding_CoreService">
<!--
  <httpTransport authenticationScheme="Negotiate" for http with windows
  authentication
  <httpsTransport authenticationScheme="Anonymous" for https with None
  authentication
  -->
  <httpsTransport authenticationScheme="Anonymous" allowCookies="true"
  maxBufferSize="2147483647" maxReceivedMessageSize="2147483647"
  maxBufferPoolSize="524288" />
</binding>
```

5. <baseAddresses> を http から https に変更します。
6. ファイルを保存します。
7. TotalAgility Streaming Service を再起動して、新しい設定を適用します。

高可用性のための TotalAgility の構成

別のコンピュータに 2 番目のライセンス サーバーをインストールし、それを Kofax TotalAgility のバックアップ サーバーとして使用することができます。

1. TotalAgility インストール ファイルの **\\TotalAgilityInstall > Licensing > Installs** に移動します。
2. **[KSALicServerSetup]** をクリックします。
[ライセンス サーバーのセットアップ] ウィンドウが開きます。
3. **[次へ]** をクリックします。
4. [インストール先フォルダ] ウィンドウで、ライセンス サーバーのデフォルト フォルダ (C:\Program Files (x86)\Kofax\License Server\) を選択するか、**変更** をクリックして別のフォルダを選択します。
5. **[次へ]** をクリックし、指示に従ってインストールを完了します。

iPad または iPhone を経由した TotalAgility へのアクセス

iPad または iPhone を介して TotalAgility にアクセスするには、**Web.config** ファイルを更新します。Web サーバーとアプリケーション サーバーの間で Windows 認証を使用し、クライアント デバイスから Web サーバーへの TotalAgility 認証を引き続き使用することができます。

1. Web サーバー上の次のディレクトリにある TotalAgility **Web.config** ファイルにアクセスします。C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web\Web.config.
2. **.config** ファイルで以下を検索します。<binding name=「BasicHttpBinding_Service」。
3. <binding> から </binding> までのコード ブロック全体をコピーします。
4. コピーしたブロックの下にブロックを貼り付けて、名前を <binding name=**BasicHttpBindingCore_Service** に変更します。
5. コピーしたバインディングで、Windows 認証を使用した HTTP が有効になっていることを確認します。これにより、Web サーバーからアプリケーション サーバーへの認証が有効になります。
6. コア エンド ポイントの開始点に移動して、<!--START CORE END POINTS --> を検索します。
7. 各コア エンド ポイントで、BasicHttpBinding_Service を BasicHttpBindingCore_Service に置き換えます。
8. クライアント デバイスから Web サーバーへの認証を使用するには、元の BasicHttpBinding_Service バインディングを更新して匿名認証と SSL を使用します (必要な場合)。
9. **Web.config** ファイルを保存します。
10. TotalAgility にログオンして、自分が TotalAgility ユーザーとして以前に追加されていることを確認します。

フェデレーション セキュリティを使用する場合の共通のマシンキーの生成

負荷分散環境で TotalAgility とフェデレーション セキュリティを併用している場合、TotalAgility は WsFed トークンを使用して、ID プロバイダから渡された暗号化トークンを一貫した方法で復号化することができません。これは、デフォルトでは、各負荷分散サーバーにトークンの暗号化/復号化に使用される一意のマシン キー識別子があるためです。

共通のマシン キーを生成し、それを負荷分散環境のすべてのサーバーに伝播させることをお勧めします。たとえば、TotalAgility アプリケーションのマシン キーを生成する場合、Web.config ファイルはマシン キーの要素を使用して自動的に更新されます。マシン キーの構成は、Web サーバー、サイト、またはアプリケーション レベルで実行できます。

マシン キーを生成するには、次の手順を実行します。

1. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーを開きます。
2. 左側のパネルで TotalAgility アプリケーション、Web サイト、または Web サーバーを選択して、マシン キーを生成します。
3. **[機能ビュー]** で、**[マシン キー]** を右クリックし、**[機能を開く]** をクリックします。
4. **[マシン キー]** ページの **[暗号化の方法]** ドロップダウン リストで、暗号化の方法を選択します。
5. **[復号化方法]** ドロップダウン リストで復号化方法を選択します。
6. 必要に応じて、**[検証]** キーと **[復号化]** キーの設定を構成します。
7. **[アクション]** パネルで、**[キーの生成]** をクリックし、**[適用]** をクリックします。
[適用] をクリックすると、変更が Web.config ファイルに自動的に保存されます。

マシン キーを暗号化および復号化するには、「[TotalAgility 構成ファイルの暗号化および復号化](#)」を参照してください。

TotalAgility 構成ファイルの暗号化および復号化

TotalAgility 構成ファイルには、機密情報を含む DB 接続設定が含まれます。したがって、以下の TotalAgility ファイルを暗号化することをお勧めします。

- Web.config (Microsoft ASP.NET IIS 登録ツールを使用)
- 実行可能ファイルの構成ファイル (Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe ユーティリティを使用)

i Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe は Web.config では機能しません。実行可能ファイルの構成でのみ機能します。

すべての構成ファイルを暗号化または復号化できます。

構成ファイルのリスト

実行可能ファイルの構成ファイルのリスト

構成ファイル名	場所
<ul style="list-style-type: none"> Agility.Server.ExportConnector.exe.config 	[インストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web
<ul style="list-style-type: none"> Agility.Installation.Server.Upgrade.exe.config Agility.Server.Core.Executor.exe.config Agility.Server.ExportConnector.exe.config Agility.Server.StreamingService.exe.config 	[インストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web\bin\
<ul style="list-style-type: none"> Agility.Server.Core.Executor.exe.config Agility.Server.Core.ExportService.exe.config Agility.Server.Core.ExportWorker.Host.exe.config Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config Agility.Server.StreamingService.exe.config 	[インストール場所]\TotalAgility\CoreWorkerService
<ul style="list-style-type: none"> Kofax.CEBPM.Reporting.AzureETL.exe.config Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe.config 	[インストール場所]\TotalAgility\Reporting
<ul style="list-style-type: none"> KSALicenseService.exe.config 	[インストール場所]\TotalAgility\LicenseServer
<ul style="list-style-type: none"> ExtractionProcess.exe.config 	C:\ProgramFiles (x86)\Common Files\Kofax\Server\
<ul style="list-style-type: none"> RegAscSc.exe.config 	[インストール場所]\TotalAgility\ExportConnectors\bin\
<ul style="list-style-type: none"> Setup.exe.config 	[インストール場所]\TotalAgility\KCMProxyInstallation
<ul style="list-style-type: none"> Agility.Server.Core.Executor.exe.config Kofax.CEBPM.CPU.Server.ServiceHost.exe.config Kofax.CEBPM.DocumentConversionService.Host.exe.config Kofax.CEBPM.ProcessingService.Host.exe.config 	[インストール場所]\TotalAgility\TransformationServer
<ul style="list-style-type: none"> csc.exe.config 	[インストール場所]\TotalAgility\TransformationServer\roslyn

Web 構成ファイルのリスト

構成ファイル名	場所
<ul style="list-style-type: none"> • Web.config • App.config 	[インストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web\
<ul style="list-style-type: none"> • Web.config 	[インストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web\DeviceManager
<ul style="list-style-type: none"> • Web.config 	[インストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web\KFS
<ul style="list-style-type: none"> • Web.config 	[インストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web\Kofax\BrowserDevice
<ul style="list-style-type: none"> • Web.config 	[インストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web\Kofax\BrowserDevice\Static
<ul style="list-style-type: none"> • Web.config 	[インストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web\MobileServices
<ul style="list-style-type: none"> • Web.config 	[インストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web\Services\Core
<ul style="list-style-type: none"> • Web.config 	[インストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web\Services\Core\Integration
<ul style="list-style-type: none"> • Web.config 	[インストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web\Services\Sdk
<ul style="list-style-type: none"> • Web.config 	[インストール場所]\TotalAgility\OpenAPI

Web.config の暗号化と復号化

Microsoft ASP.NET IIS 登録ツール (aspnet_regiis) を使用して、Web.config ファイルの任意のセクションを暗号化または復号化します。Microsoft Web サイトの「暗号化および復号化の構成」セクションを参照してください。

1. [Kofax のインストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web にある TotalAgility Web.config に移動します。
2. Microsoft ASP.NET IIS 登録ツール (aspnet_regiis) を実行します。

少なくとも、データベース接続情報を含む appSettings セクションを暗号化します。

暗号化するには、次のコマンドを使用します。

```
aspnet_regiis -pef "Section of file" "Path exluding web.config without trailing slash"
```

復号するには、次のコマンドを使用します。

```
aspnet_regiis -pdf "Section of file" "Path exluding web.config without trailing slash"
```

実行可能ファイルの構成ファイルの暗号化および復号化

Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe ユーティリティ (TotalAgility のインストール ディレクトリにある) は、実行可能ファイルの構成ファイルを暗号化 (-enc) または復号化 (-dec) します。

実行可能ファイルの構成ファイルを暗号化する前に、セキュリティ プロバイダを追加する必要があります。

セキュリティ プロバイダの追加

構成ファイルを暗号化する前に、ファイルに次の <configProtectedData> セクションを追加します。

i <configSections> 要素は、構成ファイル内の構成の最初の子要素である必要があります。これは、.NET Configuration Manager によって強制されます。

```
<configProtectedData>
  <providers>
    <add useMachineProtection="true"
      name="DPAPIProtection"
      type="System.Configuration.DpapiProtectedConfigurationProvider,
      System.Configuration, Version=2.0.0.0, Culture=neutral,
      PublicKeyToken=b03f5f7f11d50a3a" />
    <add name="RSAProvider"
      type="System.Configuration.RsaProtectedConfigurationProvider,
      System.Configuration,
      Version=2.0.0.0, Culture=neutral, PublicKeyToken=b03f5f7f11d50a3a,
      processorArchitecture=MSIL"
      keyContainerName="CPUserverKeys" useMachineContainer="true" />
  </providers>
</configProtectedData>
```

実行可能ファイルの構成ファイルの暗号化

Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe ユーティリティは、構成ファイルの任意のセクションを暗号化 (-enc) または復号化 (-dec) します。

appSettings セクションには、ユーザー ID、パスワード、その他の情報が含まれているため、少なくともこのセクションは暗号化します。オプションの -h フラグを使用すると、コマンドのヘルプが表示されます。

TotalAgility サーバーでは、Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe ユーティリティで使用するコマンドラインパラメータに応じて、次の 2 つの暗号化方法がサポートされます。

- [DPAPI 暗号化](#)
- [RSA 暗号化](#)

DPAPI 暗号化方法を使用する

ファイルを暗号化したときと同じマシンでファイルを復号化する必要があるため、このユーティリティは、一度に 1 つのサーバーを暗号化する場合に使用します。

各 TotalAgility サーバーで個別にユーティリティを実行します。

1. TotalAgility Core Worker サーバー サービスを停止します。
2. TotalAgility Core Worker のインストール ディレクトリに移動します。
3. **Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe** を **Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config** と同じフォルダにコピーします。
4. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

```
Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe -f Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config -s "appSettings" -p DPAPIProtection -enc
```

RSA 暗号化方法を使用する

2 つの独立したキーを使用する、公開キー暗号化とデジタル署名のアルゴリズムです。1 つのサーバーでキーを作成して構成ファイルを暗号化し、そのキーを他のすべてのサーバーにエクスポートします。エクスポートしたキーがインストールされているすべての TotalAgility サーバーから、構成ファイルにアクセスできます。同じ構成のサーバーがいくつかある場合は、この方法を使用します。

以下の手順は、キーを作成するソース TotalAgility サーバーと、キーをインポートするターゲット TotalAgility サーバーとで異なります。

キーを準備する

1 つのソース TotalAgility サーバーで、以下の手順を実行します。

1. カスタム RSA キー コンテナを作成します。
 - a. 管理者権限で TotalAgility サーバーにログオンします。
 - b. コマンド ライン ウィンドウを開きます。
 - c. .NET Framework バージョン 4.0 のディレクトリに移動します。たとえば、次のコマンドを入力します。

```
cd \WINDOWS\Microsoft.Net\Framework\v4.0.*
```

- d. 次のコマンドを実行します。

```
aspnet_regiis -pc 「<KeysFile>」 -exp
```

ここで、

- <キー ファイル> は、キー ファイルの名前です。
- -exp オプションは、キーをエクスポート可能にします。

2. 次のコマンドを実行して、<キー ファイル> RSA コンテナ ファイルを読み取る権限を TotalAgility Core Worker サーバー サービス ユーザーに付与します。

```
aspnet_regiis -pa <キー ファイル> <TotalAgility サービス ユーザー>
```

ここで、

- <キー ファイル> は、手順 1d で作成したキー ファイルの名前です。
- <TA サービス ユーザー> は、TotalAgility Core Worker サーバー サービス ユーザーです。

3. ファイルを暗号化する

- a. TotalAgility Core Worker サーバー サービス ユーザーとして TotalAgility サーバーにログオンします。
- b. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動し、コマンド ライン ウィンドウを開きます。
- c. 次のコマンドを実行します。

```
KofaxKofax.CEBPM.EncryptConfig.exe -f  
Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config -s "appSettings" -p  
RSAProvider -enc
```

このコマンドは、構成ファイルの appSettings セクションを暗号化します。appSettings セクションには、ユーザー ID、パスワード、その他の情報が含まれています。

4. 次のコマンドを実行してキーをエクスポートします。

```
aspnet_regiis -px "<キー ファイル>" "c:\keys.xml" -pri
```

ここで、

- <キー ファイル> は、デフォルトのキー ストア キー コンテナ名です。
- <c:\keys.xml> は、エクスポートされるキー ファイルのパスとファイル名です。

キーをインポートする

すべてのターゲット TotalAgility サーバーで、以下の手順を実行します。

1. キーをインポートします。

- a. 管理者権限で TotalAgility サーバーにログオンします。
- b. keys.xml ファイルをソース TotalAgility サーバーからターゲット TotalAgility サーバーのルート C:\ ディレクトリにコピーします。
- c. コマンド ライン ウィンドウを開きます。
- d. 次のコマンドを実行します。

```
aspnet_regiis -pi "<キー ファイル>" "c:\keys.xml"
```

ここで、

- <キー ファイル> は、キー ファイルのデフォルト名です。
- <c:\keys.xml> は、インポートされるキー ファイルのパスとファイル名です。

- e. keys.xml は、保護されていない秘密キーが含まれているため、削除します。

2. 次のコマンドを実行して、<キー ファイル> RSA コンテナ ファイルを使用する権限を TotalAgility Core Worker サーバー サービスのユーザーに付与します。

```
aspnet_regiis -pa "<キー ファイル>" "<TotalAgility サービス ユーザー>"
```

ここで、

- <キー ファイル> は、手順 1 でインポートしたキー ファイルの名前です。
- <TotalAgility サービス ユーザー> は、TotalAgility Core Worker サーバー サービス ユーザーです。

3. 残りのすべての TotalAgility サーバーで、これらの手順を繰り返します。

構成ファイルの復号化

1. **TotalAgility Core Worker サーバー** サービスを停止します。
2. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動し、コマンド ライン ウィンドウを開きます。
3. 次のコマンドを実行します。

```
KofaxKofax.CEBPM.EncryptConfig.exe -f
Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config -s "appSettings" -p
DPAPIProtection -dec
```

i また、エクスポート構成ファイルの暗号化と復号化の手順も繰り返します。

Docker コンテナ内の構成ファイルの暗号化

「DPAPI」または「RSA」メソッドを使用して、Web.config ファイルとすべての実行可能構成ファイルを暗号化できます。

「DPAPI」を使用した構成ファイルの暗号化

docker run コマンドに以下を追加します。

```
-e KTA_CONFIG_ENCRYPTION_PROVIDER_TYPE="DPAPI"
```

たとえば、"docker run -d --hostname "opdemo2" --name "opdemo2" --env-file "C:\Docker\TotalAgility\dockersettings.env" -p 5000:80 -e KTA_CONFIG_ENCRYPTION_PROVIDER_TYPE="DPAPI" kofaxop"

「RSA」を使用した構成ファイルの暗号化

docker run コマンドに以下を追加します。

```
-e KTA_CONFIG_ENCRYPTION_PROVIDER_TYPE="RSA"
```

たとえば、"docker run -d --hostname "opdemo2" --name "opdemo2" --env-file "C:\Docker\TotalAgility\dockersettings.env" -p 5000:80 -e KTA_CONFIG_ENCRYPTION_PROVIDER_TYPE="RSA" kofaxop"

TotalAgility 構成設定の編集

TotalAgility のインストール後にパラメータを変更または更新するには、インストール ディレクトリにある次の構成ファイルを編集します。

- Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config
- Agility.Server.Core.ExportService.exe.config
- Web.config
- KSALicenseService.exe.config

これらの各ファイルを個別に編集するか、TotalAgility 構成ユーティリティを実行してすべての設定を一度に変更することができます。構成ユーティリティは TotalAgility インストール ファイルに含まれており、手作業で TotalAgility サーバーにコピーする必要があります。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

パラメータ値の更新

TotalAgility サーバーを最初にインストールするときに、構成設定は NET ファイル Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config に保存されます。パラメータの値を変更するには、次の手順を実行します。

1. TotalAgility サーバーのインストール後に構成ファイルを暗号化した場合は、ファイルを復号化します。「[TotalAgility 構成ファイルの暗号化と復号化](#)」を参照してください。

i RSA 暗号化を使用する場合は、最初にファイルを暗号化したソース TotalAgility サーバーの構成ファイルのみを復号化します。

2. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
3. テキスト エディタで Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config を開きます。
4. 次のセクションを見つけます。

```
<appSettings>  
  <add key="KeyNameString" value="which may contain passwords;" />  
</appSettings>
```

5. 必要に応じてパラメータ値を編集します。
6. 構成ファイルを保存して閉じます。
7. 構成ファイルを再暗号化するには、暗号化ユーティリティを実行します。

i RSA 暗号化を使用する場合は、キーをエクスポートし、暗号化キー ファイルを、元の暗号化された構成ファイルをインポートしたターゲット TotalAgility サーバーにインストールします。

8. Kofax TotalAgility Core Worker サーバー サービスを再起動します。

ライセンス サーバーの設定の更新

手動で行う

TotalAgility をインストールする場合、デフォルトでは、プライマリ ライセンス サーバーが使用されます。プライマリ ライセンス サーバーに障害が発生した場合は、インストール後にバックアップ サーバーに手動で接続するか、構成ユーティリティを実行できます。

TotalAgility をインストールした後に、インストール ディレクトリにある KSALicenseService.exe のライセンス サーバー パラメータを更新できます。

1. Kofax ライセンス サーバー サービスを停止します。
2. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。

3. テキスト エディタで、次のディレクトリにある KSALicenseService.exe.config を開きます。 \
 \Kofax\TotalAgility\LicenseServer。
4. 次のセクションを見つけて、serverId パラメータと connectionStrings パラメータを更新します。デフォルトでは、serverId値 は「1」です。これは、プライマリ ライセンス サーバーに接続されていることを意味します。

```
<appSettings>
  <!-- Specify "1" for a primary license server or "2" for a backup license
  server. -->
  <add key="serverId" value="1"/>
</appSettings>
<connectionStrings>
  <add name="LicensingDatabase"
  connectionString="Server=<machinename>;Trusted_Connection=Yes;Database='TotalAgility';"/
  >
</connectionStrings>
```

- a. バックアップ ライセンス サーバーに接続するには、serverId 値を「2」に変更します。
 - b. オンプレミス環境のメイン DB を指すように LicensingDatabase 接続文字列を更新します。
5. 構成ファイルを保存して閉じます。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、[ライセンス] タブで [バックアップ] ライセンス サーバー設定を選択します。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

エクスポート垂直スケーリングのサポート

デフォルトでは、エクスポート インスタンスはありません。エクスポート インスタンスは、エクスポートの準備ができていてエクスポート アクティビティがある場合にのみ生成されます。エクスポートの準備が整ったエクスポート アクティビティが他にもある場合は、追加のエクスポート インスタンスが生成されます。エクスポート サーバーの複数のエクスポート インスタンスをサポートするように TotalAgility を構成できます。

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
2. テキスト エディタで Agility.Server.Core.ExportService.exe.config を開きます。
3. <appSettings> セクションを見つけて、必要に応じて MaxExportProcessesNumber の値を変更します。(デフォルト: 0)

```
<appSettings>
  <add key="MaxExportProcessesNumber" value="0"/>
</appSettings>
```

i Maximum number = Round of ((The number of machine processor count) * 1.25)

```
Maximum number = Round of ((The number of machine processor count) * 1.25)
```

この式は、MaxExportProcessesNumber が 0 以下の場合にのみ使用します。この値が 1 以上の場合は、エクスポート プロセス数が定義された値 (MaxExportProcessesNumber) と等しくなります。

クロス サイト リクエスト フォージェリ (CSRF) 対策

次の CSRF 対策を使用して、クロス サイト リクエスト フォージェリ攻撃からサイトを保護します。

- [Anti-CSRF トークンの構成](#)
- CSRF 攻撃を防ぐため、Web.config の <hostCookies> タグで値が Strict または Lax の Samesite 属性を指定します。詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。
- [Cookie のホスト プレフィックスの有効化](#)

クロス サイト リクエスト フォージェリ (CSRF) 対策トークン

CSRF 攻撃は、Web サイトで認証されているユーザーを利用します。攻撃は通常、電子メールや Web サイト上のハイパーリンクの形を取り、認証されたままになっているユーザーがそれをクリックすると成立します。この URL はユーザーの Web サイトをポイントしており、ユーザーが知らない間に特権アクション (管理者アカウントの追加など) の実行を試みます。TotalAgility では、TargetHostName および TargetPortNo の設定が、Web.config ファイルに CSRF 対策トークンとして追加されます。TargetHostName は Web サーバーの完全修飾ドメイン名で、TargetPortNo は Web サイトのポート番号です。これらの設定を指定すると、要求 URL に対して CSRF 対策の要求元および参照元の検証が行われます。検証が失敗した場合、要求は潜在的に危険な要求であると見なされて強制終了されます。

CSRF 対策トークンは、Web.config で手動で構成するか、構成ユーティリティを使用して構成できます。

手動で行う

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
2. テキスト エディタで、次のディレクトリにある Web.config を開きます。
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
3. 次のセクションを見つけて、ターゲット ホスト名とターゲット ポート番号を指定します。

```
<appSettings>
  <add key= "TargetHostName" value="<hostnamegoeshere" />
  <add key= "TargetPortNo" value="443" />
</appSettings>
```

4. 構成ファイルを保存して閉じます。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、TargetHostName および TargetPortNo 設定を指定します。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

Cookie のホスト プレフィックスの有効化

「Cookie にホスト プレフィックス」を使用します。これは、TotalAgility Cookie 名の前に「_HOST-」を付けることで、Cookie をより安全にするブラウザ機能です。Cookie 名がこのフラグで始まる場合、サポート ブラウザの Cookie に対して追加のブラウザ ポリシーがトリガーされます。Host というプレフィックスがついた Cookie は、これが設定されている同じドメインからのみアクセスできます。つまり、サブドメインでは Cookie 値を上書きできなくなります。また、HTTPS サイトからのみ Cookie に

アクセスできるようになります。これにより、攻撃者が安全ではない偽装サイトを使用してセキュアな Cookie を上書きした場合でも、Cookie が保護されます。

設定を手動で編集するか、設定ユーティリティを使用して、Cookie のセキュリティを有効化または無効化します。

Web サーバーまたは Web/アプリ型サーバーで、次の手順を実行します。

1. Kofax TotalAgility インストール ファイルから `\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web` に移動します。
2. テキスト エディタで `Web.config` を開きます。
3. **<appSettings>** セクションを見つけ、「`UseHostPrefixForCookies` value="true" 値を確認します。

```
<appSettings>
  <add key="UseHostPrefixForCookies" value="true"/>
</appSettings>
```

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、必要に応じて **[Web]** タブで「Cookie のホスト プレフィックス」設定を変更します。

格納型クロスサイト スクリプティングの脆弱性を防ぐために設定を更新する

TotalAgility では、セキュリティを強化して、格納型クロスサイト スクリプティングの脆弱性を防ぐことができます。

TotalAgility で HTTPS プロトコルを利用して、格納型クロスサイト スクリプティングの脆弱性を防ぎ、追加のセキュリティ レイヤーを有効にして、データの安全性を確保する必要がある場合。

TotalAgility がインストールされているコンピュータに URL リダイレクト モジュールがインストールされていることを確認します。

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
2. テキスト エディタで、次のディレクトリにある `Web.config` を開きます。
`\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web`
3. 次のいずれかを行います。
 - KCM がインストールされていない場合は、「**HTTP to HTTPS redirect**」ルールを見つけ、このルールを利用できる `rewrite` セクションをコメント解除します。
 - KCM がインストールされていて、セキュリティ レイヤーを追加する必要がある場合は、次の操作を実行します。
 - a. **"HTTP to HTTPS redirect"** ルール (太字で示されている) を見つけてコピーします。

```
<rewrite>
  <rules>
    <rule name="HTTP to HTTPS redirect" stopProcessing="true">
      <match url="(.*)" />
      <conditions>
        <add input="{HTTPS}" pattern="off" ignoreCase="true" />
      </conditions>
    </rule>
  </rules>
</rewrite>
```

```

        </conditions>
        <action type="Redirect" url="https://{HTTP_HOST}/{R:1}"
redirectType="Permanent" />
    </rule>
</rules>
</outboundRules>
<rule name="Add Strict-Transport-Security when HTTPS"
enabled="true">
    <match serverVariable="RESPONSE_Strict_Transport_Security"
pattern=".*" />
    <conditions>
        <add input="{HTTPS}" pattern="on" ignoreCase="true" />
    </conditions>
    <action type="Rewrite" value="max-age=31536000;
includeSubDomains" />
</rule>
</outboundRules>
</rewrite>

```

- b. 次のセクションを見つけ、コピーしたルールを(太字で示されているとおりに)貼り付けます。

```

<rewrite>
  <rules>
    <rule name="CCMInteractiveProxy" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/Interactive/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/ccm/
Interactive/{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="CCMDesignerProxy" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/Repository/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/ccm/
Repository/{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUIJavascriptProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/ccmcomposerui.js" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/
ccmcomposerui.js" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUICssProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/ccmcomposerui.css" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/
ccmcomposerui.css" />
    </rule>
    <rule name="ComposerTinyMCEProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/tinymce/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/tinymce/
{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUIImgProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/img/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/img/
{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="CCMDesignerStaticProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/static/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/ccm/static/
{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUIFontProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/fonts/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/fonts/
{R:1}" />
    </rule>
  </rules>
</rewrite>

```

```

<rule name="HTTP to HTTPS redirect" stopProcessing="true">
  <match url="(.)" />
  <conditions>
    <add input="{HTTPS}" pattern="off" ignoreCase="true" />
  </conditions>
  <action type="Redirect" url="https://{HTTP_HOST}/{R:1}"
  redirectType="Permanent" />
</rule>
</rules>

```

- c. 次のアウトバウンド ルール "Add Strict-Transport-Security when HTTPS" (太字で示されている) を見つけてコピーします。

```

<rule name="Add Strict-Transport-Security when HTTPS" enabled="true">
  <match serverVariable="RESPONSE_Strict_Transport_Security"
  pattern=".*" />
  <conditions>
    <add input="{HTTPS}" pattern="on" ignoreCase="true" />
  </conditions>
  <action type="Rewrite" value="max-age=31536000;
  includeSubDomains" />
</rule>
<rewrite>
  <rules>
    <rule name="HTTP to HTTPS redirect" stopProcessing="true">
      <match url="(.)" />
      <conditions>
        <add input="{HTTPS}" pattern="off" ignoreCase="true" />
      </conditions>
      <action type="Redirect" url="https://{HTTP_HOST}/{R:1}"
      redirectType="Permanent" />
    </rule>
  </rules>
  <outboundRules>
    <rule name="Add Strict-Transport-Security when HTTPS"
    enabled="true">
      <match serverVariable="RESPONSE_Strict_Transport_Security"
      pattern=".*" />
      <conditions>
        <add input="{HTTPS}" pattern="on" ignoreCase="true" />
      </conditions>
      <action type="Rewrite" value="max-age=31536000;
      includeSubDomains" />
    </rule>
  </outboundRules>
</rewrite>

```

- d. CCM のアウトバウンド ルールの閉じ括弧の前に (太字で示されているとおりに) 貼り付けます。

```

<outboundRules>
  <rule name="HTTPCookie" precondition="IncomingNoSSLSecureCookie">
    <match serverVariable="RESPONSE_Set_Cookie" pattern="(.)";
    Secure(.)" />
    <action type="Rewrite" value="{R:1}{R:2}" />
  </rule>
  <rule name="HTTPSCookie" precondition="IncomingSSLNoSecureCookie">
    <match serverVariable="RESPONSE_Set_Cookie" pattern="(.)";
    HttpOnly" />
    <action type="Rewrite" value="{R:1}; Secure; HttpOnly" />
  </rule>
  <preConditions>
    <preCondition name="IncomingNoSSLSecureCookie">

```

```

        <add input="{CACHE_URL}" pattern="^http://" />
        <add input="{RESPONSE_Set_Cookie}" pattern=".*; Secure.*" />
    </preCondition>
    <preCondition name="IncomingSSLNoSecureCookie">
        <add input="{CACHE_URL}" pattern="^https://" /><add
input="{RESPONSE_Set_Cookie}" pattern=".*; Secure.*" negate="true"/>
    </preCondition>
</preConditions>
<rule name="Add Strict-Transport-Security when HTTPS" enabled="true">
    <match serverVariable="RESPONSE_Strict_Transport_Security"
pattern=".*" />
    <conditions>
        <add input="{HTTPS}" pattern="on" ignoreCase="true" />
    </conditions>
    <action type="Rewrite" value="max-age=31536000;
includeSubDomains" />
</rule>
</outboundRules>

```

4. 構成ファイルを保存して閉じます。

エクスポート アクティビティの待機時間の更新

エクスポート アクティビティの待機時間を秒単位で構成することにより、エクスポート サービスがこの期間の間、子エクスポート プロセスの可用性に基づいて、新規エクスポート アクティビティが進行するまで待機するように設定できます。

すべての子エクスポート プロセスが非アクティブ モードの場合 (つまり、使用可能なエクスポート アクティビティがない場合)、TotalAgility エクスポート サービスは構成された秒数の間、新規エクスポート アクティビティが処理されるまで待機します。子エクスポート プロセスがアクティブ モードの場合 (つまり、子プロセスがエクスポート アクティビティを実行している場合)、TotalAgility エクスポート サービスは、構成された秒数を待たずに、新規エクスポート アクティビティを即座に行ってエクスポートします。

1. TotalAgility インストール ファイルの \\TotalAgilityInstall\CoreWorkerService に移動します。
2. テキスト エディタで Agility.Server.Core.ExportService.exe.config を開きます。
3. **<appSettings>** セクションを特定し、必要に応じて「WaitForAvailableExportActivitiesTimeoutInSeconds」の値を変更します。(デフォルト: 30)

```

<appSettings>
  <add key="WaitForAvailableExportActivitiesTimeoutInSeconds" value="30"/>
</appSettings>

```

i WaitForAvailableExportActivitiesTimeoutInSeconds の最小値は 1 で、最大値は 600 です。

変更を有効にするには、TotalAgility エクスポート サービスを再起動する必要があります。

手動認証の設定の更新

Web サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーの組み合わせ、およびアプリケーション サーバーで、次の手順を実行します。

設定を手動で編集するか、構成ユーティリティを使用して手動認証を行います。

Web サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーの組み合わせ

Web サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーの組み合わせ、およびアプリケーション サーバーで、次の手順を実行します。

手動で行う

1. 次のディレクトリから TotalAgility の **Web.config** ファイルを開きます。C:\Program Files \Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web
2. バインディング(「CustomBinding_CoreService」、「BasicHttpBinding_Service」、および「WebHttpBinding_Service」)を見つけて、3つのすべてのセキュリティ モード構成をコメントアウトし、HTTP を介して手動でログオンできるようにします。

```
<!-- The following are the different options for securing the services -->
<!-- All commented out is application manual logon over HTTP -->
<!-- Only one option should be uncommented at a time -->
<!-- Azure should use HTTPS SSL with application logon-->
<!-- On premise default: HTTP with Windows authentication-->
<!-- HTTPS SSL with application logon-->
<!--<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="None"/>
</security>-->
<!-- HTTP with Windows authentication-->
<security mode="TransportCredentialOnly">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>
<!-- HTTPS SSL with Windows authentication-->
<!--<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>-->
```

TotalAgility Web.config ファイルのセクション

TransformationServerExternalService_Binding の **security mode** および **transport clientCredentialType** を、Transformation Server の Web.config ファイルで指定された内容と同じにする必要があります。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、必要に応じて [Web 設定] タブで認証モードを変更します。

アプリケーション サーバー

手動で行う

1. 次のディレクトリから TotalAgility の **Web.config** ファイルを開きます。C:\Program Files \Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web
2. バインディング(「CustomBinding_CoreService」、「BasicHttpBinding_Service」、および「WebHttpBinding_Service」)を見つけて、3つのすべてのセキュリティ モード構成をコメントアウトし、HTTP を介して手動でログオンできるようにします。

```
<!-- The following are the different options for securing the services -->
```



```

<!-- All commented out is application manual logon over HTTP -->
<!-- Only one option should be uncommented at a time -->
<!-- Azure should use HTTPS SSL with application logon-->
<!-- On premise default: HTTP with Windows authentication-->
<!-- HTTPS SSL with application logon-->
<!--<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="None"/>
</security>-->
<!-- HTTP with Windows authentication-->
<security mode="TransportCredentialOnly">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>
<!-- HTTPS SSL with Windows authentication-->
<!--<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>-->

```

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、必要に応じて [Web 設定] タブで認証モードを変更します。

混合認証の設定の更新

TotalAgility をインストールするときに、ログオン モードを手動または Windows 認証として選択できません。ただし、インストール後に構成ユーティリティを実行して、Windows 認証と手動 (混合) 認証の両方を使用するようにログオン モードを切り替えることができます。Windows 認証が失敗した場合は、手動ログオン ページにリダイレクトされます。

Web サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーの組み合わせで混合認証を使用する

Web サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーの組み合わせで次の手順を実行して、混合認証 (Windows および手動) を設定します。

1. 次のディレクトリから TotalAgility の **Web.config** ファイルを開きます。C:\Program Files \Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web
2. バインディング(BasicHttpBinding_Service および WebHttpBinding_Service) を見つけて、セキュリティ モード構成をコメントアウトし、HTTP を介して手動でログオンできるようにします。
3. ClientWindowsService バインディング(BasicHttpWindowsUserBinding_Service および WebHttpWindowsUserBinding_Service) を見つけて、セキュリティ モード構成をコメントアウトし、HTTP を介して Windows 認証でログオンできるようにします。

```

<!-- The following are the different options for securing the services -->
<!-- All commented out is application manual logon over HTTP -->
<!-- Only one option should be uncommented at a time -->
<!-- Azure should use HTTPS SSL with application logon-->
<!-- On premise default: HTTP with Windows authentication-->
<!-- HTTPS SSL with application logon-->
<!--<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="None"/>
</security>-->
<!-- HTTP with Windows authentication-->
<security mode="TransportCredentialOnly">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>

```

```
<!-- HTTPS SSL with Windows authentication-->
<!--<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security-->
```

構成ユーティリティを使用する

TotalAgility をインストールした後に混合認証を使用するには、構成ユーティリティを実行し、必要に応じて、Web 設定タブで認証モード (HTTP with manual and Windows authentication または HTTPS with manual and Windows authentication) を切り替えます。

i 混合認証を使用するには、IIS で [匿名] オプションと [Windows 認証] オプションを両方有効にする必要があります。

TotalAgility リンク済みサーバーの設定の更新

設定を手動で編集するか、構成ユーティリティを使用して手動認証を行います。

手動で行う

TotalAgility をインストールすると、Web.config はリンク済みサーバーのマシン名/TotalAgility を使用して自動的に更新されます。パブリック IP アドレスから接続する場合は、Web.config ファイルを更新する必要があります。

1. 次のディレクトリから TotalAgility の **Web.config** ファイルを開きます。 \
 \TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
2. 次のセクションを見つけて、IP アドレスをマシン名に置き換えます。

```
<add key="TotalAgilityHostNameLive" value = "<ip_address>/TotalAgility" />
<add key="TotalAgilityHostNameDev" value = "<ip_address>/TotalAgility"/>
```

詳細については、『Kofax TotalAgility のヘルプ』を参照してください。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行して、TotalAgilityHostNameLive キーを更新します。

Kofax TotalAgility Web サイトの仮想ルートの変更

1. 次のディレクトリから TotalAgility の **Web.config** ファイルを開きます。 \
 \TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
2. 次の構成キーを変更して、Kofax TotalAgility Web サイトの仮想ルートを変更します。

```
<add key="WebsiteBaseName" value="TotalAgility"/>
<add key="ProcessDocumentsRootFolder" value="/TotalAgility/documents/process"/>
```

i 「WebsiteBaseName」の値には、IIS 内で使用される仮想ディレクトリの名前を指定する必要があります。

統合ログを有効にするために設定を更新する

すべてのコンポーネントには独自のロギング エコシステムがあり、ログ ファイルはさまざまな場所に出力できます。TotalAgility には、さまざまなコンポーネントに対して複数の診断ログが用意されています。

以下に、Kofax TotalAgility コンポーネントにわたるログの例を示します。

- BPM トレース ログ
- BPM Unity ログ
- Transformation Server トレース ログ
- 変換構成トレース ログ
- キャプチャ データ層のトレース ログ
- キャプチャ ドキュメント サービスのトレース ログ
- レポート トレース ログ

デフォルトでは、ロギングは有効になっていません (レポートを除く)。いずれかの TotalAgility コンポーネントで問題が発生した場合、ログ データを取得するには、そのコンポーネントに関連する構成ファイルを更新して、これらのログを手動で個別に有効にする必要があります。これらのログは、ログ ファイルまたは他の出力先に出力するように構成することができます。ドライブやフォルダに分散した各ログ ファイルを見つけるのは手間がかかります。統合ログを使用すると、さまざまな TotalAgility コンポーネントからログ データを一元的な場所にある単一のファイルに集めて取得することができます。統合されたログにより、すべてのログの出力が一元的な場所に表示されるため、問題の特定、トラブルシューティング、解決におけるログの管理と分析が容易になります。

統合ログの場合、TotalAgility はトレース ソースとトレース レベルをサポートします。トレース ソースとトレース フィルタ レベルを組み合わせて使用して、検索を実行し、ログ データを取得できます。

サポートされているトレース ソースのリストとその説明については、次を参照してください。

トレース ソース名	説明
BPM	BPM ログ (ライセンスおよび Kofax Front Office Server (KFS) ログを含む)
BPM_Unity	BPM Unity ログ (BPM コア サービス API 呼び出しを出力)
TransServer	Transformation Server のデフォルトのログ
TransServer_Perf	Transformation Server のパフォーマンス ログ
TransConfig	変換構成ログ
CaptureDL	キャプチャ データ層のデフォルトのログ
CaptureDL_Imaging	キャプチャ データ層のイメージング ログ
CaptureDL_Ext	キャプチャ データ層の拡張子ログ
CaptureDL_LogExt	キャプチャ データ層の論理拡張子ログ

トレース ソース名	説明
CaptureDL_LogExt	キャプチャ データ層の論理拡張子ログ
CaptureDS	キャプチャ ドキュメント サービスのログ
レポート	レポート ログ

サポートされているトレース フィルタ レベルとその説明については、次の表を参照してください。

トレース フィルタ レベル	説明
すべて	すべての重大なエラー、エラー、警告、情報、詳細を記録します。
重大	重大なエラーのみを記録します。
エラー	重大なエラーとエラーを記録します。
警告	重大なエラー、エラー、警告を記録します。
情報	重大なエラー、エラー、警告、および情報を記録します。
詳細	重大なエラー、エラー、警告、情報、詳細を記録します。

TRACE_LOGGING 設定

「TRACE_LOGGING」設定は、Web.config、Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config、およびその他のすべての構成ファイルで使用でき、デフォルトでは値は空になっています。TRACE_LOGGING 設定には、以下を含む JSON 文字列が含まれます。

- ログ出力タイプ (「file」)
- ログ出力ファイル名 (「file」出力タイプを使用する場合)
- ログ ファイルのタイプ (「text」または「xml」)
- 複数の出力ファイル (「use-multiple-files」)
- 最大ファイル サイズ (「max-file-size-kb」)
- ファイルの最大数 ('max-number-of-files)
- トレース ソース [ComponentTraceSourceName]:[TraceFilter]

統合ログとファイルへの出力を有効にするには、構成ファイルの <appsettings> セクションの value 属性に次の JSON 文字列を指定します。

```
{
  "log-type": "file",
  "file-location": "Trace_Logging.log",
  "file-type": "text",
  "use-multiple-files": false,
  "max-file-size-kb": 5120,
  "max-number-of-files": 10,
  "sources": ["<TraceSourceName>:<TraceLevelFilter>", "<[TraceSourceName]:
[TraceLevelFilter]>"]
}
```



- 「file-type」としてサポートされる値は「text」と「xml」です。デフォルトでは、ログ ファイルのタイプはテキスト ファイルとして作成され、ログ データはプレーン テキストとして書き込まれます。ログ ファイルを XML として取得するには、「log-type」に「xml」を指定し、「file-location」に「Trace_Logging.xml」を指定します。
- どちらのファイル タイプ(「text」または「xml」)でも、複数のプロセスを同じログ ファイルに書き込むことはできないため、ログ ファイルには <filename.processname.extension> 形式のプロセス名が追加されます。次の例を参照してください。
 - プロセス名が「Agility.Server.Core.WorkerService」、ファイル名が「Trace.txt」、ファイルのタイプがテキストの場合は、「Trace.Agility.Server.Core.WorkerService.txt」というログ ファイル名が作成されます。
 - プロセス名が「Coreworker」、ファイル名が「Trace.xml」、ファイルのタイプが「xml」の場合は、「Trace.Coreworker.xml」というログ ファイル名が作成されます。
- 必要に応じて、次の属性を設定できます。
 - **use-multiple-files:** (デフォルト: false)。true に設定すると、複数のログ ファイルが作成されます。
 - **max-file-size-kb:** (デフォルト: 5120)。元のログ ファイルがこのしきい値に達すると、ログ ファイル自体がコピーされ、シーケンス番号が付加された新しいログ ファイルが作成されます。サブログ ファイルには、Trace1.txt、Trace2.txt、Trace3.txt などのように連続した番号が付加されます。
 - **max-number-of-files:** (デフォルト: 10)。作成するファイルの最大数。ファイルがこのしきい値に達すると、ログ ファイルは 1、2、3、... と順に削除されます。

以下に、現在のフォルダに「Trace_Logging.log」という名前のログ ファイルを作成し、トレース ソースのログ エントリを Transformation Server、トレース フィルタ レベルを [すべて] で書き込み、トレース ソースを [BPM]、トレース レベルを [警告] で書き込む、JSON 文字列を含んだ構成ファイルのサンプルを示します。

```
{
  "log-type": "file",
  "file-location": "Trace_Logging.log",
  "file-type": "text",
  "sources": ["TransServer:All", "BPM:Error"]
}
```

統合ログの有効化

次の手順を使用して、たとえば Transformation Server の統合ログを有効にします。

1. Kofax Transformation サービスを停止します。
2. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
3. テキスト エディタで、次のディレクトリにある **Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config** を開きます。

```
C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Transformation Server
```

4. **<appsettings>** セクションを見つけて、必要に応じて「TRACE_LOGGING」設定の値を更新します。たとえば、**TransServer** と BPM ソースのログをトレース レベル **[警告]** でトレースする場合は、キー値を次のように指定します。

```
<add key="TRACE_LOGGING" value=" { 'log-type': 'file', 'file-location': 'd:\\logs\\mylog.log', 'file-type': "text", 'sources': ["TransServer:All", "BPM:Error"] }" />
```

i サポートされているコンポーネント トレース ソースが指定されていない場合、そのソースのロギングは無効になります。さらに、無効なトレース ソースまたはレベルが指定されている場合、イベント ログにエラーが書き込まれます。

5. Kofax Transformation サービスを開始します。
すべての重大なエラー、エラー、情報、警告、情報、および詳細が Transformation Server のログに記録され、すべての重大なエラーおよびエラーが BPM のログに記録されます。

カスタム ジョブ スレッド プールを追加する

ジョブ スレッドでは、ジョブの評価、例外ジョブの生成、Kofax インポート コネクタによる取り込みなど、複数の操作が一度に実行されます。複数の操作は、運用システムにボトルネックを引き起こす可能性があります。たとえば、アーカイブするジョブが数千ある場合、ジョブ スレッドがジョブのアーカイブでビジーになるため、取り込みとジョブの評価に時間がかかります。カスタム ジョブ スレッド プールを追加すると、スループットの向上とバックグラウンド タスクの優先順位付けに役立ちます。

手動で、または構成ユーティリティを使用して、カスタム ジョブ スレッド プールを追加し、スレッド プール内のスレッドの数を指定して、ワーカー タスクをスレッド プールに割り当てます。

手動で行う

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
2. テキスト エディタで、次のディレクトリにある **Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config** を開きます。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
```

3. 次のセクションを見つけます。

```
<configSections>
  <section name="CoreWorker" type="Agility.Server.Core.Worker.Configuration,
    Agility.Server.Core.Worker"/>
</configSections>
```

4. **CoreWorker** セクション内に 1 つ以上のジョブ スレッド プールを追加し、必要に応じてワーカー タスクを追加します。以下に構成ファイルのサンプルを示します。

例:

```
<CoreWorker>
  <JobThreadPools>
    <add Id ="1" Size ="16" WorkerTasks ="ArchiveJobTask, DeleteItemTask,
    CreateExceptionTask, CreateJobTask, EvaluateJobTask,
```

```
ProcessStateActionTask, IngestSystemTask, CaptureBatchTask "/>  
</JobThreadPools>  
</CoreWorker>
```

i 以下のワーカー タスクをスレッド プールに割り当てる必要があります。割り当てない場合、エラー メッセージが表示され、Core Worker サービスが動作を停止します。同じワーカー タスクを複数のスレッド プールに割り当てることはできません。

- ArchiveJob タスク
- EvaluateJob タスク
- CreateException タスク
- CreateJob タスク
- IngestSystem タスク
- CaptureBatch タスク
- DeleteItem タスク
- ProcessStateAction タスク

5. 構成ファイルを保存して閉じます。
6. TotalAgility Core Worker サービスを再起動します。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、カスタム ジョブ スレッド プールを追加または更新し、スレッド プール内のスレッド数を指定して、ワーカー タスクをスレッド プールに割り当てます。

スレッド プールの監視間隔を追加する

長時間実行される自動アクティビティが Core Worker によって処理される場合、自動アクティビティ スレッド プール内のスレッドは、取得済みアクティビティがタイムアウトによってリセットされても解放されません。スレッド プールの監視間隔を構成すると、このような長時間実行される取得済みアクティビティがタイムアウトした後、そのスレッドを解放して、他のアクティビティの処理を進めることができます。

スレッド プールの監視間隔の構成は、手動で行うか、構成ユーティリティを使用して行うことができます。

手動で行う

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
2. テキスト エディタで、次のディレクトリにある **Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config** を開きます。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
```


3. 次のセクションを見つけて、スレッド プールの監視間隔を追加します (デフォルト: 60)。

```
<appSettings>
  <add key="CoreWorkerThreadPoolMonitoringIntervalInSeconds" value="60"/>
</appSettings>
```

デフォルト値は 60 です。

4. 構成ファイルを保存して閉じます。
5. TotalAgility Core Worker サービスを再起動します。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、スレッド プールの監視間隔を追加します。『TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

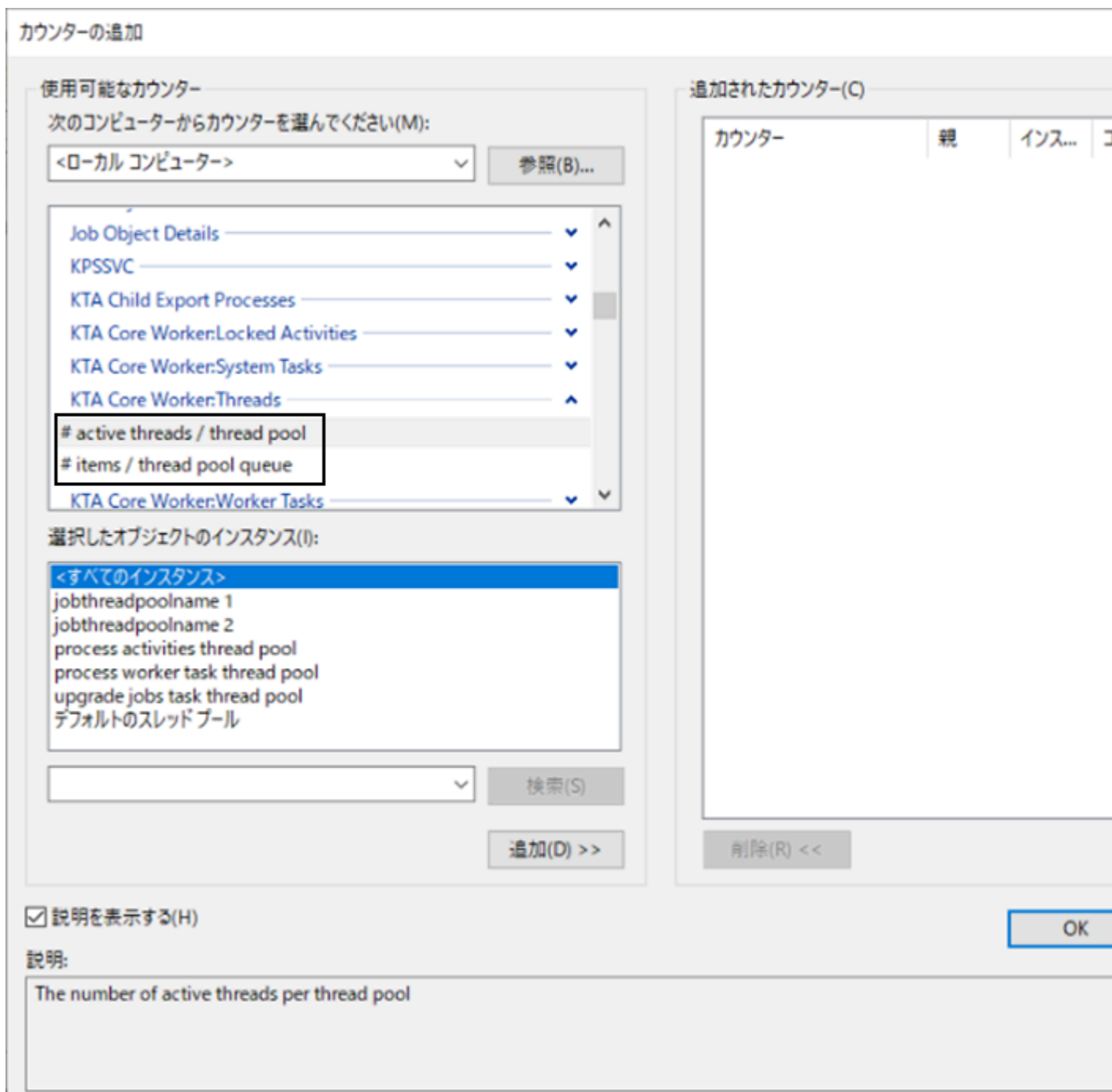
パフォーマンス監視カウンタを追加する

パフォーマンス カウンタを使用して、アプリケーションの状態とアクティビティを記録します。

Core Worker サービスとエクスポート サービスがインストールされると、TotalAgility パフォーマンス監視カウンタの以下のカテゴリが自動的にターゲット マシンにインストールされます。

- TotalAgility Core Worker: ロックされたアクティビティ
- TotalAgility Core Worker: システム タスク
- TotalAgility Core Worker: スレッド
- TotalAgility Core Worker: ワーカー タスク
- TotalAgility エクスポート サービス
- TotalAgility 子エクスポート プロセス

各カテゴリは、パフォーマンス カウンタに関連付けられています。パフォーマンス モニタが起動したら、インストールされたカウンタを選択し、現在の監視セッションに追加できます。各インスタンスは、パフォーマンス カウンタに記録されます。たとえば、「スレッド プールごとのアクティブ スレッド」パフォーマンス カウンタは、下の図に示すように、スレッド プールごとのインスタンスを記録します。



ログ機能を有効にして、各パフォーマンス カウンタを TotalAgility ログ ファイルに記録できます。パフォーマンス監視カウンタの詳細については、『Kofax TotalAgility 管理者ガイド』を参照してください。

第 14 章

TotalAgility と Microsoft Dynamics CRM の統合

Microsoft Dynamics CRM と Microsoft Dynamics 365 CRM を TotalAgility と統合できます。

前提条件

Microsoft Dynamics CRM および Microsoft Dynamics 365 CRM をインストールするには、管理者権限が必要です。

Dynamics CRM のインストール

Dynamics CRM および Dynamic 365 CRM をインストールするには、同じ手順に従って操作します。

1. TotalAgility インストール ファイルから `\\DynamicsCRMInstall` に移動し、**Setup.exe** をダブルクリックします。
Dynamics 365 CRM の場合は、インストール ファイルから `\\Dynamics365CRMInstallation` に移動し、`Dynamics365CRM_Setup.exe` をダブルクリックします。
インストール ウィザードが表示されます。
2. **次へ** をクリックします。
3. **CRM サーバー** フィールドに、CRM サーバーの IP アドレスまたはマシン名を入力します。
4. **CRM ポート** フィールドに、CRM が実行されているポートを入力します。
5. SSL (Secure Sockets Layer) を有効にするには、**SSL の使用** を選択します (デフォルト: クリア)。
6. **ドメイン** フィールドに、ドメイン名を入力します。
7. **ユーザー名とパスワード** を入力します。
8. **終了** をクリックします。
インストールが始まり、イベントハンドラが CRM に登録され、必要なファイルがグローバル アセンブリ キャッシュ (GAC) に配置されます。

Dynamics CRM の Web.config を更新する

Dynamics CRM および Dynamics 365 CRM でイベント ハンドラをサポートするには、TotalAgility コンポーネント用の次のスクリプトを追加します。

i このガイドからコードをコピーして貼り付ける場合、改行に問題があれば修正してください。

```
<configSections>
<section name="exceptionHandling"
type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.
ExceptionHandling.Configuration.ExceptionHandlingSettings,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35" requirePermission="true" />
<section name="loggingConfiguration"
type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging.Configuration.LoggingSettings,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging,
Version=5.0.505.0, Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35" requirePermission="true" />
</configSections>

<loggingConfiguration
name=""
tracingEnabled="true"
defaultCategory="General">
<listeners>
<add name="Event Log Listener"
type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging.TraceListeners.
FormattedEventLogTraceListener,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
listenerDataType="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging.
Configuration.FormattedEventLogTraceListenerData,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
source="Total Agility" formatter="Text Formatter"
log="" machineName="." traceOutputOptions="None" />
</listeners>
<formatters>
<add type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging.Formatters.TextFormatter,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
template="Timestamp: {timestamp}{newline}&#xA;Message: {message}
{newline}&#xA;Category: {category}{newline}&#xA;Priority:
{priority}{newline}&#xA;EventId: {eventid}
{newline}&#xA;Severity: {severity}{newline}&#xA;Title:
{title}{newline}&#xA;Machine: {localMachine}
{newline}&#xA;App Domain: {localAppDomain}
{newline}&#xA;ProcessId: {localProcessId}
{newline}&#xA;Process Name: {localProcessName}
{newline}&#xA;Thread Name: {threadName}
```

```
{newline}&#xA;Win32 ThreadId:{win32ThreadId}
{newline}&#xA;Extended Properties:
{dictionary({key} - {value}{newline})}"
name="Text Formatter" />
</formatters>
<categorySources>
<add switchValue="All" name="General">
<listeners> <add name="Event Log Listener" />
</listeners>
</add>
</categorySources>
<specialSources>
<allEvents switchValue="All" name="All Events" />
<notProcessed switchValue="All" name="Unprocessed Category" />
<errors switchValue="All" name="Logging Errors & Warnings">
<listeners> <add name="Event Log Listener" />
</listeners>
</errors>
</specialSources>
</loggingConfiguration>


<exceptionHandling>
<exceptionPolicies>
<add name="Agility Exception Policy">
<exceptionTypes>
<add name="All Exceptions" type="System.Exception, mscorlib,
Version=4.0.0.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=b77a5c561934e089"
postHandlingAction="NotifyRethrow">
<exceptionHandlers>
<add name="Logging Exception Handler"
type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling.
Logging.LoggingExceptionHandler,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling.Logging,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
logCategory="General" eventId="100" severity="Error"
title="Total Agility"
formatterType="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.
ExceptionHandling.TextExceptionHandler,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
priority="0" />
</exceptionHandlers>
</add>
</exceptionTypes>
</add>
</exceptionPolicies>
</exceptionHandling>
```

CRM 仮想ディレクトリの Web.config を更新する

```
<system.serviceModel>
<bindings>
  <basicHttpBinding>
    <binding name="BasicHttpBinding_Service" openTimeout="00:10:00"
closeTimeout="00:10:00">
```

```
sendTimeout="00:10:00" receiveTimeout="00:10:00" allowCookies="true"
maxBufferSize="2147483647"
maxReceivedMessageSize="2147483647" maxBufferPoolSize="524288">
  <readerQuotas maxDepth="2147483647" maxStringContentLength="2147483647"
  maxArrayLength="2147483647" maxBytesPerRead="2147483647"
maxNameTableCharCount="2147483647" />
  <security mode="TransportCredentialOnly">
    <transport clientCredentialType="None" />
  </security>
</binding>
</basicHttpBinding>
</bindings>
<client>
  <endpoint name="CoreIntegrationEventServiceEndpoint"
binding="basicHttpBinding" bindingConfiguration="BasicHttpBinding_Service"

  contract="Agility.Server.Core.Model.Interfaces.Services.IIntegrationEventService"
address="http://<TotalAgility server name or IP Address>/TotalAgility/Services/Core/
IntegrationEventService.svc"/>
</client>
</system.serviceModel>
```

 [TotalAgility サーバーの名前または IP アドレス] を TotalAgility の IP アドレスに置き換えます。

第 15 章

TotalAgility と Microsoft Dynamics AX の統合

Microsoft Dynamics AX と TotalAgility を統合できます。

前提条件

TotalAgility で作成したユーザーには、展開管理者権限が必要です。

デフォルトの展開管理者権限を使用せずに TotalAgility Dynamics AX 統合をインストールする場合は、ユーザーが次の条件を満たしている必要があります。

- Microsoft Dynamics AX のシステム管理者である。
- CAL のフル アクセス権を持っている。

上記の条件を満たさない場合は、インストール時に次のエラー メッセージが生成されます。「エラー: システムが要求を処理できません。」

標準インストール

1. インストール ファイルから \\DynamicsAXInstall に移動し、**Setup.exe** をダブルクリックします。

[Dynamics AX 用 TotalAgility のセットアップ] ウィザードが表示されます。

2. **次へ** をクリックします。

このウィンドウには、Dynamics AX の前提条件ソフトウェアのリストが表示されます。

i 必要なソフトウェアがインストールされていない場合は、ソフトウェアをインストールしてから Dynamics AX をインストールします。Dynamics AX 2009 を使用している場合は、.NET Framework 3.5 をインストールします。Dynamics AX 2012 を使用している場合は、.NET Framework 4.0 をインストールします。

3. **次へ** をクリックします。

[インストール先] ウィンドウが表示されます。

4. 次の表の情報を使用して、インストール先フォルダのファイル パスを指定します。

インストール先フォルダ	Dynamics AX 2009 のサンプル パス	Dynamics AX 2012 のサンプル パス
DAX Web サイトの物理的な場所	C:\inetpub\wwwroot \MicrosoftDynamicsAXAif50\	C:\Program Files\Microsoft Dynamics AX\60\AifWebServices
DAX Web サイトの URL	デフォルト Web サイト/ MicrosoftDynamicsAXAif50/	デフォルト Web サイト/ MicrosoftDynamicsAXAif60/
DAX クライアントの物理的な場所	C:\Program Files\Microsoft Dynamics AX\50\Client\Bin\	C:\Program Files (x86)\Microsoft Dynamics AX \60\Client\Bin
DAX サーバーの物理的な場所	C:\Program Files\Microsoft Dynamics AX\50\Server \DynamicsAx1\Bin	該当なし

5. **次へ** をクリックします。
[認証情報] ウィンドウが表示されます。
6. DAX アプリケーション プールに関連付ける**ユーザー名とパスワード**を入力します。
7. **次へ** をクリックします。
インストールが完了すると、インストール ステータスとインストール レポートの概要が表示されます。
8. **終了** をクリックします。

i 64 ビットのオペレーティング システムと Dynamics AX 2009 32 ビット アプリケーションを使用している場合は、DAX Communicator サイトに関連付けられているアプリケーション プール アカウントを有効にします。IIS マネージャで、[アプリケーション プール] > [DAXAppPool] > [詳細設定] をクリックし、[32 ビット アプリケーションの有効化] を True に設定します。

TotalAgility Web サービスへの Dynamics AX サービス参照を作成する

AOT (アプリケーション オブジェクト ツリー) は Development Workspace にあるため、参照を追加するには Development Workspace を展開する必要があります。展開しない場合、TotalAgility を Dynamics AX と統合できません。手順については、次の URL を参照してください。http://msdn.microsoft.com/library/gg846350.aspx。

TotalAgility Web サービスへの Dynamics AX 09 サービス参照を作成する

1. Dynamics AX 09 を起動します。
2. **AOT** (アプリケーション オブジェクト ツリー) をクリックし、**Ctrl+D** を押します。
3. アプリケーション オブジェクト ツリーで、**参照** を右クリックし、**サービスの参照の追加** を選択します。

4. 以下の情報を使用して、**サービスの参照の追加** ウィンドウを完了します。
 - a. WSDL URL: Agility IIS Web アプリケーション内の DynamicsAxIntegrationService の Web URL (たとえば `http://Server/Agility.Server.Web/Services/SDK/DynamicsAxIntegrationService.svc`) を入力します。
 - b. .NET コード名前空間: **KtaEventsService**。
 - c. 参照名: **KtaEventsService**。
 - d. サービスの説明: サービス参照の説明。
5. **OK** をクリックします。

TotalAgility Web サービスへの Dynamics AX 12 サービス参照を作成する

1. Dynamics AX 12 を起動します。
2. **AOT** (アプリケーション オブジェクト ツリー) をクリックし、**Ctrl+Shift+W** を押します。
3. アプリケーション オブジェクト ツリーで、**参照** を右クリックし、**参照の追加** を選択します。
4. 既にインストールしてある TotalAgility アセンブリである KtaEvents.Services.dll に移動します。たとえば、次の場所です。
C:\Program Files (x86)\Microsoft Dynamics AX\60\Client\Bin
5. **OK** をクリックします。

Dynamics AX で参照を追加する

Dynamics AX で Agility.Server.Integration.Common.dll アセンブリへの参照を追加します。

Dynamics AX 09 の場合

1. **参照** を右クリックし、**参照の追加** を選択します。
アセンブリ参照フォームが開きます。
2. Dynamics AX 09 インストールの ...\client\bin ディレクトリに移動します。たとえば、次の場所です。
C:\Program Files (x86)\Microsoft Dynamics AX\50\Client\Bin)
3. **Agility.Server.Integration.Common.dll** アセンブリを選択し、**[OK]** をクリックします。
新たに追加されたアセンブリが参照の下に表示されます。

Dynamics AX 12 の場合

1. **参照** を右クリックし、**参照の追加** を選択します。
2. 既にインストールしてある TotalAgility アセンブリである Agility.Server.Integration.Common.dll の場所に移動します。たとえば、C:\Program Files (x86)\Microsoft Dynamics AX\60\Client\Bin です。
新たに追加されたアセンブリが参照の下に表示されます。
3. **OK** をクリックします。

Dynamics AX 12 のサービス構成ファイルを編集する

1. インストーラによって WCF サービス構成ファイル KtaEvents.Services.dll.config がコピーされた、Dynamics AX の **client\bin** ディレクトリに移動します。
2. エンドポイントを編集して、Dynamics AX 通知のための有効な TotalAgility サービス (... Services/SDK/DynamicsAxIntegrationService.svc) を指すようにします。

TotalAgility に Dynamics AX 2012 R2 サイトを追加する

TotalAgility に Dynamics AX 2012 R2 サイトを正常に追加するには、以下の手順を手動で実行する必要があります。

1. Microsoft Dynamics AX 2012 を開き、Dynamics AX サーバー フォルダに移動します。
2. Microsoft.Dynamics.BusinessConnectorNet.dll のバージョン 6.2.0 を、Dynamics AX サーバーにインストールする DAXCommunicatorService の bin ディレクトリにコピーします。
3. TotalAgility のインストール ファイルから、`\\TotalAgilityInstall\DAXInstallation\Agility.Server.Integration.DynamicsAx.Web\Dax2012R2` に移動します。
4. Web.config を、DAX サーバーの次の場所にコピーします。
<\\Microsoft Dynamics AX\60\AifWebServices\DAXCommunicatorService>
サービスは、Web.config の 6.2.0 バージョンの DLL を使用します。

i DAX 2012 R3 の場合は、Microsoft.Dynamics.BusinessConnectorNet.dll のバージョン 6.3.0 を使用するよう Web.config ファイルを更新する必要があります。

TotalAgility コネクタ クラスを Dynamics AX にインポートする

1. AOT で、**[インポート]** をクリックするか、Ctrl+Shift+I を押します。
2. **参照** をクリックして、Dynamics AX Setup のインストール フォルダ (Program Files(x86) または Program Files ディレクトリ内) に移動します。たとえば、次の場所です。
C:\Program Files\Dynamics AX Setup
3. Class_KtaController.xpo などの XPO クラスを選択します。
4. **OK** をクリックしてインポートまたはコンパイルのプロセスを開始します。

i クラスがインポートされると、コンパイラの出カページの [ステータス] タブにエラーが表示されます。

データベース X++ イベント メソッドの編集

DAX Development Workspace の [クラス] および [アプリケーション] フォルダにあるデータベース X++ イベント メソッドを編集できます。

1. Application CUD (作成、更新、削除) クラスのイベント メソッドを変更するには、Dynamics AX 内で CUD イベントが実行されたときにカスタム クラス メソッド EventChangeNotifyKtaWebService を呼び出します。
2. Application クラス メソッド (**InsertLog**、**DeleteLog**、および **UpdateLog**) を編集して、各メソッド内の適切な場所に次の 1 行を追加します。
 - Insertlog メソッド: new
`ktaController().EventChangeNotifyKtaWebService("Create", recordInserted, null, conNull(), recordInserted.RecId);`
 - Deletelog メソッド: new
`ktaController().EventChangeNotifyKtaWebService("Delete", recordDeleted, null, conNull(), recordDeleted.RecId);`
 - Updatelog メソッド: new
`ktaController().EventChangeNotifyKtaWebService("Update", recordOrig, recordUpdated, changedFields, recordUpdated.RecId);`

i オンサイト AX 管理者は、さまざまな AX ドキュメントに Databaselog イベントを登録します。たとえば、『Customer、SalesOrder、および Purchase Requisition』ドキュメントに Insert、Update、および Delete イベントが登録されている場合、これらのドキュメントのいずれかに対してこれらのイベントのいずれかが実行されると、WCF 呼び出しを通じて TotalAgility に通知されます。

データベース ログ イベントを登録する

1. Microsoft Dynamics AX 2012 を開きます。
2. 左側のパネルで構成ボタンを展開し、[システム管理] を選択します。
3. [システム管理] ページの [セットアップ] で、[データベース ログ設定] をクリックします。[データベース ログ] ウィンドウが表示されます。
4. **ファイル > 新規作成** の順にクリックします。[データベースの変更の記録] ウィザードが表示され、データベース ログのテーブルとフィールドを追加および削除できます。
5. **[次へ]** をクリックします。[テーブルおよびフィールド] ウィンドウが表示されます。
6. **[すべてのテーブルを表示]** ラジオ ボタンを選択します。
7. [テーブルおよびフィールド] ウィンドウの **[総勘定元帳]** で、必要に応じて顧客/仕入先テーブルを選択し、**[次へ]** をクリックします。
8. テーブルの適切なチェック ボックスをオンにして、データベース ログに登録する変更のタイプ (挿入、更新、削除、または名前変更) を選択します。

9. **[次へ]** をクリックします。選択したテーブルとフィールドの詳細を示す [データベースの変更の記録] ウィンドウが表示されます。
10. **終了** をクリックします。

アプリケーション プール アカウムの確認

アプリケーション プール アカウムの正しい Business Connector.NET (BC.NET) Windows 認証情報を使用していることを確認します。

1. [スタート] メニューで、**すべてのプログラム > アクセサリ** の順に選択し、**実行** をクリックします。
2. **inetmgr** と入力し、**OK** をクリックします。
IIS マネージャーが表示されます。
3. アプリケーション プール アカウムの移動します。
4. **DAXKTA** アカウムの選択し、ID が BC.NET Windows 認証情報と同じであることを確認します。
5. 認証情報が異なる場合は、以下の手順を実行します。
 - a. [アクション] パネルで、**詳細設定** をクリックします。
 - b. ID を選択し、**編集** をクリックします。
6. **OK** をクリックします。
[アプリケーション プール ID] ウィンドウが表示されます。
7. **設定** をクリックします。
[認証情報の設定] ウィンドウが表示されます。
8. Dynamics AX 内で BC.NET アカウムの関連付けられているユーザー認証情報を入力します。(Kofax WCF サービスは BC.NET アカウムの使用して Dynamics AX に接続します)。
9. **OK** をクリックします。

第 16 章

TotalAgility と Micro Focus Content Manager の統合

この章では、Micro Focus Content Manager を TotalAgility と統合する手順について説明します。

前提条件

Content Manager サーバーをインストールする前に、次の操作を実行する必要があります。

- ソフトウェアをインストールする
- Content Manager SDK のバージョンを特定する

ソフトウェアをインストールする

次のソフトウェアをインストールします。

- IIS
- .NET Framework 4.6.1
- TotalAgility (オプション)

Content Manager SDK のバージョンを特定する

TRIM SDK 7.3.0 以降の場合は、Web.config の <assemblyBinding> セクションに現在の Content Manager バージョンを入力する必要があります (「[Micro Focus Content Manager サーバーのセットアップ](#)」を参照)。

Content Manager の現在のバージョンを取得するには、次の手順を実行します。

1. **C:\Program Files\Kofax\TotalAgility** ディレクトリに移動します。
2. **TrimSDKPIA20.dll** を右クリックし、**プロパティ** を選択します。
TrimSDKPIA20.dll のプロパティ ウィンドウが表示されます。
3. プロパティ ウィンドウで、**バージョン** タブを選択します。
[ファイルのバージョン] に、現在の Content Manager のバージョンが表示されます。たとえば、7.3.0 などです。

i TRIM SDK 7.3.0 以降の場合、この番号を Web.config の <assemblyBinding> セクションに入力する必要があります (「[Micro Focus Content Manager サーバーのセットアップ](#)」を参照してください)。

Micro Focus Content Manager サーバーのセットアップ

Content Manager サーバーをセットアップするには、次の手順を実行します。

- [TotalAgilityTrimCommunicatorService をインストールして構成する](#)
- [Content Manager システムでイベント ハンドラを構成する](#)

TotalAgilityTrimCommunicatorService をインストールして構成する

Micro Focus Content Manager のバージョン 9.4 以降をインストールして操作するには、次の手順を実行します。

1. ローカル管理者特権を持つアカウントで Content Manager サーバーにログオンします。
2. Content Manager のインストール ファイルの場所から \\ContentManagerInstallation に移動し、実行可能な **Setup.exe** を右クリックして、**管理者として実行** を選択します。
[ユーザー アカウント制御] ウィンドウが表示されます。
3. **はい** をクリックします。
インストール ウィザードが表示されます。
4. **次へ** をクリックします。
セットアップで TotalAgility 統合コンポーネントをインストールする準備が整いました。



- システムに Trim SDK が既に存在する場合、**Trim SDK が検出されました** チェック ボックスがデフォルトで選択されています。**終了** をクリックします。
これは、Content Manager バージョン 9.4 以前にのみ適用されます。バージョン 10 以降では、[Trim SDK が検出されました] チェックボックスは使用できません。
- システムに Trim SDK が存在しない場合は、デフォルトで **Trim SDK が検出されました** チェックボックスが選択解除になり、エラー メッセージが表示されます。また、**終了** ボタンは有効になっていません。このエラーを解決するには、**キャンセル** をクリックし、Content Manager のインストール ファイルの場所から Install CM_COMComponents_x64.msi を実行して Trim SDK を取得します。[Micro Focus Content Manager サーバーのセットアップ](#)を再実行します。

5. Web 構成ファイルを次のように構成します。
 - a. C:\Program Files\Kofax\TotalAgility
\TotalAgilityTrimCommunicatorService の **Web.config** ファイルをテキスト エディタで開きます。

i バージョン 10 以降の Micro Focus Content Manager の場合は、Web 構成 ファイルを次のように構成します。C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\TotalAgilityCMCommunicatorService の **Web.config** ファイルをテキスト エディタ で開きます。

- b. [構成] > [ランタイム] タグを見つけ、<assemblyBinding> セクションを次のように編集します。

```
<assemblyBinding>
<assemblyBinding xmlns="urn:schemas-microsoft-com:asm.v1">
<dependentAssembly>
<assemblyIdentity name="TrimSdkPIA20"
publicKeyToken="533fc65e30e543fa" />
<bindingRedirect oldVersion="6.2.2.8614"
newVersion="<latest version>" />
</dependentAssembly>
</assemblyBinding>
```

<latest version> を **TRIM SDK** のバージョンに置き換えます。「[Content Manager と TotalAgility の統合](#)」を参照してください。

- c. <appSettings> を次のように編集します。

```
<appSettings>
<add key="TrimDocumentRecordType"
value="DocumentRecordType" />
<add key="TrimFolderRecordType"
value="FolderRecordType" />
<add key="WorkGroupServerName" value="ServerName" />
</appSettings>
```

- ドキュメントのレコード タイプを確認して Content Manager サーバーから取得した値で、DocumentRecordType を置き換えます。
- フォルダのレコード タイプを確認して Content Manager サーバーから取得した値で、FolderRecordType を置き換えます。
- サーバーのコンピュータ名で、ServerName を置き換えます。

サーバーのコンピュータ名を特定するには、**Windows エクスプローラー** を開き、**コンピュータ** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。[コンピュータ名、ドメイン およびワークグループの設定] グループで、**設定の変更** をクリックします。コンピュータ名をコピーします。

i TotalAgility Micro Focus Content Manager を初めてインストールすると、ローカル システム ID を持つ TrimIntegrationAppPool が作成されます。Content Manager サーバーがリモートの場合は、これによってエラーが発生します。このエラーを解決するには、TrimIntegrationAppPool ID を更新して、管理者権限を持つアカウントにする必要があります。Content Manager バージョン 10 以降、「TrimIntegrationAppPool」は「CMIntegrationAppPool」と呼ばれます。

Micro Focus Content Manager インストール コンポーネントをアンインストールする前に、必ず Content Manager アプリケーションを閉じてください。

Content Manager バージョンでのイベント ハンドラの構成

Content Manager System のアクションに対応するように TotalAgility イベントを 構成します。

1. 以下の DLL をコピーします。

- バージョン 8 よりも前の Content Manager を使用している場合は、以下の DLL を TRIM バイナリ ディレクトリ (通常は C:\Program Files\Hewlett-Packard\HP Records Manager) にコピーします。
 - **Agility.Server.Integration.Trim.dll**
 - **Agility.Server.Integration.Model.dll**
 - **Agility.Server.Integration.Common**
- バージョン 8 以降の Content Manager を使用している場合は、**Agility.Server.Integration.Trim.dll** を TRIM ディレクトリにコピーします。

i Content Manager 10 以降の場合は、手順 1 と 2 をスキップします。

2. Content Manager が TotalAgility でイベントを発生させることができるようにするには、RegAsm (regasm /codebase Agility.Server.Integration.Trim.dll) を使用して **Agility.Server.Integration.Trim.dll** ファイルを登録します。
3. Content Manager 9.4 以前でイベント ハンドラを作成するには、次の手順を実行します。
- a. **Content Manager** を開きます。
 - b. ツール > コンテキスト管理 > 外部リンク の順に選択します。
[Content Manager コンテキスト外部リンク] ウィンドウが表示されます。
 - c. **新しいレコード アドイン** をクリックします。
[レコード アドインのプロパティ] ウィンドウが表示されます。
 - d. リンク名を入力します。
 - e. **COM アドイン PROGID** フィールドに、ProgId として **Agility.Server.Integration.Trim.TrimIntegrationEventHandler** を入力します。
 - f. **アドインでマルチスレッド環境をサポートする** を選択します。
 - g. **OK** をクリックします。
[Content Manager コンテキスト外部リンク] ウィンドウに、新しいリンクが表示されます。
 - h. リンクを選択し、**プロパティ** をクリックします。
[レコード アドインのプロパティ] ウィンドウが表示されます。
 - i. **使用者** タブをクリックします。
 - j. [レコード] リストの下の [ドキュメントとファイル フォルダ] を確認し、**OK** をクリックします。
これにより、Content Manager のイベント ハンドラが構成されます。

4. Content Manager 10 以降でイベント ハンドラを作成するには、次の手順を実行します。
 - a. **Content Manager** を開きます。
 - b. **コンテキスト管理 > 外部リンク** の順に選択します。
 - c. ウィンドウを右クリックして、**新しい外部リンク** を選択します。
外部リンク タイプの選択 ポップアップが表示されます。
 - d. 外部リンク タイプとして **汎用アドイン (.NET)** を選択し、**OK** をクリックします。
新しい外部リンク - 汎用アドイン (.NET) ダイアログ ボックスが表示されます。デフォルトでは、**[全般]** タブが開いています。
 - e. **リンク名** を入力します。
 - f. **.NET クラス名** として ContentManagerIntegrationEventHandler を入力します。
 - g. **.NET アセンブリパス** の下の **特別なフォルダ内** および **フォルダまたはサブフォルダ フィールド** をデフォルトのままにします。**.NET アセンブリ名** については、**Q** をクリックし、C:\Program Files\Micro Focus\Content Manager を参照し、Agility.Server.Integration.ContentManager.dll を選択します。
 - h. **アドインでマルチスレッド環境をサポートする** を選択します。
 - i. **使用状況 (記録)** タブをクリックします。
 - j. **レコード タイプ** リストで **ドキュメント** および **ファイル フォルダ** オプションを選択し、**OK** をクリックします。
これにより、Content Manager 10 以降でイベント ハンドラが構成されます。
5. Windows エクスプローラーで **trim.exe.config** ファイルを見つけ、テキスト エディタで開き、次のタグを追加または置換します。

i このガイドからコードを切り取って貼り付ける場合、改行に問題があれば修正してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<configuration>
<configSections>
<section name="loggingConfiguration"
type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging.Configuration.LoggingSettings,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging, Version=5.0.505.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=31bf3856ad364e35" requirePermission="true" />
<section name="exceptionHandling"
type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling.Configuration.
ExceptionHandlingSettings,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling,
Version=5.0.505.0, Culture=neutral, PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
requirePermission="true" />
</configSections>
<exceptionHandling>
<exceptionPolicies>
<add name="Agility Exception Policy">
<exceptionTypes>
<add name="All Exceptions" type="System.Exception, mscorlib, Version=4.0.0.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=b77a5c561934e089"
postHandlingAction="NotifyRethrow">
<exceptionHandlers>
<add name="Logging Exception Handler" type=
```



```
"Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling.Logging.
  LoggingExceptionHandler,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling.Logging,
  Version=5.0.505.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=31bf3856ad364e35" logCategory="General"
eventId="100" severity="Error" title="Total Agility"
formatterType=
"Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling.TextExceptionFormatter,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling, Version=5.0.505.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=31bf3856ad364e35" priority="0" />
</exceptionHandlers>
</add>
</exceptionTypes>
</add>
</exceptionPolicies>
</exceptionHandling>
<system.serviceModel>
<bindings>
<basicHttpBinding>
<binding name="BasicHttpBinding_Service" openTimeout="00:10:00"
  closeTimeout="00:10:00"
sendTimeout="00:10:00" receiveTimeout="00:10:00" allowCookies="true"
  maxBufferSize="2147483647"
maxReceivedMessageSize="2147483647" maxBufferPoolSize="524288"> <readerQuotas
  maxDepth="2147483647"
maxStringContentLength="2147483647" maxArrayLength="2147483647"
  maxBytesPerRead="2147483647"
maxNameTableCharCount="2147483647" />
<security mode="TransportCredentialOnly">
<transport clientCredentialType="Windows" />
</security>
</binding>
</basicHttpBinding>
</bindings>
<client>
<endpoint name="CoreIntegrationEventServiceEndpoint"
binding="basicHttpBinding" bindingConfiguration="BasicHttpBinding_Service"
contract="Agility.Server.Core.Model.Interfaces.Services.IIntegrationEventService"
address="http://<TotalAgility server name or IP Address>/TotalAgility/Services/
Core/IntegrationEventService.svc"/>
</client>
</system.serviceModel>
</configuration>
```

i [TotalAgility サーバーの名前または IP アドレス] を TotalAgility サーバーの IP アドレスに置き換えます。

第 17 章

TotalAgility と Kofax SignDoc の統合

この章では、Kofax SignDoc と TotalAgility を統合する手順を説明します。

Kofax SignDoc サーバーをセットアップする

署名の完了時にコールバックを発生させることができるように、適切な TotalAgility サーバーを指すように Kofax SignDoc サーバーを構成します。SignDoc サーバーを SignDoc アカウントごとに構成して、同じ SignDoc サーバーから複数の TotalAgility サーバーへのコールバックを許可することができます。

TotalAgility サーバーを指定するように SignDoc サーバーをセットアップする方法については、『Kofax TotalAgility Designer のヘルプ』の「TotalAgility と KDM の統合」に関するセクションを参照してください。

第 18 章

TotalAgility の起動

1. ブラウザに次の URL を入力します。

`http://[TotalAgility サーバーのホスト名または IP アドレス]/TotalAgility/Designer`

2. インストール時に入力したログイン認証情報を入力します。
TotalAgility Designer がブラウザ内で起動されます。
3. または、**[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[Kofax TotalAgility]** > **[Designer]** をクリックします。

TotalAgility Workspace の起動

1. ブラウザに次の URL を入力します。

`http://[TotalAgility サーバーのホスト名または IP アドレス]/TotalAgility/Forms`

2. インストール時に入力したログイン認証情報を入力します。
TotalAgility Workspace がブラウザ内で起動されます。
3. または、**[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[Kofax TotalAgility]** > **[Workspace]** をクリックします。

TotalAgility Apps の起動

Kofax TotalAgility をインストールまたはアップグレードすると、TotalAgility Apps が自動的にインストールされ、**[スタート]** メニューで使用できるようになります。

1. **[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[Kofax TotalAgility]** > **[TotalAgility Apps]** をクリックします。

または、ブラウザに次の URL を入力します。

`http://[TotalAgility サーバーのホスト名または IP アドレス]/TotalAgility/Designer/#/apps`

2. インストール時に入力したログイン認証情報を入力します。
Kofax TotalAgility Apps のランディング ページが表示されます。

第 19 章

TotalAgility インストールの修復

TotalAgility の修復によって修復されるのはアプリケーションのみです。データベースは修復されません。

正しくインストールされていないすべての TotalAgility 製品コンポーネントを修理するには:

1. **[スタート]>[すべてのプログラム]>[Kofax TotalAgility]** をクリックして、**[Kofax TotalAgility のアンインストールまたは修復]** を選択します。
[修復/アンインストール] ウィンドウが開きます。
2. **[修復]** をクリックし、**[次へ]** をクリックします。
[修復するコンポーネント] ウィンドウが開き、修復可能なすべてのコンポーネントが一覧表示されます。
3. 修復するコンポーネントを選択します。
4. **[参照]** をクリックして、インストール ファイルを選択します。
5. **[次へ]** をクリックします。
[認証情報] ウィンドウが開きます。
6. **[パスワード]** を入力するか、**[システム アカウントとして実行]** チェック ボックスをオンにして、システム認証情報を選択します。
7. **[次へ]** をクリックします。
[修復の進行状況] ウィンドウが開きます。修復が完了すると、**[Kofax TotalAgility の修復が完了しました]** というウィンドウが開きます。サマリー レポートには、修復されたコンポーネント、サーバー、アプリケーション、およびサービスが一覧表示されます。
8. **[終了]** をクリックします。

第 20 章

TotalAgility をアンインストールする

TotalAgility をアンインストールするとアプリケーションのみが削除され、データベースは削除されません。

サイレント モードを使用する場合

1. コマンド プロンプトで、コマンド ラインを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
2. `Setup.exe /Silent /U` を実行します。
TotalAgility がアンインストールされます。
 - ログの概要 `KofaxTotalAgilitySilentUnInstallLog.txt` がデスクトップ上に生成されます。
 - アップグレード中にエラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップに `KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt` というログ ファイルが作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
 - 製品の削除は、イベント ログに記録されます。

i TotalAgility をサイレント モードでアンインストールすると、適用された修正パッチまたはサービス パッチが削除されるだけでなく、TotalAgility アプリケーションが完全に削除されます。TotalAgility を再インストールするには、基本バージョンをインストールしてから、すべてのパッチを適用する必要があります。

インストール ウィザードを使用する場合

1. **[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[TotalAgility]** をクリックして、TotalAgility の **[アンインストールまたは修復]** を選択します。
修復/アンインストール ウィンドウが開きます。
2. **アンインストール** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
3. 製品のアンインストールが通知されるまでメッセージに従って操作し、**終了** をクリックします。
サマリー レポートに、アンインストールされたコンポーネント、サーバー、アプリケーション、およびサービスのリストが示されます。

アップグレード中にエラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップに KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt というログ ファイルが作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

第 21 章

TotalAgility のアップグレード

TotalAgility 7.8.0 (または任意の暫定パッチ) 以降から TotalAgility 8.0.0 に直接アップグレードできます。

この章では、TotalAgility をアップグレードする次の 2 つの方法について説明します。

- [サイレント アップグレード プロセス](#)
- [インタラクティブなアップグレード プロセス](#)

i TotalAgility をアップグレードする前に、TotalAgility アプリケーション プールとすべての TotalAgility サービスが停止しており、データベースがバックアップされていることを確認します。

アップグレードすると、TotalAgility インストーラによって次の構成設定が復元されます。

- すべての既存のアプリケーション設定
- すべての既存のセキュリティ バインディング
- すべての HTTP URL 書き換え

サイレント アップグレード プロセス

TotalAgility のバージョン 8.0.0 へのサイレント アップグレードを実行するには、次の手順を実行します。

1. Setup.exe のルート ディレクトリに移動します。
2. \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
3. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

パラメータ	デフォルト値	説明
IdentityInformation		
UserName	ユーザー名	TotalAgility を実行するユーザーの名前を入力します。
Password	パスワード	TotalAgility を実行するユーザーのパスワードを入力します。
InstallInfo		

パラメータ	デフォルト値	説明
InstallAction	アップグレード	データベースを含む TotalAgility コンポーネントをアップグレードするには、この設定を使用します。
	TotalAgility データベースのアップグレード	<p>TotalAgility コンポーネントをアップグレードする前にデータベースをアップグレードする場合のみ、この設定を使用します。</p> <p>i データベースをアップグレードする前に TotalAgility コンポーネントをアップグレードする場合は、次の手順を実行する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 次の場所にある SilentInstallConfig.xml を開きます。 <pre>\\TotalAgility Installation Information \Kofax TotalAgility</pre> 次のパラメータを使用して <InstallAction> セクションを更新します。<InstallAction> =UpgradedatabasesforexistingTotalAgility 上記のパスから Setup.exe / Silent /U を実行します。
	TotalAgility コンポーネントのアップグレード	TotalAgility コンポーネントのみをアップグレードするには、この設定を使用します。
DatabaseInformation		
IgnoreBrokenFoldersOnUpgrade	false	<p>移行中に無効なデータが見つかった場合、アップグレードは失敗します。</p> <p>true に設定すると、TotalAgility をアップグレードするときに、壊れたフォルダを無視して、キャプチャデータの移行を続行します。</p>
RunCaptureMigrationIgnoringErrors	false	<p>移行中にエラーが発生した場合、無効なデータが含まれているルートフォルダは移行されません。</p> <p>true に設定されている場合は、エラーを無視し、キャプチャデータの移行を続行します。</p>

パラメータ	デフォルト値	説明
StartServices	true	アップグレード インストール後にサービスを自動的に開始します。 アップグレード インストール後にサービスを手動で開始するには、false に設定します。
ImportWorkspacepackage	false	アップグレード インストール後に Workspace パッケージをインポートするには、true に設定します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i Kofax TotalAgility リリース ノートをレビューして、Workspace パッケージに必要な更新をインポートします。</p> </div>

4. 管理者としてコマンド プロンプト ウィンドウを開き、コマンド ラインを Setup.exe のルート ディレクトリに変更します。
5. Setup.exe /Silent /Upgrade を実行します。
 - サイレント構成ファイルで true に設定されたパラメータに基づいて、次の項目が自動的にアップグレードされます。
 - Kofax TotalAgility
 - Kofax エクスポート コネクタ (KIC)
 - Kofax Transformation Designer
 - Kofax エクスポート コネクタのユーティリティ
 - ログの概要 KofaxTotalAgilitySilentInstallLog.txt がデスクトップ上に生成されます。
 - エラー ログが作成されていないことを確認します。アップグレード中にエラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップに KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt というログ ファイルが作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
 - インストールの成功または失敗は、イベント ログに記録されます。
6. ファイルを保存して閉じます。

インタラクティブなアップグレード プロセス

ウィザードを使用して TotalAgility をアップグレードできます。

TotalAgility アップグレードする場合、TotalAgility コンポーネントとデータベースを互いに独立してアップグレードするか、データベースを含む TotalAgility コンポーネントをアップグレードするかを選択できます。

1. Kofax TotalAgility の基本バージョンをインストールします。
2. TotalAgility 8.0.0 インストール ファイルから、TotalAgilityInstall に移動し、**Setup.exe** をダブルクリックします。

3. **[Kofax TotalAgility のアップグレード]** ウィンドウで、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **[TotalAgility コンポーネント]:** コンポーネントのみをアップグレードし、データセンター データベースはアップグレードしません。
 - **[TotalAgility データベース]:** データセンター データベースのみをアップグレードします。
 - **[データベースを含む TotalAgility コンポーネント]:** コンポーネントとデータセンター データベースの両方をアップグレードします。
4. デフォルトでは、サービスは自動的に開始されます。サービスを手動で開始するには、**[サービスの自動開始]** チェック ボックスをオフにして、**[次へ]** をクリックします。
5. Workspace パッケージをインポートするには、**[システム Workspace パッケージのインポート]** のチェック ボックスをオンにして、**[次へ]** をクリックします。(デフォルト: クリア)
TotalAgility コンポーネントのみをアップグレードする場合、**[システム Workspace パッケージのインポート]** オプションは使用できません。
6. **[認証情報]** ウィンドウに認証情報 (パスワードと確認用パスワード) を入力し、**[次へ]** をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開きます。設定を確認し、**[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。
7. **[終了]** をクリックしてインストールを完了します。
エラーが発生した場合、デフォルトでは、TotalAgility によってデスクトップにログ ファイル KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt が作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

追加情報

TotalAgility コンポーネントをアップグレードするときに Kofax TotalAgility データベースもアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

- a. TotalAgility インストール ファイルに移動して、**Setup.exe** をダブルクリックします。
[データベースの修復/アンインストール/アップグレード] ウィンドウが開きます。

i または、**[スタート] > [すべてのプログラム] > [Kofax TotalAgility]** をクリックして [データベースの修復/アンインストール/アップグレード] ウィンドウで [データベースのアップグレード] オプションを選択し、**Kofax TotalAgility** の **[アンインストール]** または **[修復]** を選択します。

- b. **データベースのアップグレード** を選択します。
- c. **次へ** をクリックして、指示に従います。

キャプチャ バイナリ データ ストレージの変更

デフォルトでは、キャプチャ データは SQL Server に保存されます。Amazon S3、Windows Azure BLOB ストレージ、SQL Server とファイル システムなどの事前構成済みの外部データ ストレージ サービスを使用して、キャプチャ データを保存および処理できます。

データベース スクリプトを使用した TotalAgility データベースの手動アップグレード

TotalAgility 7.8.0 以降から TotalAgility 8.0.0 にアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

1. スクリプトを手動で実行するには、`\\TotalAgilityInstall\DatabaseScripts\SQL Server\Upgrade Database Scripts` に移動します。
2. アップグレード元のバージョン以降にリリースされたすべてのバージョンとパッチに対して、一連の変換スクリプトを実行します (スクリプトが存在する場合)。

例: 7.8.0.0 から 8.0.0 にアップグレードする場合は、次の変換スクリプトを実行します。

- 7.8.0.0 から 7.9.0.0 への変換スクリプト
- 7.9.0.0 から 7.10.0.0 への変換スクリプト
- 7.10.0.0 から 7.11.0.0 への変換スクリプト
- 7.11.0.0 から 8.0.0 への変換スクリプト

データベース間で次の順序でスクリプトを実行し、各スクリプト内の指示に従います。

- a. TotalAgility データベース上の `Convert_Main.sql`。
- b. `Convert_Audit.sql` (監査データベースに実行)。
- c. `Convert_Archive.sql` (終了済みジョブ データベースに実行)。

i 監査およびアーカイブ データベースの名前が TotalAgility データベースとして維持されている場合は、`Convert_Audit.sql` および `Convert_Archive.sql` スクリプトを TotalAgility データベースで実行します。

- d. TotalAgility データベース上の `Convert_Forms.sql`。
 - e. TotalAgility データベース上の `Convert_KLS_OnPremise.sql`。
 - f. TotalAgility データベース上の `Convert_KFS.sql`。
 - g. `Convert_DataLayer.sql` (TotalAgility_Documents データベースで実行)。
 - h. レポート データベースに次の conversion スクリプトを実行します。
 - `Kofax Reporting Analytics.SQL_Convert.sql` (TotalAgility_Reporting データベースに実行)。
 - `Kofax Reporting Analytics.Staging.SQL_Convert.sql` (TotalAgility_Reporting_Staging データベースに実行)。
3. `<C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web\bin>` に移動して、**Agility.Installation.Server.Upgrade.exe.config** を開きます。<appSettings> セクションで、次の設定の値を更新します。
 - `<add key="UpgradeFromVersion" value =""/>`。value は、アップグレードの実行元の TotalAgility バージョンです。たとえば、TotalAgility を 7.10.0 から 7.11.0 にアップグレー

ドする場合は、value を次のように設定します。<key="UpgradeFromVersion" value="7.10.0"/>。

- <add key="SystemSessionId" value="" />。TotalAgility Designer またはデータベースからシステム セッション ID を取得します。
- <add key="UserName" value="" />。ユーザー名は現在ログオンしているユーザーの名前です。

データベースを手動でアップグレードする前に TotalAgility コンポーネントがすでにインストールされている場合は、upgrade.exe とその構成ファイルが <C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web\bin> にあります。それ以外の場合は、TotalAgility インストール ファイルからこれらのファイルを実行できます。Agility.Installation.Server.Upgrade.exe.config を開きます。<appSettings> セクションで、次の設定の値を更新します。

- <add key="UpgradeFromVersion" value="" />。value は、アップグレードの実行元の TotalAgility バージョンです。たとえば、TotalAgility を 7.10.0 から 7.11.0 にアップグレードする場合は、value を次のように設定します。<key="UpgradeFromVersion" value="7.10.0"/>。
 - <add key="SystemSessionId" value="" />。TotalAgility Designer またはデータベースからシステム セッション ID を取得します。
 - <add key="UserName" value="" />。ここで、ユーザー名は、現在のログオン ユーザーの名前です。
 - インストール ファイルから実行している場合は、すべてのデータベース接続文字列設定が正しく、InstallDirectory 設定は config ファイルで更新されていることを確認してください。
4. コマンド プロンプトで、Agility.Installation.Server.Upgrade.exe "PreUpgradeDatabaseArtifacts" をパラメータとして渡して、Agility.Installation.Server.Upgrade.exe を実行します。
 5. すべての PostUpgrade_ スクリプトを、対応する Convert_ スクリプトを実行したデータベースに対して実行します。
 6. コマンド プロンプトで、パラメータとして Agility.Installation.Server.Upgrade.exe <ImportWorkspacepackage> (Agility.Installation.Server.Upgrade.exe false など) を渡して、Agility.Installation.Server.Upgrade.exe を再度実行します。Workspace パッケージをインポートするには、パラメータとして Agility.Installation.Server.Upgrade.exe true を渡します。

i ログを生成するには、Agility.Installation.Server.Upgrade.exe.config のシステム診断セクションを更新して、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" InitializeData="[ログ ファイルのパス] [ログ ファイル名]" でログ ファイルのパスを定義します。

7. Kofax TotalAgility Core Worker サービスを手動で開始します。
 - a. 実行時に **Services.msc** と入力して **Enter** キーを押します。
 - b. **Kofax TotalAgility Core Worker** を右クリックし、**開始** をクリックします。

第 22 章

トラブルシューティング

このセクションでは、発生する可能性のある問題とその解決策について説明します。

TotalAgility AppPool が存在する

TotalAgility は TotalAgility AppPool というアプリケーション プールを作成します。インストールまたはアップグレードするときに問題が発生する可能性があるため、同じ名前の既存のアプリケーション プールがないことを確認してください。

ソフトウェア更新プログラムのダウンロード


ftp.kofax.com サイトからインストール パッケージまたはサービス パックをダウンロードする場合、このサイトが信頼できるサイトとして追加されていることを確認してください。追加されていないと、ダウンロードされたファイルが破損する可能性があります。

IPv4 および IPv6 環境でのインストールの失敗

デュアルスタック (IPv4/IPv6) の IPv6 アドレスのみでリスンするように SQL Server が構成されている場合、IPv4 アドレスを使用してクライアント接続を試行すると、失敗し、接続確立ハンドシェイク中に使用されるデフォルトの TCP タイムアウトロジックの影響を受けて、所要時間がデフォルトのタイムアウトよりも長くなることがあります。以降の IPv6 接続は、すぐに成功した場合でも、引き続き失敗する可能性があります。

この問題を解決するには、SQL Server Configuration Manager で IPv4 を無効にします。

1. **SQL Server Configuration Manager** を起動します。
2. TotalAgility サーバー インスタンスの TCP/IP プロトコルの **[プロパティ]** を開きます。
3. **すべてリスン** を **いいえ** に設定します。

 この設定により、TAServerSQLInstance が接続をリスンするインターフェイスを細かく制御できます。


4. **IP アドレス** タブをクリックします。

5. IPv6 ローカル ホスト アドレスである ::1 を除くすべてのエントリーについて、**有効** を **いいえ** に設定します。
6. **OK** を選択して変更をコミットし、サービスの再起動ダイアログで **OK** を選択します。
7. SQL Server (<TAServerInstance>) サービスを再起動します。ここで、TAServerInstance は、TotalAgility によって使用される実際のインスタンス (Kofax TotalAgility など) です。

スキャン後に Workspace にイメージが表示されない

管理者以外のユーザーとしてマシンにログインした場合は、スキャン後に Workspace にイメージが表示されません。管理者ユーザーとしてログインした場合は、イメージが正常に表示されます。

1. WebCapture プラグインの診断ログ ツールである DosadiLog をインストールしていない場合は、今すぐインストールしてください。以下の手順とダウンロードリンクを参照してください。 <http://www.eztwain.com/dosadilog.htm>
2. Web.config ファイルの <system.diagnostics> セクションを次のように編集します。

 このガイドからコードをコピーして貼り付ける場合は、改行を修正してください。

```
<system.diagnostics>
<!--<sources>
<source name="System.ServiceModel"
switchValue="Information, ActivityTracing"
propagateActivity="true">
<listeners>
<add name="traceListener"
type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
initializeData= "c:\log\Traces.svclog" /> </listeners> </source> </sources-->
<trace autoflush="true">
<listeners> <add name="ThinClientServer" traceOutputOptions="DateTime,ThreadId"
type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="c:
\ThinClientServerLog.txt">
<filter type="System.Diagnostics.EventTypeFilter" initializeData="Verbose" /> </
add>
<!--<add type="Microsoft.WindowsAzure.Diagnostics.DiagnosticMonitorTraceListener,
Microsoft.WindowsAzure.Diagnostics, Version=1.0.0.0, Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
name="AzureDiagnostics">
<filter type="" />
</add-->
</listeners>
</trace>
</system.diagnostics>
```

3. 管理者以外のユーザーが確実にログインできるようにするには、信頼できるサイトへのリンクを追加します。
 - a. IE 11 の **インターネット オプション** に移動します。
 - b. **セキュリティ** タブをクリックします。
 - c. **サイト** をクリックします。
 - d. ドメインを [http://\[ドメイン\]](http://[ドメイン]) のような信頼できるサイトに追加します。

Transformation Designer プロジェクトのインポート時の例外

SSL を使用する TotalAgility Web サービスに接続された Transformation Designer を使用してプロジェクトをインポートすると、例外が生成されます。

1. SSL を使用してサーバーを実行する場合は、[SSL 設定] で **[クライアント証明書]** オプションを **[無視]** に設定します。
2. 認証にクライアント証明書を使用するには ([承認] または [必須])、次のいずれかの方法で IIS の `UploadReadAheadSize` の値を設定します。
 - IIS マネージャーの場合:
 - a. TotalAgility サイトの構成エディタを開きます。
 - b. [セクション] リストで、**[system.webServer]** を展開し、**[serverRuntime]** を選択します。
 - c. [発信元] リストで、**[ApplicationHost.config <location path='Default Web Site/Totalgility'/>]** を選択します。
 - d. **uploadReadAheadSize** に適切な値をバイト単位で設定します。

▼ 最深のパス: MACHINE/WEBROOT/APPHOST/Default Web Site/TotalAgility	
alternateHostName	
appConcurrentRequestLimit	5000
authenticatedUserOverride	UseAuthenticatedUser
enabled	True
enableNagling	False
frequentHitThreshold	2
frequentHitTimePeriod	00:00:10
maxRequestEntityAllowed	4294967295
uploadReadAheadSize	83886080

- IIS のメイン構成ファイルを変更します。
 - a. `C:\Windows\System32\inetsrv\config\` ディレクトリにある **applicationHost.config** を開きます。
 - b. `<serverRuntime>` ノードがまだ存在していない場合は `<system.webServer>` 内の `<security>` ノードの下にこのノードを追加します。

```
<location path="Default Web Site">
  <system.webServer>
    <security>
      ...
    </security>
    <serverRuntime uploadReadAheadSize="10485760" />
  </system.webServer>
</location>
```

- c. **uploadReadAheadSize** に適切な値をバイト単位で設定します。

(405) 許可されていないメソッド エラー

TotalAgility のインストール中に、「(405) 許可されていないメソッド」というエラーが発生する場合があります。

この問題を解決するには、IIS に ASP.NET 4.x を再登録します。

1. コマンド プロンプトを開きます。
2. %WINDIR%\Microsoft.NET\Framework\v4.0.30319 に移動します。
3. aspnet_regiis.exe-i を実行します。

MIME のタイプ エラー

IIS からテナント管理または TotalAgility Web サイトにアクセスしようとする、次のエラーが発生して、Web ページがレンダリングされません。Cannot add duplicate collection entry of type mimeMap with unique attribute field Extension set to .xap;

これは、2つの異なる構成ファイル内の MIME タイプが競合していることを示します (たとえば、1つはアプリケーション レベルで、もう1つはサイト レベルの場合など)。

この問題を解決するには、次のいずれかを実行します。

1. 構成ファイルから、2つの競合する mimeMap 拡張機能の1つを削除します。
2. IIS 管理者が競合する MIME マッピングを両方とも必要としている場合は、競合する mimeMap の上に remove タグを追加します。

例: //inetpub/wwwroot/web.config にあるアプリケーション レベルの構成ファイルに、次の mimeMap があるとします。

```
<mimeMap fileExtension=".xap" mimeType="application/octet-stream" /> ;
```

この mimeMap によって、applicationhost.config ファイル内の同じ mimeMap との競合が発生する場合は、次のように、この mimeMap の上に **<remove fileExtension=".xap" />** を追加します。

```
<remove fileExtension=".xap" />  
<mimeMap fileExtension=".xap" mimeType="application/octet-stream" />
```

ここで、.xap は MIME タイプです。

付録 A

一般的な用語

このトピックでは、『TotalAgility インストール ガイド』で使用される一般的な用語について説明します。

コア サービス

コア サービスは、自動アクティビティの実行、ジョブの評価など、バックグラウンドのシステム タスクの実行を担います。

レポート サービス

レポート サービスは、レポート ステージング データベースからキャプチャ データを抽出し、変換してからレポート メイン データベースに書き込みます。このサービスは、CPU 集中型のデータ変換を実行するため、専用サーバーで実行する必要があります。

ライセンス サービス

ライセンス サービスは、ユーザー ライセンスとボリューム ライセンスの数を減らします。

エクスポート サービス

エクスポート サービスは、顧客が選択した格納場所にドキュメントをエクスポートします。エクスポートしたドキュメントは、メインの TotalAgility データベースから削除できます。Docker コンテナの場合、エクスポート コネクタにはコンテナで利用できないような複数の依存関係があるため、エクスポート サービスはコンテナ内で実行できず、ホスト サーバー上で直接実行する必要があります。

Transformation サービス

Transformation サービスはデータベース内で自動キャプチャ アクティビティをポーリングして、イメージ処理、分割、分類、抽出、および PDF 生成を実行します。これらの操作は CPU を集中的に使用するた

め、リアルタイム Transformation サービス モードで実行していない場合に、このサービスを機能させるには、専用サーバーで実行する必要があります。モバイル/キャプチャ API を対象とした拡張機能を顧客に提供するリアルタイム Transformation サービス モードで実行している場合、メモリ内ドキュメントと連携してパフォーマンスを向上させます。

インポート サービス

このサービスは、Message Connector の複数のインスタンスをインストールする場合に使用します。TotalAgility をアンインストールすると、Message Connector のすべてのインスタンスもアンインストールされます。

ストリーミング サービス

TotalAgility Designer でのパッケージのインポートとエクスポートに使用します。IIS はストリームに対して最大 2 GB しかサポートしないため、Windows サービスを使用する必要があります。このサービスは Web サーバーで実行されます。分割された Web/アプリケーションでは、Web 層とアプリケーション層の両方で実行されます。

キャプチャ バイナリ データ ストレージ

デフォルトでは、キャプチャドキュメント、.NET Store DLL、CCM Pack などのバイナリ データは TotalAgility データベースに保存されます。Amazon S3 や Windows Azure Blob ストレージなどの事前構成済みの外部クラウド データ ストレージ サービスを使用して、バイナリ データを保存および処理できます。クラウド サービスは、SQL Server のメンテナンス コストを削減し、メンテナンスを外部サービスに委任し、暗号化するのに役立ちます。ストレージ タイプを Azure/Amazon BLOB ストレージまたは [SQL Server とファイル システム] に変更すると、バイナリ データは選択したストレージ タイプで保存されます。ストレージ タイプを変更すると、後でオフにすることはできません。

FILESTREAM

FILESTREAM は、キャプチャドキュメントが保存されるデータベース内の特定のファイル グループです。SQL Server データベースを使用して、ドキュメントに対してアクションを実行できます。

管理者はこれらのファイル グループを作成します。これらのファイル グループをファイル ストレージ設定に表示するには、FILESTREAM 機能を有効にする必要があります。

1. [スタート] > [プログラム] > [SQL Server Configuration Manager] > [SQL Server のプロパティ] > [FILESTREAM] を選択します。SQL Server Configuration Manager で構成されたファイル グループは、ファイル ストレージ設定にリストされます。
2. キャプチャ バイナリを保存するファイル グループを選択します。

FILESTREAM は SQL Server 認証ではサポートされていません。また、データベースが存在しない場合はサポートされません。

KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.log

KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.log は、インストール中にエラーが発生した場合に作成されるログ ファイルです。Setup.exe.config のシステム診断セクションのパスが定義されていない場合、このファイルは setup.exe の配置場所に作成されます。<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス][ログ ファイル名]" で、ログ ファイルの名前とパスを定義できます。また、ログ ファイルがデスクトップに作成されます。

ETL

ETL (抽出、変換、ロード) は、Kofax TotalAgility レポート サービスの主要部分です。1 つ以上のソースから、ソースとは異なる方法でデータを表す宛先システム、またはソースとは異なるコンテキストでデータを表す宛先システムにデータをコピーする手順として、一般的に使用されます。

L2S

L2S は ETL 実装のバージョンです。このデータベースの 3 つのテーブル (wsa_messages、kfx_db_version、existing_id_values) のみを使用します。

ステージング データベース

ステージング データベースには、wsa_messages テーブルが含まれています。このテーブルの各行は、個別の wsa_message を表します。

i ステージング データベースの他のテーブルは、wsa_messages テーブルからの情報を事前処理するためにレポート サービス 7.9 以前によって使用されます。

wsa_messages テーブル

wsa_messages テーブルは、ステージング データベースのメイン テーブルです。レポート サービスは Kofax.CEBPM.Reporting.AzureETL.exe を定期的に起動して、このテーブルから行を抽出して処理し、結果をウェアハウス データベースに読み込みます。

wsa_message

wsa_message は、ジョブ データの処理中にアクティビティによって生成されたレポート データを格納する構造です。このアクティビティは、TotalAgility アクティビティの実行中および実行後に (バッチ セッション)、レポート ステージング データベースの wsa_messages テーブルに wsa_message を書き込みます。各 wsa_message は、wsa_messages テーブル内の個別の行に対応します。

Kofax.CEBPM.Reporting.AzureETL.exe

Kofax.CEBPM.Reporting.AzureETL.exe は、レポート サービスによって実行される実行可能ファイルです。レポート サービスからのリクエストに応じて ETL 反復を開始し、ETL 反復を中断します。

ETL 反復

ETL 反復は、ETL をサポートするクラスの作成と初期化を行います。Kofax.CEBPM.Reporting.AzureETL.exe によって実行される反復の数は、環境変数 MaxMQ2StagingIterationsNum によって定義されます。

ウェアハウス データベース

ウェアハウス データベースには、wsa_messages の処理結果を収集する一連のテーブルが含まれていません。

完了したバッチ セッション

完成したバッチ セッションは、実行時にアクティビティによって生成された wsa_message のコレクションです。セッション全体を通じてデータベースに書き込まれる複数の BatchEdit wsa_message と、アクティビティ実行の終了時に書き込まれる 1 つの KCBatchAction wsa_message が含まれます。

Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe

Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe は、実行可能ファイルの構成ファイルを暗号化または復号化するために使用されるユーティリティです。